

大 学 院 履 修 案 内

平 成 2 1 年 度

(2 0 0 9 年 度)

慶 應 義 塾 大 学 大 学 院

社 会 学 研 究 科

目次

三田キャンパスガイド	2	第6 試験	19
主な事務室と事務取扱時間		1 試験	19
振鈴表		2 レポート	19
掲示板		第7 学生総合センター	20
校舎と教室番号		1 窓口案内	20
三田キャンパスマップ		2 学生生活支援	20
第1 学事関連スケジュール(三田)	4	3 遺失物の取扱い	21
第2 学籍(休学・留学・退学)	8	4 奨学金	21
1 休学	8	5 就職・進路支援	21
2 留学	8	6 学生相談室	21
3 退学	8	7 学生健康保険互助組合	21
海外の教育機関に留学する場合の取扱い	9	8 学生教育研究災害傷害保険	22
第3 学生証・諸届・証明書	10	9 任意加入の補償制度	22
1 学生証	10	定期健康診断	23
2 住所変更(本人・保証人)	10	第8 履修要項	24
3 保証人変更	10	1 開講科目と履修単位数	24
4 改姓・改名	10	2 課程修了にいたるまでの要件	26
5 国籍変更	10	3 プロジェクト科目Ⅰ,Ⅱ (修士課程・博士課程共通, 社会学研究科・文学研究科共通)	26
6 通学区間の変更	10	4 他大学大学院との相互科目履修	29
7 証明書(成績証明書・学割証等)	11	5 学位請求論文	29
第4 Webシステム	12	6 単位取得退学および在学期間延長	32
1 Webシステム概要	12	7 社会学研究科紀要	34
2 Webシステム操作上の注意	13	第9 講義要綱	35
3 パスワード再発行	13	修士課程設置	
第5 履修・授業・成績	14	社会学専攻	36
1 履修申告	14	心理学専攻	49
2 教員を訪ねる場合	17	教育学専攻	54
3 教室使用申請(三田)	17	博士課程設置	
4 緊急時における授業の取扱い	17	社会学専攻	61
5 早慶野球戦時における授業の取扱い	17	心理学専攻	74
6 成績	18	教育学専攻	79
第6 試験	19	他大学大学院との相互科目履修に関する協定	85
1 試験	19	関係規程抜粋	86
2 レポート	19		
第7 学生総合センター	20		
1 窓口案内	20		
2 学生生活支援	20		
3 遺失物の取扱い	21		
4 奨学金	21		
5 就職・進路支援	21		
6 学生相談室	21		
7 学生健康保険互助組合	21		
8 学生教育研究災害傷害保険	22		
9 任意加入の補償制度	22		
定期健康診断	23		
第8 履修要項	24		
1 開講科目と履修単位数	24		
2 課程修了にいたるまでの要件	26		
3 プロジェクト科目Ⅰ,Ⅱ (修士課程・博士課程共通, 社会学研究科・文学研究科共通)	26		
4 他大学大学院との相互科目履修	29		
5 学位請求論文	29		
6 単位取得退学および在学期間延長	32		
7 社会学研究科紀要	34		
第9 講義要綱	35		
修士課程設置			
社会学専攻	36		
心理学専攻	49		
教育学専攻	54		
博士課程設置			
社会学専攻	61		
心理学専攻	74		
教育学専攻	79		
他大学大学院との相互科目履修に関する協定	85		
関係規程抜粋	86		

三田キャンパスガイド

主な事務室と事務取扱時間

事務室	主な業務	事務取扱時間	場所
学事センター	履修・授業・成績	授業期間中 平日 8:45～16:45 ※休業期間中の11:30～12:30は閉室	5月下旬以前 南校舎地下1階 5月下旬以後 大学院校舎1階
学生総合センター	学生生活・奨学金・就職		5月下旬以前 南校舎地下1階 5月下旬以後 仮設A棟
	学生相談	平日 9:30～11:30/12:30～16:30	西校舎地下2階
国際センター	留学	授業期間中 平日 8:45～16:45 ※休業期間中の11:30～12:30は閉室	5月下旬以前 南校舎1階 5月下旬以後 仮設A棟
教職課程センター	教職課程		南館地下1階
保健管理センター	健康診断・ヘルスケア	平日 8:45～11:30/13:00～16:15	北館1階
三田ITC	keio.jp, PC関連	授業期間中 平日 8:45～18:15 ※休業期間中は8:45～17:00	大学院校舎地下1階

- ※ 南校舎の建て替え工事に伴い、学事センターと学生総合センター、国際センターの事務室はそれぞれ5月下旬までに移転する予定です。詳細は掲示とホームページで適時お知らせします。
- ※ 土曜、日曜、祝日、大学が定める休日および大学の事務一斉休業期間（三田）は閉室します。
大学が定める休日 … 1月10日（福澤先生誕生記念日）、4月23日（開校記念日）
大学の事務一斉休業期間（三田）… 8月中旬および年末年始
- ※ 変更等は適時ホームページ「塾生の皆様へ」でお知らせします。

振鈴表

時 限	授業期間	定期試験期間	
	三田・日吉	三 田	日 吉
第1時限	9:00～10:30	9:00～10:30	9:30～10:30
第2時限	10:45～12:15	10:45～12:15	10:50～11:50
第3時限	13:00～14:30	13:00～14:30	12:50～13:50
第4時限	14:45～16:15	14:45～16:15	14:10～15:10
第5時限	16:30～18:00	16:30～18:00	15:30～16:30
第6時限	18:10～19:40	18:15～19:45	16:50～17:50

掲 示 板

大学院の掲示板は大学院校舎1階に研究科ごとに設置しています。学部の掲示板は西校舎正面入口と西校舎地下1階、地下2階にあります。他研究科、学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している研究科、学部の掲示板を確認してください。諸研究所・センターの設置科目・講座等については、各研究科掲示板の右側にある「共通」掲示板と、西校舎の学部共通掲示板を確認してください。他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を確認してください。主な掲示内容は、授業の休講・補講、時間割の変更、教室の変更、緊急通達、各種試験の実施要項、学事日程、呼出等です。掲示内容の一部については学事Webシステム、塾生ページでも確認できます（「第4 Webシステム」の項を参照してください）。

学事センター（社会学研究科担当）からのお知らせ：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/sha/index.html>

校舎と教室番号

第一校舎	大学院校舎	西校舎	南館	※南別館	※仮設教室
101～147	313, 321-A～375-C	501～545 西校舎ホール	2B11～2B42	621～672	K11

- ※ 「仮設教室」は、「西校舎」地下2階の出口近辺に建設し、2009年4月に竣工する予定です。
- ※ 「南別館」は正門を出て直進数十メートルの距離にありますが、時間には十分な余裕をもって移動してください。信号待ち、混雑状況等によっては、定刻に間に合わないことも考えられます。

第1

学事関連スケジュール (三田)

2009年
4月

授業期間

休業期間

休日

日 月 火 水 木 金 土

			1 成績証明書発行開始 (12:30)	2	3 情報処理教育室設置講座 ガイダンス (10:45~12:15 515教室)	4
5	6 国際センター在外研修プログラムガイ ダンス(10:45~12:15 526教室) 教育実習事前指導I (大学院2年 生以上の2009年度実習予定者) (14:45~15:45 519教室)	7 大学院入学式 (9:00~西校舎ホール) 履修案内等資料配付 (11:30~13:00 133教室) ガイダンス※	8 春学期授業開始	9	10	11
Web 履修申告期間 (10日 16:00~16日 10:00)						
12	13	14	15	16 履修申告用紙による履修申告	17	18
Web 履修申告期間 (10日 16:00~16日 10:00)						
19	20 学事 Web システム履修 科目確認画面稼働開始 (9:00~)	21	22	23 開校記念日	24	25
26	27	28	29 昭和の日	30 在学料等納入期限 (全納または春学期分納)	※4月7日のガイダンス詳細は下欄参照 下旬 定期健康診断	

5月

					1	2
					上旬 履修申告科目確認表送付(本人宛) 上旬 定期健康診断	
3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7 修士2年修了見込証明書 博士3年単位取得見込証明書発行開始 履修エラー修正期間(7日~11日予定)	8	9 ※土日は取り扱いしません。
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30 早慶野球戦(予定)
31						

6月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

ガイダンス日程

社会学研究科全体ガイダンス	4月7日(火) 13時00分 ~ 517 教室
専攻別ガイダンス(全体ガイダンス終了後)	社会学専攻 516 教室 心理学専攻 514 教室 教育学専攻 515 教室
教職課程ガイダンス(大学院生対象)	4月7日(火) 16時30分 ~ 515 教室
プロジェクト科目全体ガイダンス	4月7日(火) 17時00分 ~ 516 教室
プロジェクト科目個別ガイダンス	4月7日(火) プロジェクト全体ガイダンス終了後

7月

※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10 補講日	11
12	13	14	15 春学期授業終了	16 春学期末定期試験 (~27日予定)(この期間 は授業は行われません)	17	18
19	20 海の日	21	22	23	24	25
26	27	28 夏季休業(~9月23日)	29	30	31	

8月

						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
三田キャンパス一斉休業(9日~15日)						
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18 9月学位授与式	19
20	21 敬老の日	22 国民の休日	23 秋分の日	24 秋学期ガイダンス ※社会学研究科のガイ ダンスはありません	25 秋学期授業開始	26
27	28	29	30			

注意事項

・代替講義日

月曜代替講義日(1月15日(金))には、月曜開講の授業が行われます。月曜開講の授業を履修している学生は、代替講義日に注意してください(代替講義日には、月曜以外の曜日の授業は行われません)。

・補講日

補講日(7月10日(金)、11月18日(水)午前、1月20日(水))には、実際の授業開講曜日にかかわらず、補講を行うことがあります。補講実施科目については、休講・補講掲示で確認してください(補講日に設定されている曜日の授業は、補講にならない限り行われません)。また、補講日以外の通常授業時でも補講を行うことがありますので、掲示板をよく確認してください。

・土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務室の閉室期間には、学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。なお、ここに記載されている期間以外でも窓口を閉めることがあります。随時、掲示およびHPにてお知らせします。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/life/mado/index.html>

・諸般の事情により、日程・教室等が変更されることがあります。変更があった場合は、学内掲示板にてお知らせします。掲示に注意しなかったために、自身が不利益を被ることもありますので、必ず注意してください。

・社会学研究科掲示板、共通掲示板、学部掲示板、諸研究所掲示板等に注意してください。

10月

日

月

火

水

木

金

授業期間

休業期間

休日

					1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	
11	12 体育の日	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30 在学料等納入期限 (秋学期分納)	31 早慶野球戦(予定)	

11月

※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

1	2	3 文化の日	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
小泉信三記念大学院特別奨学金出願期間(9日~13日)						
15	16	17	18 補講日(午前) 三田祭準備(午後)	19 三田祭準備	20 三田祭	21 三田祭 ※土・日は取り扱いません。
22 三田祭	23 勤労感謝の日 三田祭	24 三田祭片付け	25	26	27	28
修士学位請求論文題目届提出、博士学位請求論文研究計画書提出(20日~30日)						
29	30	休学願提出期限(今年度分)				

12月

		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23 天皇誕生日 冬季休業(~1月5日)	24	25	26
27	28	29	30	31		
三田キャンパス一斉休業(29日~1月5日)						

2010年
1月

※「月曜代替講義日」には実際の曜日にかかわらず月曜日として授業が行われます。
※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土
					1 元日	2
					三田キャンパス一斉休業（～5日）	
3	4	5	6 授業開始	7	8	9
10 福澤先生 誕生記念日	11 成人の日	12	13	14	15 月曜代替講義日	16
17	18	19	20 補講日 秋学期授業終了	21 秋学期末定期試験 （～2月3日予定）（この期 間は授業は行われません）	22	23
24	25	26	27	28	29	30
		博士課程在学期間延長願・単位取得退学届提出（26日～2月1日）				
31						※土・日は取り扱いしません。

2月

	1 修士学位論文提出 （1日のみ10:00～11:30. 12:30～14:00）	2	3 福澤先生命日	4	5	6
7	8	9	10	11 建国記念の日	12	13
14	15	16	17	18	19 修士論文面接	20
21	22	23	24	25	26	27
28	上旬～3月下旬 春季休業					

3月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10 修士課程修了者発表	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21 春分の日	22 振替休日	23	24	25	26	27
28 学位授与式	29	30	31	中旬 学業成績表送付（本人宛）		

1 休学

(1) 休学願

「休学願」提出期限：当該年度の11月末日の事務取扱日

休学希望者は、期限までに指導教授と面接し、所定の「休学願」に指導教授の承認印を受け、学事センターに提出してください。

病気・怪我を理由に休学をする場合は、医師の診断書が必要です。

休学期間は当該年度末(3月31日)までとなります。休学が次の年度に及ぶ場合はあらためて「休学願」を提出してください。

(2) 就学届

休学期間が終了し、再び学業に戻る場合は、速やかに所定の「就学届」を提出してください。

病気・怪我を理由に休学をしていた場合は、医師の診断書が必要です。

2 留学

(1) 国外留学申請

研究科委員会が教育上有益と認めるときは、休学することなく外国の大学の大学院に留学することを許可することがあります。

留学を希望する場合は、あらかじめ学事センターで確認・相談のうえ必要書類を用意し、所定の「国外留学申請書」を学事センターに提出してください。また、指導教授と面接し、研究科委員会での承認も必要です。これらを含めて出発の1ヶ月前までに済ませてください。

その他留学に関する詳細については「海外の教育機関に留学する場合の取扱い」を参照してください。

(2) 就学届

留学期間が終了し再び学業に戻る場合は、速やかに所定の「就学届」を提出してください。

(3) 留学に伴う単位認定

10単位を超えない範囲で慶應義塾大学での履修単位として認定することがあります。認定を希望する場合は、「就学届」の提出とあわせて、所定の「留学に伴う単位申請書」と留学先での成績証明書、講義要綱を用意して学事センターで確認・相談をしてください。

3 退学

(1) 自主退学

事情により退学をする場合は、所定の「退学届」を学事センターに提出し、学生証を返却してください。「退学届」には、退学の具体的理由、保証人連署、本人および保証人の捺印が必要です(本人と保証人は異なる印を使用してください)。

(2) 退学処分

① 学則第128条において、同一研究科に在学し得る最長年限は、修士課程においては4年、後期博士課程においては6年と定められており、この年限を越える者は退学処分となります。

② 大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められたとき、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できないときなどには学則第161条により退学処分となります。

(3) 単位取得退学(博士課程のみ)

「第8 履修要項」の項を参照してください。

海外の教育機関に留学する場合の取扱い（社会学研究科）

在学中に留学を希望する場合、学籍は「留学」と「休学」に分けられます。

		留 学	休 学
種 類		「交換留学」「奨学金による留学」「私費留学」の3つの区別あり。研究科委員会において適正と認められた海外の大学で、正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）のみ「留学」として認められる。	語学研修やその他左記の留学として認定されない場合。
期 間	対 象 期 間	「留学」の開始日から最長1年間まで。 年度途中で開始し、年度途中で終了することが可能。 [例] 2009.9.22～2010.9.21	提出年度の4月1日から年度末日（翌年3月31日）までの1年間。休学開始日にかかわらず、当該年度はすべて休学扱いとなる。申請期日はその年度の11月末日の事務取扱日まで。
	延 長	2回まで可能。最長で留学開始日から3年間まで。4年日以降は「休学」。延長をする場合は所定の「国外留学申請書」の再提出が必要。	年度をまたいで休学する場合、新年度に「休学願」の再提出が必要。
学 費 ・ 渡 航 費	学 費 減 免 措 置	【交換留学・奨学金による留学】 1年目：減免制度なし。 2年日以降：減免される場合あり。 留学開始日から1年ないし2年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）および実験実習費の半額を免除。（留学許可通知とともに申請書類を保証人宛に送付します） 【私費留学】 （留学開始日が平成18年4月1日以降の者のみ適用） 「私費留学」により在学しなかった期間（学期単位）に対し、その学期の属する年度の在学料および実験実習費について、年額の4分の1を学期毎に免除。免除される期間は最長6学期まで。ただし、留学期間中に交換または奨学金による留学が含まれる場合は、その期間に該当する学期を含んで6学期まで。	減免制度なし。
	渡 航 費 補 助	「交換留学」または「奨学金による留学」の場合は渡航費が補助される場合あり。窓口は国際センター。	渡航費補助制度なし。
単 位 取 得 ・ 認 定	留 学 期 間 を は さ む 履 修	年度途中から留学する場合、留学前に履修申告した科目を留学後に継続履修し、単位取得することが可能。ただし、同一科目同一担当者であることが条件（留学前に科目担当者に留学後に継続履修する意志があることを伝えておく必要あり）。	休学開始日にかかわらず、当該年度の1年間はすべて休学扱いとなるため、年度途中から休学する場合、履修申告した科目は全て削除となる。 [例] 秋学期から休学をしても、春学期終了科目など既に取得した当該年度の単位はすべて削除。
	留 学 先 で 取 得 し た 単 位	10単位を超えない範囲で、慶應義塾大学の単位として認定される場合あり。認定希望の場合は、帰国後速やかに学事センターに申し出、「就学届」提出時に要申請。	単位認定なし。
在 学 年 数 へ の 算 入	進 級 ・ 卒 業 （ 修 了 ）	1年間に限り留学期間を在学年数に算入する場合あり。ただし、遡及卒業（修了）は不可能。希望する場合は学事センターまで。	在学年数に算入されない。（ただし、実質的な在学年数にかかわらず、休学中も最高学年まで進級します。）

1 学生証

学生証は本大学大学院生であることを証明する身分証明書です。様々な場面で必要になるので常に携帯してください。

(1) 再交付

学生証または学生証裏面シールを紛失、汚損した場合は、速やかに学事センターで再交付を受けてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

- 必要書類 (<所定用紙>は学事センターにあります)

証明書用写真(縦4cm横3cm, カラー光沢仕上げ, 脱帽, 上半身正面, 背景なし, 3ヶ月以内に撮影されたもの), 2,000円(証紙※証紙は学事センター内の券売機で販売しています), 学生証再交付願<所定用紙>

(2) 学生証の返却

再交付を受けた後に前の学生証が見つかった場合、また、退学・卒業等で離籍した場合はただちに学事センターへ返却してください。

(3) 国際学生証

国際学生証については生協事務室に問い合わせてください。(TEL:03-3455-6651)

2 住所変更(本人・保証人)

住所(本人・保証人)を変更した場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。住居表示・地番変更の場合も届け出てください。本人の住所変更の場合、学生証裏面シールの記載事項変更も同時に行い、窓口で証明印を受けてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

- 必要書類 (<所定用紙>は学事センターにあります)

学生証, 在学カード<所定用紙>

3 保証人変更

保証人を変更する場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。保証人は日本国内に居住し一家計を立てている成年者で、本人の学費と一身上に関する一切の責任を負うことのできる者とし、父または母としてください。父母が保証人となり得ない場合は、兄、姉、伯父、伯母等後見人またはこれに準ずる方としてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

- 必要書類 (<所定用紙>は学事センターにあります)

学生証, 保証人変更届<所定用紙>, 在学カード<所定用紙>, 誓約書(本人・新保証人押印)<所定用紙>, 新保証人の住民票

4 改姓・改名

改姓・改名をした場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。届出後、履修中の科目担当者に必ずその旨申し出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

- 必要書類 (<所定用紙>は学事センターにあります)

学生証, 改姓(名)届<所定用紙>, 在学カード<所定用紙>, 誓約書(本人・保証人押印)<所定用紙>, 学生証再交付願(写真貼付<縦4cm横3cmカラー光沢仕上げ, 脱帽, 上半身正面, 背景なし, 3ヶ月以内に撮影されたもの>, 手数料不要)<所定用紙>, 新姓名の戸籍抄本

5 国籍変更

国籍を変更した場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

- 必要書類

学生証, 戸籍謄本(コピーでも可), 住民票

6 通学区間の変更

住所変更等に伴い学生証裏面に記入している通学区間を変更する場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

通学定期券の発売区間は「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は、必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。なお、通学区間が適正でない場合は、通学定期券の発売が停止されます。

- 必要書類

学生証

7 証明書（成績証明書・学割証等）

(1) 証明書自動発行機

設置場所と利用時間（他キャンパス（日吉・矢上・藤沢・芝共立）に設置されている発行機も利用できます。）

－南校舎1階（中庭側） 月～土 9:00-20:00 ※授業・定期試験のない土曜日は利用できません。

－学事センター内事務室 月～金 8:45-16:45 ※授業・定期試験のない日は8:45-11:30/12:30-16:45

5月下旬からの南校舎建て替え工事に伴う設置場所の移転先情報や、メンテナンス・故障等による利用停止情報等は、適時HP等でお知らせします。 <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shoumei/index.html>

(2) 証明書の厳封

厳封を希望する場合は窓口で申し込んでください。発行済みの証明書を後から厳封することはできません。なお、厳封には手数料はかかりませんが、発行する証明書の枚数分の手料は必要です。

(3) 代理人による申請

代理人による証明書の申請は、学生本人が大学に行くことが困難な場合（留学中、入院中等）に限り受け付けます。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類

本人の学生証の写し、委任状、代理人の身分証明書

※委任状に所定の書式はありません。例を参照のうえ、学生本人の意思が確認できるように作成してください。

【例】委任状

私「（本人氏名）」は、「（代理人氏名）」に、証明書の申込みと受け取りを一任します。

20×年○月△日・本人署名・捺印

※身分証明書とは、慶應義塾大学学生証、免許証、パスポート、健康保険証、外国人登録証明書、住民基本台帳カード（写真付のもの）を原則とします。社員証、他大学学生証等は受け付けません。

(4) 証明書一覧

証明書	言語	手数料	発行場所	発行日数	発行開始日	備考
在学証明書	和文 英文	200円	自動発行機	即日	4月1日	
成績証明書	和文 英文	200円	自動発行機	即日	4月1日	
修士課程修了見込証明書	和文 英文	200円	自動発行機	即日	5月7日	修士課程2年生のみ発行されます。
修士課程修了見込付成績証明書	和文	400円	自動発行機	即日	5月7日	修士課程2年生のみ発行されます。
教育課程終了見込証明書 （単位取得退学見込証明書）	和文 英文	200円	窓口	数日 ^(注)	—	
履修科目証明書	和文	200円	自動発行機	即日	6月1日	
	英文	200円	窓口	即日		
健康診断証明書	和文	200円	自動発行機	即日	6月中旬	受診した年度の年度末まで発行できます。
	英文		保健管理センターにお問い合わせください（TEL:03-5427-1607）			
学割証	和文	無料	自動発行機	即日	4月1日	定期健康診断を未受診の場合は発行できません。1人1日10枚まで発行できます。
通学証明書	和文	無料	窓口	即日	—	学生証で購入できない区間またはバスを利用する際に必要な証明書です
各種資格試験等受験用単位取得証明書 提出先所定の用紙（リクエストフォーム） に証明を要するもの	和文	200円	窓口	数日 ^(注)	—	
博士学位申請中証明書	和文	200円	窓口	数日 ^(注)	—	
	英文					
前学籍（学部）成績証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	1978年3月31日以降の学部卒業者のみ。
前学籍（学部）卒業証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	
前学籍（修士）成績証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	1991年3月31日以降の修士修了者のみ。
前学籍（修士）修了証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	

(注)発行までに時間がかかる場合がありますので、余裕を持って申請してください。

※証明書発行には学生証が必要です。

※2002年度以前入学者が初めて英文の証明書を発行する場合は、窓口に出してください。

※学割証の有効期限は発行日から3ヶ月以内です（有効期間内でも学籍を失った場合は無効）。必要な枚数だけ発行するようにしてください。

※特別学割証と団体旅行申込書（団体割引）を発行する場合は、窓口に出してください。

※学費未納の場合は、すべての証明書が発行できません。

1 Webシステム概要

インターネットに繋がるパソコンがあれば、各種サービスを利用できます。

「塾生の皆様へ」ホームページ	
URL	http://www.gakuji.keio.ac.jp/
概要	塾生の皆様に向けて各種情報を提供するポータルサイトです。最新のお知らせや各種ホームページのリンク等を提供しています。
主な提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業 / 履修 / 試験 ・ 履修案内 / 講義要綱 / 時間割 (PDF) の公開 / 修了発表 (学籍番号のみ公開) 等 ■ 学生生活 / 進路 ・ 窓口利用案内 / イベントや奨学金についての情報等

学事 Web システム	
URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
ID/パスワード	学籍番号 / 学事 Web パスワード
マニュアル	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
概要	履修申告や登録済科目の確認、休講・補講情報の確認等ができます。学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知した学事 Web パスワードが必要です。パスワードを忘れた場合は学事センターにお問い合わせください。
主な提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 履修申告 時間割や登録番号から科目を選択し履修申告を行うシステムです。履修申告期間に何度でも申告内容の修正が行えます。受付期間中に時間割が変更する場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要があれば締め切りまでに申告の修正を行ってください。 ■ 履修確認 一定の期間に履修中科目の一覧を表示します。ただし、表示される履修中科目は暫定的な内容となります。最終的な履修科目は、履修申告科目確認表で確認してください。 ■ 休講・補講 休講・補講のある授業の一覧が表示されます。携帯端末からも利用できます。ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、直前にも掲示板を確認するようにしてください。 ■ 連絡・呼出 事務室からのお知らせやキャンパスの掲示板に掲示される呼出がある場合は、学事 Web システムにログインした直後にメッセージが表示されます。連絡・呼出は、携帯端末からのログイン時にも表示されます。

keio.jp (共通認証システム)	
URL	http://keio.jp/
ID/パスワード	慶應 ID / パスワード
マニュアル	http://keiojp.itc.keio.ac.jp
概要	共通の ID (慶應 ID) で様々なサービスを提供するためのシステムです。利用するには、慶應 ID の取得 (アクティベーション) が必要です。また、一部のサービスでは、厳密に個人認証を行うために第 2 パスワードとして学事 Web パスワードが必要となる場合もあります。
主な提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学業成績表閲覧 ※学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 本人へ郵送した学業成績表の原本から、個人を特定できる項目を除いた学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は、学部・研究科、学年等で異なります。詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。 ■ 健診結果お知らせ ※学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 当該年度に受診した学生のみ健康診断の結果の閲覧ができます。閲覧開始時期は健診受診時にお知らせします。結果についての質問等は保健管理センターにお問い合わせください。 ■ 就職・進路支援システム 進路希望, 進路届, 就職体験記, 求人票等 ■ その他 ・ 慶應メール / 教育支援システム等 (詳しくは上記のマニュアルページでご確認ください)
慶應 ID 取得	慶應 ID を取得していない方は「アクティベーション」を行ってください。その際に個人認証として学籍番号と学事 Web パスワードが必要です。詳細は、以下を参照してください。 http://keiojp.itc.keio.ac.jp/manual/activation/stdact.html アクティベーションは 1 度しかできません。慶應 ID や設定したパスワードを忘れてしまった場合は、各キャンパスの ITC 窓口にお問い合わせください。

2 Webシステム操作上の注意

- (1) 複数のブラウザーを起動して同時にログインしないでください。
- (2) Web システムにログインした後は、ブラウザーの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- (3) Web システムへログインしたまま長時間画面の前から離れた際に他人に悪用されないようにする等のセキュリティ上の目的で、長時間同じ画面が表示された場合は、次の画面には進めないようになっています。そのような場合は、一旦ブラウザーを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザーを起動し直してください。
- (4) 氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。
- (5) Web システムは、推奨された環境ではない場合や各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わない場合は、ログインできないことがあります。推奨環境, 設定方法, 操作方法については、各 Web システムのマニュアルを参照してください。

3 パスワード再発行

各 Web システムのパスワード再発行窓口は以下のとおりです。

	ログイン ID	ログインパスワード	再発行窓口	必要書類
学事 Web システム	学籍番号	学事 Web システムパスワード	学事センター	学生証
Web エントリーシステム	学籍番号	学事 Web システムパスワード	学事センター	学生証
keio.jp (共通認証システム)	慶應 ID	keio.jp パスワード	三田 ITC	学生証・慶應 ID
塾生の皆様へ	不 要	不 要	—	—

三田キャンパス内の PC を利用するための ID およびパスワードは三田 ITC で再発行できます。

1 履修申告

履修申告の際は本書を熟読し、必ず指導教授と相談の上で各自責任を持って履修申告を行ってください。また、修士課程・博士課程ともにすでに課程修了に必要な単位を修得済みであっても、最低1科目は申告してください。

なお、指導教授は入試時の希望をもとに研究科委員会で決定します。また博士課程では、これとあわせて副指導教授を決定します。修士課程においても指導教授が必要と認めた場合には、研究科委員会の承認のうえで副指導教授をおくことができます。なお、指導教授は本研究科委員、副指導教授は原則として本研究科の授業を担当する本塾専任教員があたります。

本研究科の学習指導は、社会学専攻：鈴木正崇、心理学専攻：山本淳一、教育学専攻：山本正身の各委員です。

履修の方法について不明な点がある場合には、指導教授、学習指導担当教員または学事センター社会学研究科担当にお問い合わせください。

特に修士課程（前期博士課程）修了後、後期博士課程に進学する場合は、専攻に必要な授業科目を履修していることが受験の条件になるので注意してください。

(1) 履修申告方法

学事 Web システムによる申告期間	4月10日(金) 16:00 ~ 4月16日(木) 10:00
学事 Web システム URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
※ 操作方法・注意は学事 Web システムのオンラインマニュアルを参照してください。	

① 履修申告期間前

- a 最新の学業成績表ですでに取得している科目・単位を確認し、本項や「第8 履修要項」の項を正確に理解し、「講義要綱・シラバス」等本冊子の各部を参照のうえ、今年度の履修計画をたててください。
- b 履修に関する疑問点その他を指導教授または学習指導、学事センターで確認しておいてください。
- c 住所等が変わっている場合は、「第3 学生証・諸届・証明書」の項を参照し、「住所変更届」等を提出してください。履修・修了等にかかわる連絡は、大学に届け出のある住所に郵送します。

② 履修申告期間中

- a 学事 Web システムにより履修申告をしてください。
期間最終日に初めて申告するのではなく、期間中の早い時期に申告してください。期間中は何度でも申告内容の修正ができます。なお、毎日午前4時から1時間程度は定期メンテナンスのためシステムの稼働を停止します。
- b 時間割が変更すること等がありますので、随時掲示版等で最新の情報を確認してください。
※登録していない授業科目を受験しても一切無効です。単位は取得できません。
※期日までに履修申告をしない場合は、修学の意志がないものとして退学処分になります。(学則第161条)
※やむを得ない理由がある場合は、Webによらずに履修申告をすることができます。本項の「履修申告用紙による履修申告」を参照してください。

③ 履修申告期間後

- a 履修の変更・追加・取消は原則として認めません。また、閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録科目の一覧画面を印刷し、時間割とともに控えとして保管してください。
- b 5月上旬に、「履修申告科目確認表」(申告した科目のリスト)を、大学に届出のある本人の住所宛に郵送します。履修申告科目確認表を見て、登録エラーや科目間違い等の有無を必ず確認のうえ、修正期間中に学事センター窓口申し出て修正を行ってください。

- c 修正期間は掲示で案内します(送付後約一週間の予定)。この期間経過後は本年度の履修確認が終了したものとみなし、履修内容は確定されます。以上を怠ったために生じた問題(申告漏れ、科目間違い等により、結果として修了単位不足となる、住所変更届が未提出であったために確認表が届かない等)について大学は一切責任を持ちません。

(2) 履修科目の登録方法

- ① 授業科目名, 担当者名と登録番号(5桁)を十分確認してください。
- ② 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。集中講義等, 曜日・時限が複数にわたって開講している授業科目についても, 登録番号は1つだけです。その登録番号を1つ登録することで他の時限についても登録されます。この場合, どの曜日・時限にも別の科目を登録することはできません。
- ③ 社会学研究科設置科目のうち, 他研究科と併設している科目については, 必ず社会学研究科の設置科目を履修しなければなりません。社会学研究科の時間割で登録番号を確認してください。
- ④ 履修科目により, 登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合(「A欄」申告)と, 各自分野を選択しなければならない場合(「B欄」申告: 2桁のB欄分野番号を登録)があります。どちらの欄で登録するかは次ページ(4)を参照してください。

(3) 履修申告用紙による履修申告

やむを得ない理由で Web による履修申告が行えない場合には, 用紙によって履修申告をしてください。学事 Web システムによる申告と併用はできません(すべての科目をどちらか一方の方法により申告してください)。履修申告用紙による申告日は, 4月16日(木) 8:45~10:00 です。希望者は以下の注意事項をすべて把握したうえで学事センターに所定の申告用紙の入手を申し出てください。

- ① HB か B の鉛筆を使用してください。
- ② 研究科, 専攻, 学年, 氏名, 学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに, 該当する数字をマークしてください。
- ③ A 欄記入上の注意事項
 - a 形態欄: その科目の形態(春学期・秋学期・通年)を○で囲み, 曜日・時限を記入します。
 - b 科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は, 時間割上段に記載されている教員名を記入します。
 - c 登録番号欄: 履修する授業科目の時間割表記載の登録番号5桁を記入し, マークします。
- ④ B 欄記入上の注意事項
 - a 形態欄: その科目の形態(春学期・秋学期・通年)を○で囲み, 曜日・時限を記入します。
 - b 科目名・教員名を記入します。
 - c 登録番号欄: 履修する授業科目の時間割表記載の登録番号5桁を記入し, マークします。
 - d 分野欄: 2桁の履修申告用 B 欄分野番号を記入し, マークします。
- ⑤ 「無効マーク」(A 欄・B 欄に共通)にマークすると, その枠内を無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが, 跡が残ったり, 黒くこすれたりした場合は, 「無効マーク」を利用してください。
- ⑥ 履修申告用紙の再交付について
 - a 履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は, なるべく無効マーク欄を使用して無効にしたうえで正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので, その履修申告用紙を持参のうえ, 学事センターに申し出てください。
 - b 交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

(4) A欄・B欄について

履修申告欄はA・B欄によって構成されています。どちらの欄に記入するかは下記のとおりです。

【A欄】

- (1) 社会学研究科の時間割に記載されている科目を履修する場合はこの欄に記入してください。
- (2) 同一名称の科目を何度履修しても修了に必要な単位としてカウントします。
- (3) 修士課程在籍者は、博士課程設置の科目を履修申告することはできません。

【B欄】

- (1) 認定科目
 - ・他研究科設置の科目を課程修了に必要な単位とする場合は、(5) B欄分野表のB欄分野番号を記入してください。とくに心理学専攻の学生で演習科目を履修する場合は、認定科目種類を間違えないよう十分注意し、B欄分野番号を記入してください。
 - ・博士課程在籍者が修士課程設置の科目を履修する場合は、認定科目としてB欄申告してください。
- (2) 自由科目

学部・研究所等の設置科目は自由科目です。修了に必要な単位にはカウントされません。

(5) B欄分野表

【社会学専攻・教育学専攻】

修士課程			博士課程		
種類	分野番号	B欄分野番号	種類	分野番号	B欄分野番号
認定科目	01-04-01	01	認定科目	01-04-01	01
他大学交流科目	01-05-*	—			
自由科目	09-01-01	99	自由科目	09-01-01	99

【心理学専攻】

修士課程			博士課程		
種類	分野番号	B欄分野番号	種類	分野番号	B欄分野番号
認定科目(講義)	01-04-01	01	認定科目(講義)	01-04-01	01
認定科目(演習)	01-04-02	02	認定科目(演習)	01-04-02	02
他大学交流科目	01-05-*	—			
自由科目	09-01-01	99	自由科目	09-01-01	99

※社会学研究科設置の科目は、A欄に記入してください。

(6) 他大学交流科目

早稲田大学大学院文学研究科・早稲田大学大学院教育学研究科の設置科目を履修する場合は(修士課程のみ)、他大学大学院設置科目履修申告用紙に記入してください。

それとは別に、履修要項29ページに記載されている所定の手続きをとらなければなりません。

なお、許可された科目の履修申告は学事センターが行います。必ず履修科目確認表で確認してください。

2 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室か教員室を訪ねてください。学事センターで仲介等はいりません。メールでアポイントをとる場合は、Web上の教員紹介等を参照してください。(http://www.flet.keio.ac.jp/member/index.html)

- (1) 三田所属専任教員(教授・准教授・専任講師・助教) …… 研究室(研究室棟または南館)
- (2) 他地区専任教員および塾外からの出講者(講師) …… 教員室(南館1階)

※専任教員か講師か不明な場合はシラバス等で確認してください。

3 教室使用申請(三田)

(1) 研究会の教室使用申請

所定の「学内集会届」を窓口に提出し、「申請者控」を後日窓口で受け取ってください。なお、休業期間中の利用申請には、「学内集会届」に研究会担当教員の捺印が必要です。

使用不可能期間	…… 土曜・日曜・祝日、大学が定めた休日、定期試験期間中
受付窓口	…… 三田学事センター教室担当
申込期日	…… 使用希望日の2週間前から事務取扱日換算の前日まで

(2) 外部団体の教室使用申請

詳細は管財部管財担当に問い合わせてください。施設使用費等が必要となります。

※他地区の教室利用については、各地区で申請方法等を確認してください。

4 緊急時における授業の取扱い

政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合や、各種自然災害・大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態が発生した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

(1) 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合は、ただちに全学休校とします。なお、地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応については、ホームページ等を通じてお知らせします。

(2) 鉄道等交通機関の運行停止やその他緊急事態発生の場合

台風・大雨・大雪・地震等の各種自然災害や大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態の発生により、休講措置をとらざるを得ない場合はホームページ等を通じてお知らせします。

URL <http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

<その他の注意事項>

授業開始後に緊急事態が発生した場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。

掲示や構内放送、上記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

5 早慶野球戦時における授業の取扱い

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします。雨天中止による延期や、同点終了による3回戦以降もこれに準じます。試合結果は、東京6大学野球連盟オフィシャルサイトで確認してください(<http://www.big6.gr.jp/>)。雨天等による当日試合中止の判断は、明治神宮野球場(神宮球場)の判断によります。神宮テレフォンサービス: TEL 03-3236-8000

6 成績

(1) 成績評語

所定の授業内で随時行われる試験を受けた後に評語が決まります。学業成績の評語は A・B・C・D の 4 種で示すことを基本とし、A・B・C を合格、D を不合格とします。ただし、特定の科目は、評語を P・F の 2 種とし、この場合、P を合格、F を不合格とします。さらに、他大学等で履修した科目を A・B・C または P の評語を用いずに認定する場合は、これを G とします。

(2) 学業成績表

当該年度最終の学業成績表については 3 月中旬に本人宛に郵送します。学業成績表はいかなる事情があっても再発行しません。また、事前、事後の成績照会は一切受け付けません。

(3) Web 閲覧

特定期間内に学業成績表を Web で閲覧可能です。利用にあたっては「keio.jp」の ID・パスワードおよび「学事 Web システム」のパスワードが必要です。閲覧期間等の詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。なお、パスワードの再発行等、Web システムの利用案内については、「第 4 Web システム」の項を参照してください。

(4) 学業成績証明書

学業成績証明書を発行する時期は翌年度以降（4 月以降）です。ただし、修士修了決定者については事前申請により学位授与式の日以降に発行します。詳細は 1 月に掲示します。学位授与式の日程については、「第 1 学事関連スケジュール（三田）」の項を参照してください。

1 試 験

随時授業時間内に行われます。別途指示がある場合には掲示されることがありますので、掲示板にも留意してください。なお、学部と併設する修士課程の科目については学部に基づき定期試験を行うことがあり、追加試験の対象ともなります。掲示を確認してください。日程は「第1 学事関連スケジュール (三田)」の項を参照してください。

※定期試験時間割、持ち込み指示、受験に関する注意事項等の詳細を掲示で必ず確認してください。

※定期試験・追加試験の URL : <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shiken/index.html>

<定期試験に関する注意>

- a 受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。
- b 答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。
- c 学生証を必ず携帯し、提示してください。
- d 試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証（発行当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可）の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料 500 円が必要となります。
- e 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
- f 仮学生証発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。また、追加試験の対象とはなりません。
- g 答案用紙の担当者および科目名ならびに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がない場合、成績はつきません。
- h 試験開始後 20 分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます（試験期間の延長はありません）。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるものの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験の申請をするのかは、本人の判断に依ります。電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので、必ず試験会場に向かって試験監督の指示に従ってください。
- i 試験開始後の体調不良等の理由で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

2 レポート

レポートを三田学事センターへ提出する場合は以下を厳守してください。

- ① 指定された期間に指定された場所へ提出してください。それ以外は受け付けません。
- ② 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。
- ③ 学事センターへ提出を指示された場合は、所定のレポート提出用紙（2 枚複写式）に必要事項を記入し、レポートに添付して提出してください（2 枚とも）。レポート提出用紙は学事センターにあります。
- ④ 学事センターレポートボックス受付時間（時間厳守）

受付曜日： 火・水曜日、木・金曜日

受付時間： 8:45～16:45

※受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。

※授業期間中であっても、都合により閉室することがあります。

1 窓口案内

(1) 学生生活支援

課外活動, 課外教養, 奨学金, 学生健康保険互助組合等に関することを取り扱っています。

(2) 就職・進路支援

就職・進路相談, OB・OG 情報, 就職ガイダンス, 求人情報等に関することを取り扱っています。

(3) 学生相談室

さまざまな悩みや相談を受け付けています。

2 学生生活支援

(1) 学生食堂の使用申請

対 象 …… 公認学生団体・研究会・教職員・塾員等のパーティー

使用可能期間 …… 日曜・祝日以外

手 続 …… 窓口に「学内集会届」を提出
予約後2週間以内に「学内集会届」にて正式申込をしてください。

備 考 …… 「学内集会届」が提出されなかった場合, 予約が取り消されます。食事の内容等については「学内集会届」提出後に, 当該食堂に直接相談をしてください。

(2) 学外行事の届出, 団体割引の届出

対 象 …… 公認学生団体や研究会の学外行事 [例] 合宿, コンサート, 懇親会

手 続 …… 窓口に「学外行事届」を提出

申 込 期 日 …… 行事の4日前(土・日・祝日を除く)まで

備 考 …… 受理されると傷害保険の対象となります(学生教育研究災害傷害保険の項参照)。
また, 団体割引やゴルフ場使用税免除に関する証明も受け付けます。

(3) 備品借用の申請

対 象 …… 備品借用 [例] ステッカー, ワイヤレスマイク, 塾旗, 水差, 椅子, 机等

手 続 …… 窓口に「借用書」を提出

申 込 期 日 …… 借用希望日の4日前(土・日・祝日を除く)まで

(4) 掲示・チラシ配布の申請

対 象 …… ポスターの掲示やチラシ・パンフレットの配布

手 続 …… 窓口に「届出書」を提出

申 込 期 日 …… 行事の4日前(土・日・祝日を除く)まで

(5) 伝言板および「DENGON」

対 象 …… 塾生間の連絡用

手 続 …… 窓口に申し出て「掲示物受付簿」を記入

備 考 …… A4用紙1枚のみ掲示可能

(6) 車輛入構の申請

塾生の車輛入構は認められていません。やむを得ず車輛入構の必要がある場合のみ下欄を参照してください。

手 続 …… 窓口に「届出書」を提出

申 込 期 日 …… 入構希望日の4日前(土・日・祝日を除く)まで

(7) 大学生生活懇談会

講演会や見学会をはじめ, スキー企画等さまざまな催物を随時開催しています。企画内容については構内のチラシやポスター, 学生総合センターホームページを参照してください。

(8) 配布物・閲覧物関係

財団法人セミナーハウスの利用案内や展覧会等の割引券・招待券を置いています。また, ボランティア募集や公募関係の案内もファイル等で公開しています。

3 遺失物の取扱い

届出のあった遺失物は、学生総合センター学生生活支援窓口にて保管しています。

ただし、学生証のみの拾得については、学事センター（総合窓口）にて保管します（学生証が、財布や定期入れ等に入っている場合は、学生総合センターで保管されます）。

4 奨学金

(1) 「奨学金案内」

学生総合センターで「奨学金案内」を配布し、「奨学金案内」にて別途詳細を案内しています。「奨学金案内」は、概ね4月初旬に配布し、配布後に随時出願受付を行います。

(2) 主な奨学金の概略

募集日程は、その都度西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

慶應義塾大学大学院奨学金〔給付〕… 5月中旬に出願受付を行います。

日本学生支援機構奨学金〔貸与〕… 4月上旬から中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と、第二種（有利子）があり、その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）もあります。

地方公共団体、社・財団法人等の… 募集は主に4・5月に行います。
各種奨学金〔給付・貸与〕

指定寄付奨学金〔給付〕… 募集は主に4月に行います。

(3) 奨学融資制度（利子給付奨学金制度付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも申請することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、本人の申請に基づいて規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は奨学金窓口までお問い合わせください。

5 就職・進路支援

就職・進路支援は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報、インターンシップ情報等を、学生総合センター事務室、就職資料室にて、提供しています。また、keio.jp上から求人票や就職活動体験記を閲覧することもできます。

修士1年生に対しては、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッション等をキャンパス内で開催しています。また、就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、修士1年生全員に配布しています。皆さんが就職活動をする中でわからないこと、困ったこと等があった場合には、いつでも個別相談にも応じています。

6 学生相談室

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります（電話予約可）。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

7 学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、学生健保から医療費給付が受けられます。給付手続は、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続してください。なお、給付方法は銀行振込（ゆうちょ銀行は不可）となりますので、口座登録が必要です。

- 慶應病院で
受診した場合 … 病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に給付金が振り込まれます。
- 一般病院で
受診した場合 … 学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4カ月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設等を行っています。また、日吉塾生会館内にトレーニングルームを設置しています。

その他、入学時に配布した『健保の手引き』でさまざまな案内をしていますので、詳細を確認してください。『健保の手引き』は学生総合センター窓口でも閲覧可能です。

8 学生教育研究災害傷害保険

教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

(1) 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

- ① 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。
- ② 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

(2) 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式等の教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

(3) (1)(2) 以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

(4) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続により、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングラライダー等の危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続を行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるよう、ゼミ合宿を学外で行う場合、および公認学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

9 任意加入の補償制度

任意加入の補償制度としては、以下の2種類があります。資料請求や加入希望の場合は直接連絡をしてください。

(1) 「学生総合補償制度」

(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社） TEL 03-3453-3846

(2) 「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」

慶應生活協同組合 TEL 045-563-8489

定期健康診断

定期健康診断は学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。大学院学則第159条(学部学則179条)にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので必ず受診してください。未受診の場合には「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証(学校学生生徒旅客運賃割引証)の発行はできません。

また学内における麻疹の集団感染を予防するために、母子健康手帳等を確認し、ワクチン未接種でかつ罹患したことのない方、あるいはワクチンを1回接種し10年以上経過した方は、かかりつけ医師と相談し、ワクチン接種を受けることをお勧めします。また、風疹・水痘(みずぼうそう)・流行性耳下腺炎(おたふく)等の感染症予防についてもかかりつけ医師とご相談ください。学内集団感染予防のため、ご協力ください。

1 開講科目と履修単位数

社会学研究科に設置される科目と単位数は次の通りです。

1. 修士課程（前期博士課程）設置科目

社会学専攻

科 学 方 法 論 (4)
 社 会 調 査 特 論 (4)
 社 会 学 史 特 論 (4)
 社 会 学 理 論 特 論 (4)
 社 会 学 特 論 (4)
 社 会 学 講 義 (2)
 社 会 史 特 論 (4)
 文 化 人 類 学 学 説 特 論 (4)
 文 化 人 類 学 特 論 (4)
 民 俗 学 特 論 (4)
 歴 史 民 俗 学 特 論 (4)
 コミュニケーション特論 (4)
 マス・コミュニケーション特論 (4)
 行 動 科 学 特 論 (4)
 社 会 心 理 学 特 論 (4)
 パーソナリティ特論 (4)
 パーソナリティ実習 (4)

研 究 方 法 論 (4)
 社 会 学 史 演 習 (4)
 社 会 学 理 論 演 習 (4)
 社 会 学 演 習 (4)
 社 会 史 演 習 (4)
 文 化 人 類 学 学 説 演 習 (4)
 文 化 人 類 学 演 習 (4)
 民 俗 学 演 習 (4)
 歴 史 民 俗 学 演 習 (4)
 コミュニケーション演習 (4)
 マス・コミュニケーション演習 (4)
 行 動 科 学 演 習 (4)
 社 会 心 理 学 演 習 (4)
 パーソナリティ演習 (4)
 プロジェクト I (2)
 プロジェクト II (2)

心理学専攻

基 礎 心 理 学 特 論 I (4)
 基 礎 心 理 学 特 論 (2)
 実 験 心 理 学 特 論 I (4)
 実 験 心 理 学 特 論 (2)
 比 較 心 理 学 特 論 I (4)
 比 較 心 理 学 特 論 (2)
 計 量 行 動 学 特 論 I (4)
 計 量 行 動 学 特 論 (2)
 基 礎 行 動 学 特 論 I (4)
 基 礎 行 動 学 特 論 (2)
 神 經 科 学 特 論 I (4)
 神 經 科 学 特 論 (2)
 精 神 医 学 特 論 (4)
 精 神 病 理 学 特 論 (4)
 臨 床 心 理 学 特 論 I (4)
 臨 床 心 理 学 特 論 II (2)
 臨 床 心 理 学 特 論 III (2)
 精 神 動 作 研 究 (4)

心 理 学 特 殊 実 験 (4)
 知 覚 心 理 学 演 習 (4)
 発 達 心 理 学 演 習 (4)
 行 動 分 析 学 演 習 (4)
 認 知 心 理 学 演 習 (4)
 生 物 心 理 学 演 習 (4)
 臨 床 心 理 学 演 習 I (4)
 臨 床 心 理 学 演 習 II (2)
 臨 床 心 理 学 演 習 III (2)
 臨 床 心 理 学 実 習 I (4)
 臨 床 心 理 学 実 習 II (2)
 臨 床 心 理 学 実 習 III (2)
 行 動 修 正 実 習 I (4)
 行 動 修 正 実 習 II (2)
 行 動 修 正 実 習 III (2)
 プロジェクト I (2)
 プロジェクト II (2)

教育学専攻

教育学演習(4)
教育哲学演習(4)
教育哲学特論(4)
教育学史特論(4)
教育史演習(4)
教育史特論Ⅰ(4)
教育史特論Ⅱ(4)
比較教育学演習(4)
比較教育学特論Ⅰ(4)
比較教育学特論Ⅱ(4)

教育心理学演習(4)
教育心理学特論Ⅰ(4)
教育心理学特論Ⅱ(4)
教育心理学特論Ⅲ(4)
教育心理学特論Ⅳ(4)
教育心理学特論Ⅴ(4)
教育心理学実習(4)
教育学特講(2)
プロジェクトⅠ(2)
プロジェクトⅡ(2)

2. 博士課程(後期博士課程)設置科目

社会学専攻

社会学特殊研究(4)
社会学特殊講義(2)
文化人類学特殊研究(4)
歴史民俗学特殊研究(4)
コミュニケーション特殊研究(4)
社会学特殊演習(4)
文化人類学特殊演習(4)
歴史民俗学特殊演習(4)
コミュニケーション特殊演習(4)

行動科学特殊研究(4)
社会心理学特殊研究(4)
パーソナリティ特殊研究(4)
パーソナリティ特殊実習(4)
行動科学特殊演習(4)
社会心理学特殊演習(4)
パーソナリティ特殊演習(4)
プロジェクトⅠ(2)
プロジェクトⅡ(2)

心理学専攻

基礎心理学特殊研究Ⅰ(4)
基礎心理学特殊研究(2)
実験心理学特殊研究Ⅰ(4)
実験心理学特殊研究(2)
比較心理学特殊研究Ⅰ(4)
比較心理学特殊研究(2)
計量行動学特殊研究Ⅰ(4)
計量行動学特殊研究(2)
基礎行動学特殊研究Ⅰ(4)
基礎行動学特殊研究(2)
神経科学特殊研究Ⅰ(4)
神経科学特殊研究(2)
精神医学特殊研究(4)
精神動作特殊研究(4)
精神病理学特殊研究(4)
臨床心理学特殊研究Ⅰ(4)
臨床心理学特殊研究Ⅱ(2)

臨床心理学特殊研究Ⅲ(2)
知覚心理学特殊演習(4)
発達心理学特殊演習(4)
行動分析学特殊演習(4)
認知心理学特殊演習(4)
生物心理学特殊演習(4)
臨床心理学特殊演習Ⅰ(4)
臨床心理学特殊演習Ⅱ(2)
臨床心理学特殊演習Ⅲ(2)
臨床心理学特殊実習Ⅰ(4)
臨床心理学特殊実習Ⅱ(2)
臨床心理学特殊実習Ⅲ(2)
行動修正特殊実習Ⅰ(4)
行動修正特殊実習Ⅱ(2)
行動修正特殊実習Ⅲ(2)
プロジェクトⅠ(2)
プロジェクトⅡ(2)

教育学専攻

教育学特殊演習(4)	比較教育学特殊研究Ⅱ(4)
教育哲学特殊演習(4)	教育心理学特殊演習(4)
教育哲学特殊研究Ⅰ(4)	教育心理学特殊研究Ⅰ(4)
教育哲学特殊研究Ⅱ(4)	教育心理学特殊研究Ⅱ(4)
教育史特殊演習(4)	教育心理学特殊研究Ⅲ(4)
教育史特殊研究Ⅰ(4)	教育学特殊講義(2)
教育史特殊研究Ⅱ(4)	プロジェクトⅠ(2)
比較教育学特殊演習(4)	プロジェクトⅡ(2)
比較教育学特殊研究Ⅰ(4)	

(注) 上記以外の科目についての履修は成績表に記載されますが、課程修了に必要な単位としては扱われません。
(ただし、認定科目・他大学交流科目は別扱いとなります。)

2 課程修了にいたるまでの要件

1. 修士課程(前期博士課程)

社会学研究科修士課程に2年以上在学し、1-1項にあげた授業科目のうち32単位以上(そのうち少なくとも16単位は所属専攻の授業科目でなければならない)を修得し、研究上必要な指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

心理学専攻については、前述の32単位に演習8単位以上を含めること。

ただし、特に優れた業績をあげた者は、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

(学則第59, 60, 61, 109条)

2. 博士課程(後期博士課程)

社会学研究科後期博士課程に3年以上在学し、1-2項にあげた授業科目のうち20単位以上(そのうち少なくとも12単位はその所属専攻の授業科目でなければならない)を修得し、研究上必要な指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

心理学専攻については、前述の20単位に演習8単位以上を含めること。

ただし、特に優れた業績をあげた者は、在学期間は前期博士課程も含めて3年以上在学すれば足りるものとする。
なお、上記要件のうち学位論文の審査及び最終試験をのぞき、所定の教育課程をおえた段階で終了する場合は「単位取得退学」として取り扱われます。

(P. 32 第6 単位取得退学および在学期間延長の項参照)(学則第69, 70, 71, 109条)

3 プロジェクト科目Ⅰ, Ⅱ(修士課程・博士課程共通, 社会学研究科・文学研究科共通)

平成19年度より社会学研究科, 文学研究科の共通科目としてのプロジェクト科目が開設されました。これはグローバルCOE「論理と感性の先端的教育研究拠点形成」によるもので、複数の教員の指導のもとで研究活動に参加する授業科目です。半期ずつの科目となっていますが、併せて通年での登録を原則とします。

また、このほかにバリアフリー/ユニバーサルデザインのプロジェクト科目(秋学期のみ)が今年度より開設されました。

プロジェクト(A): 脳と進化

このプロジェクト科目は論理と感性を、実験心理学、機能脳画像、動物実験による系統発生的比較研究から解明しようとするを目的としています。したがって、実験を主にした研究ということになります。心理学や脳科学の予備知識のない大学院生でも履修できるように個別指導を行います。また、GCOEの教育講座などでも必要な知識・技術を身につけられます。

(担当者: 渡辺茂, 小嶋祥三, 梅田聡)

プロジェクト (B) : 遺伝と発達

このプロジェクト科目では、双生児研究による論理的判断と感性的判断の遺伝的素因の研究を行います。また、発達、とくに発達障害研究による論理的判断と感性的判断の獲得過程の問題に取り組みます。したがって、実験による研究が主になります。青年期・成人期の双生児コホートから、ゲノム研究のための縦断データを収集することも行います。機能脳画像による実験も積極的に行います。

(担当者：安藤寿康, 山本淳一, 藤澤啓子)

プロジェクト (C) : 言語と認知

このプロジェクト科目では人間の記憶や判断における分析的・論理的過程と非分析的・感性的過程の働き方について認知心理学的手法によって研究し、また、言語知識の獲得・使用が論理と感性にどのような効果を持つか、母語の特性とどのように相互作用するのかなども研究します。担当教員と共同研究をしている海外の大学、研究機関との連携した実験も行います。実験的な研究以外に、言語についての理論的な研究も行い、言語機能の初期状態と安定状態の予備的モデルを構築することも行います。また、成人と乳児を対象にした事象関連電位による研究、成人を対象としたfMRIによる脳研究も行う予定です。

(担当者：伊東裕司, 大津由紀雄, 今井むつみ)

プロジェクト (D) : 哲学・文化人類学

このプロジェクト科目では、倫理判断、美的判断における論理と感性の役割を分析・研究します。そのうちのひとつでは、絵画における立体や位置の認知・推論、特に陰影についての文化的歴史的要因による偏りについての理論を構築することを目指します。また、文化人類学的研究では、科学と合理性と伝統的世界観、心の病等の問題の検討を通じて、どのような環境で論理と感情が破綻をきたし、また調和するのか、その条件を文化的多様性と関連づけて考察します。したがって、この科目には、分析的な研究、実験的な研究、ならびに、調査および現地事例観察を主体とする研究が含まれます。

(担当者：飯田隆, 宮坂敬造, 樽井正義, 遠山公一, 北中淳子)

プロジェクト (E) : 論理・情報

このプロジェクト科目では、日常の推論の論理モデルに言語的情報・図形的情報・感性情報がどのように反映できるのかを解析します。また、感性的直観と論理思考との関係、および図形的推論と言語的推論の論理研究について理論モデルを構築し、これまでの認知や情報科学・人工知能分野におけるモデルと比較検討します。これらは理論的な研究ですが、メンタルモデル理論とメンタルロジック理論等の認知心理学のデータに対する批判的検討を試みたり、機能脳画像研究を通じて近年明らかにされてきた脳内デュアルシステムに対する論理的考察を行う等の実験科学的観点の研究も取り入れます。論理と直観、論理と感性、エピステーメーとしての論証的知識とドクサや実践的知識、等の伝統的な対立項に対して現代的な観点から再検討を加えます。

(担当者：岡田光弘, 西脇与作, エアトル ヴォルフガング)

プロジェクト II (実践 BF/UD 学) (秋学期)

先進諸国では、米国の改正リハビリテーション法 508 条, Americans with Disabilities Act (ADA) 法に見るように障害者の権利に基づく社会システムが構築されており、また、国連の障害者権利条約等を考慮すれば、未来社会をリードする国際的教養人には、あらゆる社会参加の場面において、バリアフリー (BF) /ユニバーサルデザイン (UD) の視点を内包していることが不可欠である。

人間と社会の探究を目指す社会学研究科において、関係性を重視した新しい「人と環境」学の構築が期待される。昨今の、脳の機能に関する研究は目覚ましいものがあり、それなりに評価をするものであるが、脳の中にもみ解決を求めても、本質的な問題解決には至らない。人間と環境との相互作用の中にこそ解決の道がある。マルチキャンパス、領域横断的な科目である。

若くて、健康な人にとって、特別な理由がない限り「高齢」や「障害」ということを意識することは少ない。しかし、一生を考えてみると、不自由なく、移動したり、考えたり、覚えたりできる状態に身体を保つことができるのは、一時的なことである。例えば、誰も乳幼児のときには一人では上手に食事もできない。また、いつ病気や事故等に遭遇するかもわからないし、老化を避けることもできない。この意味で障害や加齢は身近な問題であり、障害や加齢の状態にある人にも住みよい社会を創っていくことは、すべての人にとって大切な課題である。この科目では、すべての人が快適に生活できる人と環境の関係学を、それぞれの専攻、専門の視点から考える場を提供する講義である。

講義は数回の特定期間集中講義の形式をとる。それぞれの講義担当者のキャンパス、研究室に赴き、講義と実習体験を通じた問題発見型の授業となる。全体のナビゲート役を増田が担当する。

(担当者：増田直衛、中野泰志、木島伸彦、高山緑、安村通晃)

プロジェクトに登録するには担当教員の許可が必要です。研究内容の詳細は本科目のガイダンスに参加して説明を聞いてください。

4 他大学大学院との相互科目履修

修士課程在学中に、8単位を上限として早稲田大学大学院文学研究科・早稲田大学大学院教育学研究科の設置科目を履修することができます。なお、この科目は所属専攻の授業科目にはなりません、課程修了に必要な単位とすることができます。

巻末の「他大学大学院との相互科目履修に関する協定」を参照してください。

<他大学大学院との交流手続の方法>

- ① 「他大学大学院設置科目履修申告用紙」(A4横の白紙)
 - ② 「大学院交流学生履修届」(A・B・Cの三票が1枚になったA4縦の青紙)
- 以上2枚の所定用紙を学事センター社会学研究科担当窓口で受け取る。



「大学院交流学生履修届」(A・B・C全票)に必要な事項(学籍番号・氏名・住所・科目)を記入し、指導教授承認印欄に指導教授の印をもらう。



- ① 「他大学大学院設置科目履修申告用紙」を学事センター社会学研究科担当窓口へ提出する。
- ② 相手校で当該授業に出席して、「大学院交流学生履修届」(A・B・C全票)の担当者欄に講義担当者の承認印を受けた上で、指示された期間中に相手校事務室へ提出し、相手校事務室の割印を受けた「大学院交流学生履修届」(A票)のみを受け取る。

【履修届受付期間：2009年4月10日(金)～4月16日(木)】



履修が許可された場合、三田学事センター社会学研究科担当窓口にて、5月14日(木)より「大学院交流学生履修届」(A票)を確認の上、相手校発行の「交流学生登録証」をお渡しします。

<注意事項>

- ① 相手校の学科目を履修する場合は、必ず予め指導教員の承認を受けてください。
これは履修決定以前の聴講の場合でも同様です。
- ② 万一、履修を途中でやめるときは、速やかに講義担当者、相手校事務室および指導教員、三田学事センター社会学研究科担当に連絡してください。ただし、履修申告の削除はできません。

5 学位請求論文

1. 修士論文

本研究科で授与する修士の学位は次の通りです。修士(社会学)、修士(心理学)、修士(教育学)。修士の学位は、大学院前期博士課程、大学院修士課程を修了した者に与えられます。(学位規程第3条)

学位規程第3条に基づいて修士の学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出しなければなりません。(同第7条1項)

学位請求論文製本表紙見本

(1) 表紙

○○論文 平成○年度（20○○）	
<table border="1" style="width: 80%; margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> 論 題 </td> </tr> </table>	論 題
論 題	
慶應義塾大学大学院社会学研究科 ○○○専攻	
<table border="1" style="width: 80%; margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> 氏 名 </td> </tr> </table>	氏 名
氏 名	

(2) 背表紙

	1.0 cm
'○○	
	1.0 cm
○○ 論文	
	1.0 cm
論	
題	
氏	
名	
※この分のスペースをとる	
	5.0～6.0 cm

《修士論文提出の手順》

(1) 修士論文題目届 (11月下旬締切)

- (a) 指導教授と相談の上、修士論文の提出が許可された場合は、所定用紙にて論文題目を届出てください。詳細については10月中に掲示板で指示します。なお、今年度修士論文を提出しない学生や、この届を提出した後に学位請求を取り下げの場合は、必ず指導教授の許可印を受けたうえで、書面にて学事センターに申し出てください。
- (b) 修士論文の執筆は原則として日本語とします。ただし指導教授が特に認めた場合には、研究科委員会の承認を得て外国語を使用することができます。
- (c) 論文の形式

学位請求論文は三田メディアセンター（図書館）及び国立国会図書館（博士論文のみ）に保存しますので、上記の体裁に整えてください。なお、資料等の都合でどうしても規定の大きさに入らない場合は、その大きさの表紙を付けて製本してください。

- ① 本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則として縦A4版で製本してください。
(縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとなります)
- ② 表書きは、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとします。
- ③ 表紙はハードカバーで黒を原則とし、白文字を使用してください。
- ④ 製本の背文字は、本文の縦書き、横書きに係わらず縦書きとしてください。
一部英単語が入る場合は、英単語のみ横書きとし、他の日本語は縦書きとしてください。

- ⑤ 表紙の見本を前頁に示してあります。既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。
- ⑥ 学位審査のため3部提出しますが、必ず製本された論文を提出してください(3部とも製本することが望ましいのですが、最低1部でも可)。この提出された論文で論文審査を行います。**提出後の論文差し替えは行いません**ので、誤字・脱字のないよう十分注意し、余裕をもって論文を作成してください。
※ 未製本の論文は、散逸しないように仮製本し、前頁に準じた表紙および背表紙をつけてください。

(2) 修士論文の提出(1月下旬)

提出日、提出方法については掲示板で指示します。

なお論文題目については(1)(a)で提出した題目(副題目も含む)と同一のものであることを原則とします(必ず1部は製本してください)。

(3) 修士論文面接(2月下旬)

提出された論文をもとに面接を行います。面接ならびに審査結果発表の日時・場所などは、論文提出時にプリントか掲示もしくはホームページで指示します。

(4) 三田メディアセンターからの修士論文複写許諾協力依頼

三田メディアセンター(図書館)では修士論文を保存し利用に供しています。利用者が修士論文を学術目的のために「複写する」ことに対し、現行の著作権法下では、事前に著作権者からの許諾を必要としています。

上記趣旨に賛同いただける場合には必要事項を記入の上、修士論文と共に「修士論文複写許可回答」を学事センターに提出してください。なお、今年度の学位授与名簿に記載されなかった場合は、メディアセンターが責任をもって廃棄します。

2. 課程博士論文

(1) 課程による博士学位の授与(課程博士)

博士の学位は大学院博士課程を修了した者に与えられます。(学位規程第4条)

第4条の規定に基づいて博士論文を申請する者は学位論文3部に所定の書類を添え、指導教授を通じて、当該研究科委員会に提出しなければなりません。(同第7条2項)

《課程博士論文提出の手順》

① 正指導教授、副指導教授の決定

博士課程進学者は正指導教授、副指導教授の指導のもとに論文執筆のための研究を進めてください。(大学院社会学研究科入学試験、指導体制及び学位論文審査に関する内規第6条……以下「内規」とする)

② 学位請求論文研究計画書の提出(3部)

入学後3年以内に正・副指導教授の指導のもとに学位請求論文研究計画書(以下「研究計画書」という)を作成し、研究計画書を研究科委員会に提出し、審査を受け、承認を得なければならない。提出にあたっては、**第1著者として学術専門雑誌に2編以上の論文(内、少なくとも1編は査読のあるもの)を掲載していること、もしくは、それに相当すると考えられる業績を挙げていることが必要である。**(内規第7条)

なお、研究計画書は2部を簡易製本し、1部はクリップ止めして提出してください(合計3部)。また、wordもしくはtext形式にしてデータも提出してください。

③ 研究計画書の内容

研究計画書は、次の各号にあげる内容を含むものにしてください。(内規第8条)

1. 研究の目的、方法及びその意義等
2. 当該研究に関する内外の先行研究の概括、予備調査、予備実験の結果等
3. 当該研究に係る業績一覧

なお、前年度に承認された研究計画書は、博士課程在籍者に配布します。その他の者は、本塾三田図書館で閲覧することができます。

④ 学位論文の提出要件

学位論文は、研究計画書承認後、3年後の3月末までに提出しなければなりません。(内規第9条)3年経っても提出できない場合は、課程博士としての学位は取得できず、次項であげる論文博士として提出することになります。

⑤ 論文の使用言語

学位論文の執筆は原則として日本語です。ただし、正・副指導教授が特に必要と認めた場合は、研究科委員会の承認を得て外国語を使用することができます。(内規第9条2項)

⑥ 学位論文の製本について

製本の形式は、1の(c)であげた「論文の形式」を参照してください。ただし、博士論文の場合は、3部すべてを製本してください。

⑦ 学位論文の審査

学位論文の審査は、研究科委員会が承認した主査1名及び副査2名以上から構成される学位論文審査委員会でを行います。そして研究科委員会がその審査結果の報告を受けて、学位授与資格を決定します。(学位規程第11条2項、内規第9条3項4項)

3. 論文博士

論文による博士学位の授与(論文博士)。この規定では、博士の学位は研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ、大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認(以下“学識の確認”という)された者に与えられます。(学位規程第5条)

上記の第5条の規定に基づいて、博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して学長に提出しなければなりません。(同第8条)

《論文博士提出の手続き》

① 学位論文の提出要件

学位論文を提出しようとする者は原則として、特に当研究科委員会に論文を提出する理由を明記した上で、内規第11条に定める内容の論文計画書(3部)を、研究科委員会に提出してください。(内規第10条)

② 論文計画書の審査

研究科委員会では、上記の論文提出理由及び論文計画書の内容を検討し、まず審査にあたる主査及び副査各1名を決定します。主査及び副査は論文計画書の内容を検討し、学識確認(原則として研究上最も必要とする外国語一科目)と面接を行い、その審査結果を研究科委員会に報告し承認を得ます。

論文計画書の承認を得た者は、承認後1年以内に主査及び副査の指導の下に論文を執筆して完成のうえ、提出してください。(内規第10・11・12条)

③ 論文の使用言語・製本・審査

論文の使用言語、製本は課程博士と同じです。(内規第13条)

学位論文の審査は、後期博士課程の場合に準じて行います。(内規第14条)

6 単位取得退学および在学期間延長(博士課程在籍者のみ)

1. 単位取得退学

大学院博士課程修了に必要な単位を取得し、規定の在学年数(3年)を満了した場合、単位取得退学者として扱われます。課程博士学位(P.31参照)は原則として博士課程在学中に博士学位請求論文を提出し審査に合格した場合に取得できますが、現在の制度では、所定単位を取得し研究計画書の承認を受けた上であれば、入学後6年以内に提出された博士学位請求論文についてのみ、課程博士としての申請を認めます。(社研内規参照)。

年度末で「在学期間延長許可願」を提出し、所定の手続きをとらない限り単位取得退学者として扱われます。

なお、3年以内に博士論文を提出する目処がある場合に限り、三田メディアセンターの図書貸出を受けることができる「塾員貸出券」(有料)を発行しています。詳細はメディアセンター1階メインカウンターまでお尋ねください。

有効期間：申込日より6ヶ月もしくは1年

サービス範囲：三田メディアセンターに関しては大学院生と同等の貸出規則を適用する。

日吉、理工学、湘南藤沢の各メディアセンター、白楽サテライトライブラリーへの入館・閲覧が可能。
他大学図書館への紹介状の発行。

2. 在学期間延長許可願について

3年間の在学中に博士課程修了に必要な単位を取得し、かつ研究計画書が受理されていることが必要です。博士論文の完成のためには在学を継続する方が望ましいと認められた場合、在学期間延長許可願を提出すると、在学最長年限を超えない範囲で、1年を単位として在学延長が許可される場合があります。この制度の適用を希望する場合は、「在学期間延長許可願」を学事センターに提出してください。手続きの詳細は追って掲示板にて指示をします。なお、在学期間延長中に退学した場合は単位取得退学となります。

参 考 ※平成21年度は11月頃掲示の予定です。

平成20年11月6日

大学院在学期間延長，単位取得退学について

大学院後期博士課程に在学中で、本年度末に所定単位を取得し規定の在学年数（3年）を満たした者のうち、博士学位取得のため来年度も在学を希望する場合、在学期間の延長を認める場合があります。

申請者は、学事センター窓口で所定用紙を受け取り、各自の指導教授と相談のうえ、下記期間中に提出してください。

また、今年度で単位取得退学を希望する場合も、必ず下記期間中にその旨学事センター窓口へ連絡してください。

提出期間：平成21年1月26日（月）～1月30日（金）

月～金 8：45～16：45， 土 閉室

提出先：学事センター窓口（期限を厳守してください）

以 上

7 社会学研究科紀要

社会学研究科では、研究科委員会、関係教員、ならびに研究科に在籍する院生、研究生等のための機関紙として、社会学研究科紀要を刊行しています。最近投稿数が次第に増加しているので平成3年度より年二回発行し、諸君の研究発表の機会を増やすべく努めています。執筆の要領は以下の通りです。

慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要論文募集要項

1. 刊行について

年2回の発行とする。

2. 原稿の受付について

5月31日と11月30日（消印有効）を区切りとして、完成原稿を受けつける。

3. 原稿の提出

原稿は、コピーを含めて計4部とフロッピーディスク、CD-Rなどの媒体を編集主任：鈴木正崇（三田研究室受付メールボックス 〒108-8345 東京都港区三田2-15-45）に提出すること。必ず以下の項目を別紙にて添付すること。

氏名（フリガナ）、住所、電話番号、所属（専攻、課程、学年の明記）、専門分野、メールアドレス、指導教授名あるいはこれに準ずる教員名

4. 応募条件

本紀要執筆者は大学院社会学研究科委員ならびに関係教員。

大学院社会学研究科院生、研究生、修了者等とする。

5. 執筆要領

論文の分量は原則として、日本語で400字詰め原稿用紙60枚以内、英文の場合はA4ダブルスペース60枚以内とする。図表は枚数に含める。原則として横書き。完全原稿を提出すること。論文冒頭に、日本語表題の他に、英独仏語のいずれかによるレジюме（1000語以内）をつける。図表作成のため特別の費用を要した場合は執筆者に一部を負担してもらうことがある。

論文以外に次のものを受けつける。

- a) 新刊紹介（外国語のもの）400字詰め原稿用紙15枚程度。
- b) 書評400字詰め原稿用紙15枚程度。
- c) 古典となったものなど学術上重要な論文の翻訳（著作権問題をクリアーのこと、また長さについては事前に編集委員に相談のこと）。
- d) 研究ノート（30枚以内）、調査報告（40枚以内）。

6. 掲載の採否

編集委員会で査読し決定する。採否の決定は郵送にて投稿者に知らせる。

注意事項：原稿提出にあたり、校正段階での加筆修正は認められない。

7. 本誌に掲載された著作物のうち、複製権、公衆送信・伝達権は、大学院社会学研究科に帰属する。ただし、著作者自身による複製、公衆送信・伝達については、著作者からの申し出がなくてもこれを許諾する。

社会学研究科紀要編集委員会

編集主任：鈴木 正崇

主任補佐：岡原 正幸

委員：有末 賢，大津由紀雄，増田 直衛，宮坂 敬造，
矢野 久，米山 光儀

講 義 要 綱

講義要綱（修士課程）

社会学専攻

社会調査特論

法学部 教授 有末 賢

授業科目の内容：

質的社会調査に基礎を置いて、以下のような英文文献の輪読を予定している。

- Charlotte Linde, *Life Stories : The Creation of Coherence* Oxford University Press, 1993
- Glennys Howarth, *Death & Dying : A Sociological Introduction* Polity Press, 2007

春学期に続いて、以下のような質的社会調査について英文文献を輪読する予定である。

- Sheila Henderson, others *"Inventing Adulthoods : A Biographical Approach to Youth Transitions"* SAGE Publications, 2007
- Tina Miller, *"Making Sense of Motherhood : A Narrative Approach"* Cambridge University Press, 2005

社会学史特論

近代化論

[春] 文学部 教授 浜 日出夫

[秋] 講師(非常勤) 出口 剛 司

授業科目の内容：

(春学期) コミュニタリアニズムの系譜について検討する。
(秋学期) 00年代に入り、ポストモダニズム言説や社会構築主義が低迷するなか、厚生経済学、政治哲学、社会倫理学の影響を受け、社会学の領域においても価値や規範の正当化に関する議論が活発化しつつある。本講義は、社会学理論に対する規範理論の影響を踏まえ、『コミュニケーション的行為の理論』以降のハーバーマスの批判的社会理論について考察する。講義は参加者による文献の報告と討論という形で進めていく。

社会学特論

現代社会論

文学部 教授 岡原 正 幸

授業科目の内容：

受講者の論文指導を授業の基本にすえたいと思います。ただその中で、ミクロ社会学理論、自我自己論、感情社会学、あるいは障害学関係の研究書が適切な指針になると思う場合には、参加者全員である研究書の読解を進め

る場合もあります。

ただし、参加者の専門分野については、理論社会学（ミクロ社会学、現代社会論）およびフィールドワークを基本とするリサーチ研究に限定します。まずは現代社会論として提示されている諸理論から手をつけるつもりです。消費社会論、ポストモダン論、個人化論、マクドナルド化論、などを射程に入れますが、テキストにあげた書物から始めたいとも思います。

社会学特論

自己の社会学理論

講師(非常勤) 片桐 雅 隆

授業科目の内容：

社会学の立場からの自己論の理論的検討、および、現代社会の解明のための自己論の応用可能性の検討が本授業の主要な目的です。その目的達成のために必要な講義や文献の解説を行います。

社会学特論

教育達成とジェンダー格差

文学部 教授 鹿又 伸 夫

授業科目の内容：

社会階層と社会移動に関わる実証的研究を扱う。とくに教育達成における機会格差とジェンダー格差に焦点をあてたい。先進各国では教育制度改革と高学歴化によって教育の不平等が緩和され、高等教育進学性の性別格差は消失してきたかにみえる。しかし、実質的には出身階層格差が温存されているという議論があり、その議論を検証する研究が国際的におこなわれている。そうした研究の動向を検討したい。

社会学特論

社会学理論研究

法学部 教授 霜野 寿 亮

授業科目の内容：

本講義の狙いは理論社会学の視点を中心に議論することにある。論点を見いだすための文献候補として次を挙げておくが、最終的には履修者の研究関心にあわせて決めることにしたい。

社会学特論

トランスナショナル化する世界の中の都市と地域

経済学部 教授 杉浦 章 介

授業科目の内容：

トランスナショナル化する世界の中における都市や地域について最新の研究文献を輪読しながら、理論と実証の両面について理解を深める。

下記のテキストを中心に関連文献を輪読する。

社会学特論

グローバリゼーションと多文化交差社会の国際社会学——
世界・日本／オーストラリア

法学部 教授 関根政美

授業科目の内容：

本授業では、授業担当者の専門である「脱工業化・グローバリゼーションと多文化交差社会の人種・民族・エスニシティ・多文化主義の政治社会学」に関連するテーマを適宜選択して行う。キーワードとしては他に、多文化共生・競生、移民・難民・外国人労働者、先住民、市民権、アイデンティティ・ポリティクス、民族紛争・文化戦争・極右政党、ポリティカル・コレクトネスなどがある。授業担当者は、以上のテーマをく現代先進社会（日本含む）に共通する問題として、理論的な考察をするとともに（国際政治社会学者）、現代オーストラリアを題材に、上述のテーマを中心に考察する地域研究者でもある。本授業春学期では、理論的考察を中心に実施する予定である。しかし、日本研究や第3世界研究を志す諸君にとっても民族・エスニック問題を考える上で役立つであろうし、他の参加者にとってもよい刺激となるだろう。授業は演習形式で行う。履修者諸君には、英文の最新の研究書や論文を読んで、内容について報告とコメントをもらい、質疑応答をしながら授業を進めてゆく。履修者の数にもよるが、報告は1回のセッションで複数の学生に競争的に行ってもらおう。それは、各自の独自の観点からのコメントを提出してもらい、授業での議論を盛り上げたいからである。*政治学専攻との併設授業である。

社会学特論

都市と公共性の比較社会学

文学部 教授 藤田弘夫

授業科目の内容：

今年は「観光と都市」をテーマとしながら、これまで続けてきている都市と公共性の比較社会学研究を進めたいと考えています。その際、とくに写真資料の利用について新しい議論を展開したいと思っている。具体的には下記テキストの輪読と映像資料について議論したいと考えている。

社会学特論

アジア系移民の現在

文学部 教授 吉原和男

授業科目の内容：

日本をはじめ、世界各地に住むアジア出身の国際移動者の移動過程とその背景を考察する。中国人、韓国人、そして東南アジア・南アジア各国の人々を中心にみていく。

社会学特論

文学部 教授 渡辺秀樹

授業科目の内容：

家族・教育・ジェンダーを中心として扱う。

社会学講義（春学期）

文学部 教授 浜日出夫

授業科目の内容：

下記の文献の講読を行なう。

Stephen Riggins, "Fieldwork in the Living Room: An Autoethnographic Essay." *The Socialness of Things: Essays on the Socio-semiotics of Objects*. Berlin: Mouton de Gruyter, pp. 101-147.

Stephen Riggins, "The Rhetoric of Othering." *The Language and Politics of Exclusion: Others in Discourse*. Thousand Oaks, CA: Sage, pp. 1-30.

社会学講義（秋学期）

社会的ネットワーク論の家族研究への応用

講師（非常勤） 藤崎宏子

授業科目の内容：

「社会的ネットワーク」の概念が社会人類学の分野で創出され、社会学の新しい分析概念として導入されてから半世紀以上が経過した。この間、社会的ネットワーク概念は、人類学、社会学のみならず、社会老年学、政治学、(社会)心理学、看護学、社会福祉学などの諸分野で多用されている。社会学分野に限ってみても、都市社会学、家族社会学、政治社会学、社会階層論、福祉社会学、社会運動論、組織社会学、数理社会学などの連字符社会学の諸領域に導入され、多くの実証研究の成果を生んできた。また最近では、ソーシャル・キャピタル論との接点や、インターネットの普及にともなうヴァーチャル空間でのネットワークの影響力への注目など、新たな研究テーマの広がりを見せている。

本演習では、社会的ネットワーク論の系譜をたどりつつ、家族研究・高齢者研究における社会的ネットワーク論の応用可能性について考える。具体的には、主として、高齢者の社会関係（家族関係、友人関係、地域関係等）、高齢者介護へのサポートなどを扱った論文を読むことを通して、社会的ネットワーク論の有用性と限界について考察を深めたい。

社会学講義（秋学期特定期間集中）

他者表象の言説分析

特別招聘教授（非常勤） リギンズ、スティーヴン H.

授業科目の内容：

前半では、ゴフマンを中心にミクロ社会学について講義を行なう。とくにゴフマンの自己呈示論を用いて人間

とモノの相互作用を考察する「モノの社会学」について論じる。

後半には、じっさいに新聞記事などを素材として言説分析の手法についてワークショップを行なう。とくにメディア言説に表れているマイノリティの表象を分析し社会的排除について考察する。

社会史特論

経済学部 教授 長谷川 淳 一
経済学部 准教授 崔 在 東

授業科目の内容：

本科目では、社会経済史の視点から、欧米を中心とする各地の歴史を考察する。とりわけ「日常」にかかわる個別の具体的な歴史事象を、社会経済全体の「構造」と関連づけながらとらえる方法を陶冶することを目的としつつ、活発に討論したい。

本科目で取り上げるテーマ（担当教員の守備範囲）は、およそ次のようなものである。

1. 生活環境と生活水準
2. 労働と消費生活
3. 都市と文化
4. 家族・親族・共同体と個人主義
5. 人的移動の諸相

受講者の専門・研究テーマ・興味関心が広い意味でこれらのテーマと重なり合えば、問題はない。また、考察対象地域についても、欧米に限定するものではない。

演習形式を採用する。参加者には、本科目の趣旨を踏まえた上で、各自の専門領域の研究史・研究動向を幅広くしかも詳細に紹介し、その中での自らの研究の位置づけを明らかにするような報告を求める。この報告を参加者全員で共有し、それについて議論したい。このことを通じて、何よりも参加者各自の研究が刺激され、またそれが同時に参加者全員への刺激となることが望まれる。

社会史特論

経済学部 教授 矢 野 久
経済学部 教授 長谷川 淳 一
経済学部 准教授 井 手 英 策
経済学部 准教授 難 波 ちづる

授業科目の内容：

社会史は、「下からの歴史」を「上からの歴史」との関連において描くために、「総合の学」＝関連諸ディシプリンの援用をもってその方法的特徴としている。

担当者はイギリス、フランスとドイツにおける都市と文化、労働と消費、生活環境、植民地支配などを専門の守備範囲としているが、受講者の研究テーマ、問題関心が重なれば受講を歓迎する。考察対象地域も英仏独に限定するものではない。授業の形式は演習方式とする。

講義とそれに続く討論を通じて、新しい論点の提起、方法的枠組の再構築を試行したい。読むべき文献は、そのテーマ毎に指示する。

文化人類学学説特論

文学部 教授 鈴木 正 崇

授業科目の内容：

前期は文化人類学・民俗学・宗教学に関連する英文の専門書を読む予定で、最初の授業の時に候補を数冊挙げて履修者の希望によって決定する。フィールドは東アジア（日本を含む）と南アジアである。後期は英文の学会誌 The Journal of the Royal Anthropological Institute, American Ethnologist, American Anthropologist, Cultural Anthropology, Journal of Asian Studies などから履修者の主題にあった論文を選択して読む。

文化人類学学説特論

文学部 教授 宮 坂 敬 造

授業科目の内容：

文化人類学諸学説をその時代背景とパラダイムとのかかわりに留意しつつ、社会認識論的分析の地平に立って検討していく。日本民俗学の流れは他コースにあるので、本コースでは欧米にはじまった国際的学説の検討が中心。また、学説特論なので地域研究という特定地域中心という体裁はとらない。また、本コースの枠内ではバランスよくすべてにわたって諸学説を検討することはできないことにも留意してほしい。言語人類学やエスノサイエンス学派については文学研究科で一部あつかわれているようだが代表的言語学理論・社会言語学の知識が不可欠となる。構造人類学とその批判についてはかなりの社会哲学的素養が必要となるが、まずその前に人類学的親族研究と社会組織研究展開の知識を要する。マイナーかもしれないが象徴的文化コミュニケーション研究系フォークロア研究の諸学説も芸芸言語パフォーマンス表現分析に有効であるが、それを一分野にふくむ文化記号論の領野もまことにひろい。現代の宗教人類学は他コースで提供されているので直接あつかわないが、学説をあつかうのであれば、エバンズ＝ブリッチャードの大冊『アザンデ人たちにみられる妖術・託宣・呪術』から始めたほうがよいであろうし、彼に対するフランス系知識社会学派の影響を理解しておく必要もある。解釈学的人类学は、ヴェーバー理解社会学に由来し、現象学・解釈学理論にのっているわけだが、その代表的論客のクリフォード・ギアツの研究は、歴史、生態、親族、儀礼・宗教、市場・経済、政治にまたがって研究範囲が一見ひろいばかりでなく、彼の立場は60年代、70年代、80年代と変化がみられる。脱構築派の理解にはフーコー等の現代思想、それに、マリノフスキー以来の代表的民族誌、それらを批判して試みられたラビノー

らの反省的民族誌認などの知識が前提とされる。認知科学的人類学は人類学のみならず認知研究の学際的知識を要する。ギアツの弟子であったモロッコ文化研究後のラビノーは解釈学研究、フーコー研究、フランス文化社会論を経て、90年代から先端医療研究に転じたわけだが、科学技術の人類学や先端医療の人類学には、自然科学先端研究・先端医療の最新学説の知識などが要求される。フェミニスト人類学による文化批判、マイノリティ系人類学者による新「人種」論、ゲイ研究、第四世界ネイティブ人類学の出現、等々、実にさまざまな試みがおこなわれているし、生物学者にして哲学的フェミニスト人類学者ドナ・ハラウェイの諸説は難解である。最近の考古人類学的進化適応環境理論は、更新世時代の精神医学症状や芸術起源説とも関連して実におもしろいが、通常の狭い文化人類学の枠組みを超える姿勢が要求される。というわけで、パラダイム検討を問題にする全体論的学際志向・嗜好はもつものの、単発コースとして組むやりかたにより、テーマをあつかえる範囲で毎年、より狭く限定せざるをえない。本年度は、一昨年・昨年と北アメリカの代表的医療人類学者を招いた流れをふりかえりつつ、医療人類学・心理人類学の学説を脱構築派以降の現代人類学の流れに照らして検討する。古典ではなく現代の動向をあつかうが、医療人類学の始祖とされるW.H. リヴァーズを現代の流れから参照点として用いる検討を一部おこない、また、社会人類学的医療研究と心理人類学系が展開した医療研究とを比較する。文献は講義時に指示する。

文化人類学特論

現代性や都市性を基軸に伝統文化を考える一国家・資本制のなかの生活文化研究

講師(非常勤) 和崎 春日

授業科目の内容:

国家社会や資本制のなかでの「民俗」や文化のあり方を考える。対象文化を「今」の動きの中に置く。民俗文化や民族文化は、国民国家という枠組みから力を加えられて生きていかざるを得ない。また、世界の隅々にある民族文化も資本の流れのなかで生きている。常にこうした動きの中で民族誌を志向するということである。人々の生活実践からすれば、「上」からの意志がおりてくるオリエンテーションと、「下」からの意志がせりあがるオリエンテーションとがぶつかったり交渉したりする「場」で考える。それは主に都市であるが、村落的な共同体であってもいい。こうして、グローバリゼーションのなかでのローカル文化の動態を問うていくことになるだろう。

大学院生の個人テーマ発表と重ねながら、演習のかたちでディスカッションしていきたい。

歴史民俗学特論

講師(非常勤) 中西 裕二

授業科目の内容:

歴史人類学、歴史民俗学の諸研究に見られる、歴史と文化・民俗文化の関係性について考察を深めていく。とくに歴史人類学と歴史民俗学におけるAnthropology at Homeの持つ意義、日本の宗教民俗文化を対象とした歴史と民俗の関係性、華人研究を対象とした歴史と文化の関係性、の3つを主要なテーマとして講義を進める。

コミュニケーション特論

名誉教授 青池 慎一

授業科目の内容:

履修者の研究テーマを考慮して、関連するコミュニケーション理論(マス・コミュニケーション理論、イノベーション普及理論などを含む)および方法論について検討する。

コミュニケーション特論

メディアの認知的、感情的影響

文学部 教授 李 光 鎬

授業科目の内容:

様々なメディアコンテンツの内容・形式上の諸属性が、我々の認知や感情にどのような影響を与えるのかについて理論および実証例の両方から検討していく。

コミュニケーション特論

商学部 准教授 吉川 肇子

授業科目の内容:

組織コミュニケーションについて詳細に論じます。文献講読とともに、受講生の研究計画の検討なども行います。

コミュニケーション特論

メディア・ネットワークとコンテンツ

メディア・コミュニケーション研究所

教授 菅谷 実

授業科目の内容:

メディア・ネットワーク理論およびコンテンツ政策についての文献を講読する。

マス・コミュニケーション特論

メディアと社会の関係を読み解く

講師(非常勤) 大井 眞二

授業科目の内容:

テキストを講読しながら、以下の項目を議論する。

1. メディアとデモクラシー
2. 社会制度としてのメディア
3. ジャーナリズムとメディア
4. デモクラシーにおけるメディアの機能

5. 政府とメディア
6. メディアの構造と機能
7. その他

マス・コミュニケーション特論

法学部 教授 大石 裕
 メディア・コミュニケーション研究所
 教授 菅谷 実
 メディア・コミュニケーション研究所
 教授 萩原 滋

授業科目の内容：

ジャーナリズム，メディア・コミュニケーションに関する研究報告を毎回行う。

マス・コミュニケーション特論

政治コミュニケーション研究／世論研究

講師（非常勤） 谷藤悦史

授業科目の内容：

本マス・コミュニケーション特論では，春学期には政治コミュニケーションについて，秋学期には，世論について広く検討する。春学期の政治コミュニケーションについては，現代民主主義国家における政治情報，マス・メディアとジャーナリストの政治的役割，選挙過程と政治マーケティング，政治宣伝，ニューメディアと政治などの問題を扱うが，本年はマス・メディアと民主主義が中心的テーマになる。

秋学期の世論研究では，近代啓蒙期における世論観，近代民主主義と世論，現代民主主義における世論の位置，現代における世論形成過程，現代の世論論争などについて検討する。

社会心理学特論

テレビの社会的役割の再検討

メディア・コミュニケーション研究所
 教授 萩原 滋

授業科目の内容：

本年度は，記憶や知識・情報の共有装置としてのテレビの役割に注目し，インターネットへの依存度が高まる中でテレビ視聴様式の変化，テレビが果たしてきた社会的役割の変化について考えてみたい。

社会心理学特論

Ex-Role を考える

文学部 教授 三井宏隆

授業科目の内容：

Ex-Role という観点から，「個人と社会」について考える。今日のように変化の激しい社会においては，さまざまな形で社会的地位の変動が生じる。それは同時に社会的役

割の変化を伴うが，これまでは主として新たに取得した役割への適応に焦点があてられてきた。ここではそれまで保持してきた役割（ex-role）の方に焦点をあて，当該者並びに関係者はそうした事態にどのように対処し，折合いをつけようとしているかを文献を通して検討する。

社会学演習

法学部 教授 有末 賢

授業科目の内容：

基本的には受講生の研究テーマの報告を主として授業を進めていく予定である。人数にもよるが，修士論文，博士論文，学会報告，投稿論文などの中間報告として討論を進めていきたい。

場合によっては，文献の輪読，ゲスト・スピーカーの講演なども考えられる。

社会学演習

文学部 准教授 織田輝哉

授業科目の内容：

本授業では，合理的選択の社会学として，ジェームズ・コールマンの『社会理論の基礎』を引き続き取り上げて，ミクロマクロ問題，社会関係資本，社会的交換，団体行為者等についての理解を深めるとともに，コールマンの理論の展開として，上記のトピックスに関連する諸文献を取り上げていく予定である。具体的な進め方については，参加者と相談して決めていきたい。

社会学演習

社会階層と格差

文学部 教授 鹿又伸夫

授業科目の内容：

社会階層と社会移動に関わる実証的研究を扱う。とくに世代間の職業階層移動における機会格差，地位達成過程のメカニズム，社会階層と配偶者選択・婚姻（学歴同類婚），社会階層と所得格差などをあつかう研究を取り上げたい。

社会学演習

グローバリゼーションと多文化交差社会の国際社会学——世界・日本／オーストラリア

法学部 教授 関根政美

授業科目の内容：

*本授業は，本授業担当者を指導・副指導教授とする修士課程院生の修士論文作成指導を中心とした授業である。他の院生の受講を妨げるものではないが，前もって相談してほしい。

*授業の内容は，各院生の研究報告をもとに質疑応答を行う演習授業とする。修士論文作成を中心とした授業と

なるので、①修士論文の内容に関連した先行研究としての研究書あるいは論文についての報告・質疑応答、②修士論文そのものの報告と質疑応答、などを行う予定である。なお、必要に応じて、学部研究会学生の聴講を求める場合もある。

*なお、関根を指導・副指導教授としないものでも修士論文作成に当たり、参考のため授業に参加したいという院生はメールにて前もって相談すること。

社会学演習

都市・まちづくり・公共性の比較社会学

文学部 教授 藤田 弘 夫

授業科目の内容：

下記の目的をもった複合的演習です。

- ① 各人の論文作成に向けてのディスカッション
- ② 研究会・講演会・学会等の参加
- ③ フィールド・ワーク

社会学演習

文学部 教授 渡 辺 秀 樹

授業科目の内容：

参加者の研究報告を中心とする（社会学特論とともに履修することが望ましい）。

社会史演習

経済学部 教授 倉 沢 愛 子
名誉教授 清 水 透

目標・意義・方法：

歴史学におけるフィールドワークの重要性を認識するとともに、その過程で行き当たるであろう様々な問題を考え、解決策を見出す努力をする。

授業科目の内容：

社会史とは、人間社会を経済のみならず、政治・社会・文化などさまざまな側面からなる全体ととらえる研究方法である。この全体としての人間社会に接近する方法も、経済学のみならず、政治学・社会学・人類学など隣接する人間諸科学を包含したものである。社会史は、具体的・歴史的事象を細部にわたり分析すると同時に、絶えず新しい領域を開拓し、新しい方法論的枠組を創りだすことにある。その意味で、固定した方法・領域をもたない。

本演習においてはその様な多様な側面のうち、フィールドワークを基礎とする歴史研究に焦点をあて、以下の3点を中心に議論・検討する。

- (1) 歴史研究学の方法：文献史学とオーラルヒストリー
- (2) 研究者と研究対象との関係性：知的営みとしての歴史研究と日常
- (3) 個と普遍の問題：個と大状況、日常と非日常

社会史演習

病気と医療の社会史

経済学部 教授 鈴木 晃 仁

授業科目の内容：

「病気と医療と身体の社会史」の方法を学び、その視点を近現代日本に応用する。具体的には感染症（コレラを中心とする）を取り上げる

文化人類学学説演習

医療人類学特論

文学部 准教授 北 中 淳 子

授業科目の内容：

医療、科学技術文化に関する文化人類学的、医療人類学的アプローチを学ぶことを目的とする。春学期には、文化人類学の学説史とエスノグラフィーを読み、医療人類学の基盤となっている文化人類学の理論的枠組み・方法論について論じる。秋学期には、医療人類学とその近接領域（宗教人類学、医療社会学、サイエンス・スタディズ）における最新の論文を読み、病いの文化をめぐる人類学研究の今後の方向性について議論したい。

文化人類学学説演習

文学部 教授 宮 坂 敬 造

授業科目の内容：

文化人類学諸学説をその時代背景とパラダイムとのかかわりに留意しつつ、社会認識論的分析の地平にたって検討する演習をおこなう。日本民俗学等の学説の流れは他コースであつかわれているので、本コースでは欧米にはじまった国際的学派の検討が中心。本年度は、医療および宗教（ただし、宗教学系プロパーの内容および現代の宗教人類学系の話題は他コースで提供されているので、本コースでは直接あつかわず、学説の関連の範囲で取りあげる）、さらには文化精神医学の動向の一部をとりあげて検討していく。主として80年代以降の文化批判人類学の流れとの関係であつかうが、一部は人類学的医療・宗教研究の基礎的文獻をもちいて学説に関する演習をおこなう。ひとつの柱は、社会科学的でありつつも人文学的人類学思想史といった色彩になり、単に調査にいつてすぐ調べてわかることを報告するという姿勢だけでなく、異文化理解調査方法論批判、ポスト・コロニアリズム言説分析・心理人類学の衰退と復活などの話題もふまえた＜理論的構造的動態理解＞を重視する。文献については講義時に指示するが、北中准教授のコースの医療人類学プロパーの内容にも関連した広い問題を文化人類学パラダイムにひきつけて扱う。文化人類学学説特論であつかう現代人類学、文化批判・社会認識枠組み再検討の人類学の各種話題に関連する文献講読、履修学生の研究課題に関連する文献検討を扱う科目。

文化人類学演習

文学部 教授 鈴木 正 崇

授業科目の内容：

文化人類学・民俗学・宗教学に関する修士論文と博士論文の作成のための指導を行なう。

民俗学演習

講 師（非常勤） 梅 屋 潔

授業科目の内容：

日本民俗学あるいはその関連分野に関する論文を書く者に対する指導を行う。履修者の発表と討論を主体とするゼミ形式をとる。初回に履修者の意向をきくので必ず出席のこと。

歴史民俗学演習

文学部 教授 鈴木 正 崇

授業科目の内容：

文化人類学・民俗学・宗教学の日本語文献を読む演習で、古典・話題作・翻訳などを幅広く選定して、履修者の研究内容に応じたテキストを選び、報告や討論を行う。最初の時間に文献リストを配布して予定を立てる。

コミュニケーション演習

メディア影響研究における方法論

文学部 教授 李 光 鎬

授業科目の内容：

本演習では、コミュニケーション特論（メディアの認知的、感情的影響）と連係する形で、メディアの影響を検証する際に用いられる調査、実験方法および統計分析技法について検討する。

マス・コミュニケーション演習

法学部 教授 大 石 裕

授業科目の内容：

ジャーナリズム、政治コミュニケーションに関する文献を読む。また、学会発表や論文作成に向けての研究発表も行う。

社会心理学演習

キャリアとジェンダー

文学部 教授 鈴木 淳 子

授業科目の内容：

若年男女のキャリア発達とジェンダーにかかわる態度と行動の検討を通して、現代社会において心理的安寧と幸福感をもってキャリアを形成するとはどのようなことであるかについて考察する。

社会心理学演習

メディア研究の技法

メディア・コミュニケーション研究所

教授 萩 原 滋

授業科目の内容：

受講者各自のテーマに即した実証的研究の方法、特に内容分析や質問紙調査といった技法の理解を深める。

社会心理学演習

文学部 教授 三 井 宏 隆

授業科目の内容：

社会心理学特論（社会心理学特殊研究）とあわせて、2コマ続きの授業として行うので履修者は両方に登録することが必要となる。

また履修者の必要に応じて論文指導を行う。

未来先導チェアシップ講座（大和証券寄附講座）（秋学期）

文明のサイヤンス

——人文・社会科学と古典的教養の新たな継承——

コーディネーター 経済学部 教授 杉 浦 章 介

文学部 教授 中 川 純 男

経済学部 教授 小 室 正 紀

授業科目の内容：

講座の趣旨

近代社会は、人間と世界のあるべき姿を文明という名に託して追求しつづけてきた。近代社会を支えた古典的教養は、この文明をサイエンスすることを根元的課題としていたともいえる。しかし現代において、世界観の混乱にもかかわらず、学問は、細分化と技術化により、時としてその課題を忘れがちである。

そのような現状の中で、人文・社会科学に蓄積された高度な古典的教養の力は、今、あらためて見直さなければならない。さまざまな国や地域で蓄積されてきた伝統は、文化の多様性の源泉であるとともに、人類協調のよりどころとなるべき共通の財産である。人文・社会科学はそのような人類の蓄積を研究領野としてきたのである。

福澤諭吉は『文明論之概略』において、文明を「外あらわるる事物」と「内に存する精神」の二面から見た。「外にあらわるる事物」は、鉄道、通信、医学、工業技術のような、主に自然科学が生み出す成果である。しかし、求めるのがより難しいものは「内に存する精神」であり、その分析と追求こそが科学すなわち福澤の発音で言う「サイヤンス」の喫緊の課題であると考えた。現代の人文・社会科学は、福澤の提起したこの課題にどこまで答えられているのだろうか。

以上のような観点から本講義においては、文明を「サイヤンス」するに当たっての古典的教養の意味を、人文・社会科学の多様な分野における最先端の知見を通して問

い直したい。

講義は、比較的分野の近い、海外から招聘した講師と国際的に評価されている日本人研究者とが関連して講義を担当することで、義塾における人文・社会科学の研究が学問の国際的ネットワークに連なるものであることをあらためて見直す機会を提供するとともに、若い学徒が学問を志すことの歴史的社会的な意味を自覚する機会となることを期待している。

講座の構成と履修形態

講座は、オムニバス形式の2単位科目。各講師は2コマないし3コマを担当し、合計で18～20コマを開講する。履修者はそのうちから12コマ以上を履修することによって、単位を申請することができる。

講義は、土曜日4時限に設定されているが、特に海外から講師を招聘する日程上の都合により、必ずしもその時間に開講されるとは限らず、金曜日・土曜日と連続して開講される場合などがある。

主な講義担当者

Alain Corbin (ソルボンヌ大学教授)

主領域：人文科学・社会科学にまたがる総合的な視点からの感性の歴史学など

小倉孝誠 (慶應義塾大学文学部教授)

主領域：19世紀フランスにおける文学と社会、アラン・コルバンの訳もある。

鷺見洋一 (慶應義塾大学名誉教授)

主領域：百科全書派など、フランスやイタリアにおける18世紀啓蒙時代における知

Alan Mcfarlane (ケンブリッジ大学教授 Fellow of King's College)

主領域：民俗学的手法を援用したイギリス史、文明史。福沢諭吉についても考察。

斎藤修 (一橋大学経済研究所教授)

主領域：比較経済史、歴史人口学

Bertram Schefold (ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学教授)

主領域：ヨーロッパ経済学史。日本や中国を含む世界の前近代の経済思想。

池田幸弘 (慶應義塾大学経済学部教授)

主領域：オーストリア経済学史

Neil McLynn (オックスフォード大学教授、元慶應義塾大学法学部教授)

主領域：西洋古典学。古代教会史、とくに東西教会におけるキリスト教と政治。

西村太良 (慶應義塾大学教授・常任理事)

主領域：西洋古典学、ギリシア文学

大芝芳弘 (首都大学東京教授)

主領域：西洋古典学、ラテン文学

心理学専攻

実験心理学特論Ⅲ (春学期特定期間集中)

特別招聘教授 (非常勤) ペズデック, キャシー

授業科目の内容:

この授業では、「応用認知心理学」の研究の進め方について実践的に学ぶことを目的とします。履修者諸君は集中講義期間の前に、指定された課題文献に目を通しておくことが求められます。集中講義では、文献の研究について議論し、それに基づきグループで新たな研究の計画を立案します。受講者は集中講義の後に、計画に沿ってデータを集め、論文を作成することが期待されます。

なお、集中講義後の研究の遂行、論文の作成に関しては、メールでアドバイスをしますが、人文グローバルCOEのプロジェクト科目(伊東裕司担当)と連携して共同で指導することも予定しています。どちらかの科目だけを単独で履修することも可能ですが、両者を併せて履修することを勧めます。

比較心理学特論Ⅲ (春学期特定期間集中)

特別招聘教授 (非常勤) ゼントール, トーマス R.

授業科目の内容:

Advanced Topics in Learning: Animal Cognition

Objectives

Animal cognition provides a bridge between the extensive literature on animal learning and behavior and a similarly extensive literature on human cognition. We will take an analytic approach with Morgan's Canon as a premise: A Do not attribute to an animal a higher cognitive ability when a lower cognitive ability will do. Conversely, we will ask, what evidence would be required to rule out alternative accounts of behavior in terms of simpler associative mechanisms. For the first class, please read the first 4 articles.

Readings

1. Concept Learning

A. Perceptual concepts

Herrnstein, R. J., & Loveland, D. H. (1964). Complex visual concept in the pigeon. *Science*, 146, 549-551.

B. Relational concepts

Zentall, T. R., & Hogan, D. E. (1976). Pigeons can learn identity, difference, or both. *Science*, 191, 408-409.

Wasserman, E. A., Young, M. E., & Cook, R. G. (2004). Variability

discrimination in humans and animals: Implications for adaptive actions. *American Psychologist*, 59, 879-890.

C. Associative concepts

Zentall, T. R. (2000). Symbolic representation by pigeons. *Current Directions in Psychological Science*, 9, 118-123.

2. Imitation

Zentall, T. R., & Levine, J. M. (1972). Observational learning and social facilitation in the rat. *Science*, 178, 1220-1221.

Zentall, T. R. (2003). Imitation by animals: How do they do it? *Current Directions in Psychological Science*, 12, 91-95.

3. Reasoning

Woodruff, G. Premack, D., & Kennel, K. (1978). Conservation of liquid and solid quantity by the chimpanzee. *Science*, 202, 991-994.

Gillan, D. J. (1981). Reasoning in the chimpanzee: II. Transitive inference. *Journal of Experimental Psychology: Animal Behavior Processes*, 7, 150-164.

Weaver, J. E., Steirn, J. N., & Zentall, T. R. (1997). Transitive inference in pigeons: Control for differential value transfer. *Psychonomic Bulletin & Review*, 4, 113-117.

4. Episodic Memory and Future Planning

Clayton, N. S., & Dickinson, A. (1998, September 17). What, where, and when: Episodic-like memory during cache recovery by scrub jays. *Nature*, 395, 272-274.

Zentall, T. R., Clement, T. S., Bhatt, R. S., & Allen, J. (2001). Episodic-like memory in pigeons. *Psychonomic Bulletin & Review*, 8, 685-690.

Raby, C. R., Alexis, D. M., Dickinson, A., & Clayton, N. S. (2007). Planning for the future. *Nature*, 445, 919-921.

5. Metamemory, and Theory of Mind

Hampton, R. R. (2001). Rhesus monkeys know when they remember. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, USA, 98, 5359-5362.

Hare, B., Call, J., & Tomasello, M. (2001). Do chimpanzees know what conspecifics know? *Animal Behaviour*, 61, 139-151.

6. Self Recognition

Gallup, G. G., Jr. (1970). Chimpanzees: Self recognition. *Science*, 167, 86-87.

7. Altruism

Rice, E. C., & Gainer, P. (1962). "Altruism" in the albino rat. *Journal of Comparative and Physiological Psychology*, 55, 123-125.

Colman, A. G., Liebold, K. E., & Boren, J. J. (1969). A method for studying altruism in monkeys. *Psychological Record*, 19, 401-405.

計量行動学特論Ⅱ (秋学期)

環境情報学部 教授 渡 辺 利 夫

授業科目の内容 :

心理学で使用される分散分析および多変量解析を理論的側面および実際の側面から学んでゆく。統計フリーソフトである R 言語を使用して、実際のデータを分析することによってデータ解析の力を強化してゆく。

基礎行動学特論Ⅱ (春学期特定期間集中)

選択行動研究の 50 年 : 行動的意思決定研究の来し方・行く末

講 師 (非常勤) 伊 藤 正 人

授業科目の内容 :

選択行動研究は、1960 年代初頭にオペラント条件づけ研究の中から誕生した意思決定研究の一分野である。選択行動研究においては、ヒトや動物の選択原理であるマッチング法則の発見を背景に、実際の選択場面における個体の選択行動に影響する様々な要因の探索が指向され、理論的側面では、マッチング法則の一般化やその拡張、経済学や生物学における最大化理論の影響を受けた、改善理論や強化率最大化理論などの選択行動の理論化に焦点があてられた。こうした研究の進展の中から、選択行動研究は、行動経済学や実験経済学、行動生態学など経済学や生物学との学際的研究領域を生み出すことになった。本講義では、こうした選択行動研究を振り返り、行動的意思決定研究の現状と将来について考察してみたい。

神経科学特論Ⅲ (秋学期)

臨床神経心理学

講 師 (非常勤) 河 村 満

授業科目の内容 :

脳病変による高次脳機能の障害を検討する学問が神経心理学です。その臨床的アプローチについて解説します。脳の認知・行動・記憶・言語機能障害の検討を通じて、大脳機能の仕組みを理解できるようにします。

臨床心理学特論Ⅱ (春学期)

認知発達とその支援

講 師 (非常勤) 岡 崎 慎 治

授業科目の内容 :

臨床心理学における心理査定、特に認知発達障害における特性査定のための個別心理検査の中で、WISC-IIIやK-ABC, DN-CAS といった、子どもの知的能力、認知能力を客観的に評価しようとする検査は、子どもの認知面の弱さだけでなく、強さについても知るための情報を提供しうる点で、特別支援教育の進展とあわせて、非常に重要な位置づけを持つものとして活用範囲が広がっています。

この授業では、上述した心理検査を中心に、認知発達とその支援に関わる心理検査の内容とその活用について概説します。

関連することとして、認知発達に関連する神経科学的研究知見ならびに認知に関わる諸機能の発達とその障害についての概説もあわせて行います。

また、これらの知見をふまえた実際の事例対応についても検討する機会としたいと考えます。

臨床心理学特論Ⅲ（春学期特定期間集中）

社会情動発達とその支援

講師（非常勤）井上雅彦

授業科目の内容：

以下の内容、特に支援方法に重点をおいて解説しミニ演習をあわせて行います。

発達障害のある幼児から成人までの社会性発達とその困難性について焦点を当て、応用行動分析学における支援方法について学びます。

精神動作研究（通年特定期間集中）

[春] 講師（非常勤）臼井伸之介

[秋] 講師（非常勤）尾入正哲

（春学期）

ヒューマンエラー・事故の心理学

授業科目の内容：

精神動作研究、つまり知覚運動協応のようなテーマは古くから「技能」の研究として、応用心理学の重要な研究課題であった。本研究では技能習得と密接な関係にある人間の失敗、すなわちヒューマンエラーに焦点を当て、その認知的発生プロセスについて解説する。また高度にシステム化された現代社会において、人間の些細なミスが重大事故につながる可能性があるが、その事故発生に人間がいかに関与するか、その防止に心理学がいかに関与するか等について本講義では考える。

（秋学期）

労働負担と作業環境の心理学

授業科目の内容：

労働負担と作業環境の諸問題は、古くから産業心理学の重要な研究課題であった。労働負担を適切なものにし、快適な作業環境を整備することは、作業者の健康や安全にとって欠かせない条件である。秋学期には、疲労や労働負担の評価法・交代制勤務の問題点・オフィス環境の快適性・閉鎖環境の心理といったテーマについて概説する。産業現場や研究機関の見学も行う予定である。

心理学特殊実験A

文学部 教授 山本淳一

授業科目の内容：

本実験は心理学実験の組み方、解析法を年間を通じて学ぶものである。

心理学特殊実験B

文学部 教授 山本淳一

授業科目の内容：

本実験は心理学実験の組み方、解析法を年間を通じて学ぶものである。

知覚心理学演習

知覚の基礎理論

文学部 教授 増田直衛

授業科目の内容：

知覚心理学における重要な理論ならびに方法を過去から現在にいたるまで、比較検討し、今後の知覚研究のあり方を探る。こしばらくはゲシュタルト心理学の創設者 Max Werheimer に関する論考を中心に精読している。

発達心理学演習

言語発達とその支援

文学部 教授 山本淳一

授業科目の内容：

本演習では、「言語発達の基礎」ならびに「言語発達の支援」を系統的に学習する。まず、それらの概説を講義によっておこなう。次に、各テーマについての内外の最先端の研究を発表、討議する演習を行う。また、事例検討を行い、言語発達支援の実際を学ぶ。テーマは、以下のものである。

- (1) 言語発達と言語発達支援の概説
- (2) 言語発達の生物学的神経科学的基礎
- (3) 言語発達とコミュニケーション
- (4) 言語発達と認知
- (5) 文法の獲得
- (6) 読み書きの獲得
- (7) 言語発達のアセスメント技法
- (8) 言語発達障害のメカニズム
- (9) 言語障害と言語発達支援
- (10) 発達障害と言語発達支援
- (11) コミュニケーション支援
- (12) 言語発達支援の場

認知心理学演習

人間の認知・記憶研究の最前線

文学部 教授 伊東裕司

授業科目の内容：

人間の認知・記憶に関する研究についての論文の講読、自分自身の研究の発表、議論を行う。受講者は交代で、以下の3種類のすべてを、最低1回担当する。

- 1) 指定論文の紹介、およびディスカッション・リーダー：授業担当者が指定した、認知・記憶に関する実験心理学的研究の論文の内容を紹介し、討論のポイントを示し、討論の進行役を務める。担当する学生は1週間前までに他の受講者に討論ポイントを示し、受講者は当日までに論文を読み、討論ポイントに関する自分の意見を整理しておくことが要求される。
- 2) 自分の研究の関連論文の紹介：自分の行っている研究に関連する先行研究をまとめて紹介する。以下の条件を満たしていることが要求される。a. 複数の論文(目安として5編以上)をまとめること。自分の研究(未刊行でも可)を含んでいてもよい。b. 整理の仕方、問題点や将来の研究の展望などに独自のものを含み、自分の研究課題との関連性を明確にすること。
- 3) 自分の研究の発表：自分の研究の計画、データ、考察などについて発表を行う。完成していない研究でもかまわないが、研究の理論的な位置づけに関しては認知心理学観点から明確に論じること。発表、議論は英語で行う。

生物心理学演習 I

文学部 教授 渡辺 茂

授業科目の内容：

この講義は展望論文を書くための技法を学ぶものです。およそ100篇程度の論文を読み、そのなかから重要とおもわれるものを紹介し、最終的に論文に仕上げます。

生物心理学演習 II

講師(非常勤) 小嶋祥三

授業科目の内容：

認知機能と脳機能の研究を重ね合わせて、現象を理解することを目指す。

行動修正実習 I A

臨床発達心理学の実習

文学部 教授 山本 淳一

文学部 助教 大森 貴秀

講師(非常勤) 田熊 立

授業科目の内容：

本実習は、行動修正、応用行動分析学の枠組みと技法を中心として、発達臨床や発達支援において、必要な諸

技法の習得を目的とした実習を行う。様々な発達障害を持つ子どもと保護者に社会学研究科実習室に来談してもらい、十分な説明と合意を前提として、(1) コミュニケーションの発達支援、(2) 認知機能の発達支援、(3) 社会機能の獲得と情動の安定のための発達支援などを行う。受講生は、担当のスーパーバイザーのもと、実際に発達支援を実施する。実習を通して、発達障害の評価、発達検査・心理検査などによるアセスメントの実施、発達の軸となる行動の抽出、技法の選択と導入、単一事例研究計画法にもとづく介入効果の評価、学校や園への波及効果の評価、保護者・関係機関へのコンサルテーション、などを学ぶ。学年末には、事例報告を提出することを条件とする。

行動修正実習 I B

臨床発達心理学の実習

文学部 教授 山本 淳一

文学部 助教 大森 貴秀

講師(非常勤) 田熊 立

授業科目の内容：

行動修正実習 I A と同じ。

教育学専攻

教育学演習

教職課程センター 教授 鹿毛 雅治

授業科目の内容：

教育学研究のみならず、一般に研究活動をするにあたっては、研究者としての自分自身が拠って立つ基盤や自らの「立ち位置」について自覚的に確認する営みが必要不可欠だといえるでしょう。本演習では、履修者と担当教員が協同的にその検討を行うことを通して、私たちが自分自身の研究活動に対してより自覚的に向かい合っていくための学習機会を設定したいと考えています。

教育学には、「〇〇教育学」(「比較教育学」など)、「教育〇〇学」(「教育社会学」など)といった「教育」をその名称に含む諸学問(以下、「〇〇教育学」と表現します)が含まれており、そのそれぞれは独自の研究内容、研究方法、成立過程などによって特徴づけられています。教育学とは、「教育」を共通のテーマとした学問の「統合体」であるともいえますが、諸学問の性質の違いによって相互に「対話」が成立しづらいことなどもあって、教育学とは教育に関する研究の単なる「寄せ集め」に過ぎないというのが現状かもしれません。このように必ずしも体系的ではない教育学の実態を踏まえると、教育学や「〇〇教育学」自体を(その存在意義も含めて)問い、教育学をめぐる「地図」を自分なりに描き、自分の研究や自分自身がどこに位置しているかについて確認していく過

程は、これらの学問の限界に気づき、既存の体系に批判的（場合によっては懐疑的）な立場に立つことも含めて、大学院生として教育学、とりわけ「〇〇教育学」を専門的に研究していくにあたって有益な学習活動なのではないかと考えています。

そこで本演習では、受講生諸君が、自分の専門分野としての「〇〇教育学」とは何か、さらにはそもそも「教育学とは何か」という問いを中心とした探究（文献研究、国内外の「テキスト」の分析、研究者へのインタビュー調査など）を行って、その過程や成果を発表し、討論を行っていきます。積極的な参加を期待しています。

教育哲学演習

「文化遺産の伝達」としての「教育」とは何か

講師（非常勤）生 田 久美子

授業科目の内容：

「教育は文化遺産の伝達である」という命題は、教育という営みにおけるひとつの真理を表明する命題である。しかし、「文化遺産」とはそもそも「何」なのか、またそうした「文化遺産」を「伝達」とはどのような活動であるのか。本講では、「何を文化遺産としてみなしてきた（いる）のか」を明らかにすることによって、またそれを「伝達」とは何かを問うことによって、上記の命題の妥当性について検討する。その際、J. R. マーティンの『カルチュラル・ミスエデュケーション』（間違った文化遺産の伝達）に関する議論を手がかりとする。マーティンの議論を検討しながら、「文化遺産の伝達」としての「教育」がいかなる課題を克服すべきかを、受講者とともに考えていきたい。

教育哲学演習

文学部 教授 舟山 俊明

授業科目の内容：

以下のテキストを輪読しながら19世紀後半から20世紀初頭ドイツにおける人文科学史（精神科学史）一般を、当時の精神史や社会史を背景にして考察しながら、その現代的意義を考えます。

教育哲学演習

文学部 教授 真壁 宏幹

授業科目の内容：

ドイツ改革教育運動に関する基本的文献をなるべく多く読みたい。その際特に芸術教育運動に焦点をあてつつ、各研究書が示す論じ方、評価に注意していくことにする。進め方は、講読ではなく、発表形式。

教育哲学特論

文学部 教授 舟山 俊明

授業科目の内容：

この授業では近年の「教育哲学」上の諸問題を、幾つかの代表的な雑誌論文の言説を吟味しながら、「教育を研究する」ことの意味と視座を再度検討する。

教育学史特論

文学部 教授 真壁 宏幹

授業科目の内容：

イマヌエル・カントの『(実用的見地における)人間学』(1798年)と『教育学(講義)』(1803年)を読んでいく。基本的には岩波書店のカント全集を使用するが、ドイツ語が読める参加者は同時に以下のドイツ語原文も参照してほしい。

Immanuel Kant, *Antropologie in pragmatischer Hinsicht*(Herausgeber: Oswald Külpe), in: Kant's Gesammelte Schriften. Herausgegeben von der Königlich Preußischen Akademie der Wissenschaften, Bd. VII, 1917.

Immanuel Kant, *Über Pädagogik*. (Herausgeber: Friedrich Theodor Rink), in: Kant's Gesammelte Schriften. Herausgegeben von der Königlich Preußischen Akademie der Wissenschaften, Bd. IX, 1923.

教育史演習

江戸儒学の教育思想史的検討

文学部 教授 山本 正身

授業科目の内容：

近代社会において教育とは、意図的・計画的に組織された学校という機関を通して、国家・社会の発展に必要とされる知識・技能をその将来を担う成員に授ける営み、として理解されている（少なくとも、これが近代社会での教育認識の中核をなしている）。今日の私たち一般の教育認識も、おそらく以上のような理解の線に沿って形成されている、と見なしてよい。

だが、目を前近代社会に転ずると、そこには上記のものとは異質の教育認識が様々な主張となってあらわれていた。概していえば、その教育認識とは一定の組織や計画、あるいは場合によっては「教える」という働きかけをも前提としない、その意味で外側からの形成という意味合いの稀薄なものであったといえる。それゆえ、前近代社会においては教育思想と呼ぶことのできる思想は微弱であった、と評されることもある。

ただし、こうした「教える」ことに関わる思想の微弱さは、必ずしも人間形成に関わる思想全体が未成熟な段階に止まっていたことを意味するわけではない。たとえ「教える」思想が微弱・稀薄であったとしても、前近代社会には、主体的・自律的に「学ぶ」ことを説く思想が普

及していたからである。そして、前近代社会において「学び」の思想を代表するものが儒学思想であったことはいうまでもない。

本演習は、以上のことを踏まえ、「学び」の視点から人間形成の問題を論じた思想体系として、いわゆる「古義学」に着眼点を据える。一般的に、「古義学」は伊藤仁斎(1627-1705)の学として論ぜられる傾向にあるが、授業担当者は「古義学」完成形態の担い手はその嫡子東涯(1670-1736)であったと考えている。その理解に基づき、本研究では東涯の名著『訓幼字義』(享保二年、京兆廣文堂發行)を講読し、そこに示された「<学び>の視点からなる人間形成論」の思想構造と思想史的意味を探ることとする。なお、同書は初学者を対象に仮名交じり文で著された述作であるが、その講読作業は古文書解読の訓練にもなると考えている。なお、授業形態は毎回「輪読」を重ねるものとなる。

教育史演習

教職課程センター 教授 米山光儀

授業科目の内容：

主に教育史に関わる論文作成指導を行なう。学会・研究会での発表準備を行なうことも考えている。授業では原則として、参加者が執筆してきた論文を検討する。なお、授業は時間内に終了しないこともあるので注意すること。

教育史特論Ⅰ

研究論文(日本教育史)執筆の技法

文学部 教授 山本正身

授業科目の内容：

基本的に受講者の執筆した論文を相互に検討する。それを通して日本教育史の分野において、研究論文の執筆にどのような手順や要件があるのか、またどのような内容や形式を備えていることが求められるのか、などを吟味する。ただし、この吟味作業は単に論文作成のためのハウツーを問題にするのではなく、日本教育史を研究するということのそもそもの研究上の意味を自覚的に問うことから始められる。

受講者には、一年間を通して不断に研究論文の執筆とその経過報告が課せられることになる。その意味からも積極的かつ意欲的な学生の参加を希望するものである。なお、授業のスケジュールは受講者が確定した段階で決定する。

教育史特論Ⅱ

教職課程センター 教授 米山光儀

授業科目の内容：

この授業では三つのことを目的とする。第一は、参加者が共通に日本教育史の基礎的な知識を持つことである。そのために通史的要素を持つ書籍を読む。第二は、教育

史の方法を身につけることである。本年は学校史を検討する。第三は、参加者の研究に必要な先行研究を検討することである。参加者は原則として毎回報告することが課せられる。詳細については、第一回目の授業で相談する。

比較教育学演習

アメリカの教育思想史とテスト政策の現状

講師(非常勤) 北野秋男

授業科目の内容：

- ①アメリカ独立期以来の教育思想史(とりわけ公立学校の普及)の特色を講義する。
 - ②19C末～20C初の新教育運動の特色と思想を講義する。
 - ③現代のアメリカのテスト政策の理念と現状を講義する。
- 以上の点を講義するが、日本との比較も念頭に置きながら授業を進める。

比較教育学特論Ⅱ

ジェンダーと教育

講師(非常勤) 坂本辰朗

授業科目の内容：

本特論では、アメリカ合衆国の教育改革の潮流を、特にジェンダーという分析視角からみてゆきます。80年代初頭における教育におけるエクセレンス実現の運動から始まったアメリカ合衆国の教育改革は、その後、多文化教育や学校のリストラクチャリング、コンピュータ・ネットワーク利用の遠隔学習など、多くの課題項目を掲げつつ、今日に至っています。それらの多くが、日本を含め世界各地に少なからぬ影響をあたえてきました。

授業では、具体的ないくつかの改革事例をとりあげつつ、一方でそれらの教育改革の背後にあるポストモダンなどの社会理論との関係を、他方で階級や人種・エスニシティといった問題との相互関連を注意しつつ考えてゆきます。

教育心理学演習

文学部 教授 安藤寿康

授業科目の内容：

履修者自身の研究成果を紹介し、それをめぐってディスカッションを行います。発表内容は、研究計画、解析結果、関連文献の紹介など、各自が自分の研究を進める上でその時点で最も適切と思われる内容と形式を決めて下さい。なお研究発表とディスカッションはすべて英語で行います。

教育心理学演習

文学部 教授 安藤 寿康
教職課程センター 教授 伊藤 美奈子
教職課程センター 教授 鹿毛 雅治

授業科目の内容：

この科目は広く教育心理学に関連する領域を研究するものが、各自の関心に則って最新の雑誌論文を紹介しながら、教育心理学の動向を幅広く把握し、かつそれを批判しながら創造的な議論を行うことが目的である。

教育心理学演習

教職課程センター 教授 伊藤 美奈子

授業科目の内容：

教育臨床に関する学術論文を作成するための指導を行います。

教育心理学演習

言語教育の方法

言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

授業科目の内容：

文献の検討、受講者による発表などにより、言語教育の方法について考える。受講希望者は必ず第1回目の講義に出席のこと。やむをえない都合で欠席する場合は必ず事前に電子メール（oyukio@sfc.keio.ac.jp宛）で担当者に連絡のこと。

教育心理学演習

教職課程センター 教授 鹿毛 雅治

授業科目の内容：

教育心理学の分野で学術論文を書こうとしている大学院生に対して論文作成指導を行います。

教育心理学特論Ⅰ

教職課程センター 教授 伊藤 美奈子

授業科目の内容：

教育臨床に関する国内外の研究論文の講読、発表、討論を行う。最新の研究テーマや研究手法について学ぶとともに、「学校」における教育臨床の現状と課題についても、実践的な観点から考えていきたい。

教育心理学特論Ⅱ（通年特定期間集中）

認知と社会化の応用発達心理学

講師（非常勤） 中澤 潤

授業科目の内容：

本講義では子どもに関わる応用発達心理学の2つのテーマを取り上げます。

1.マンガをよむということ（マンガの読解をめぐる諸問題）

日本発の子どものメディアとして「マンガ」は近年

世界的な注目を浴びている。「マンガ」の読解に関わる認知的・社会的諸要因を検討する。

2.問題解決としての社会的行動（仲間関係の発達をめぐる諸問題）

子どもの仲間関係形成の基礎としての社会的行動を導く認知的制御・情緒的制御、また仲間関係における適応に関わる発達精神病理学を検討する。

教育心理学特論Ⅲ

生成文法

講師（非常勤） 鈴木 猛

授業科目の内容：

参加者の興味・修士論文のテーマ等に合わせた重要な論文等を読んでいく。

教育心理学特論Ⅳ

脳科学と社会

講師（非常勤） 佐倉 統

講師（非常勤） 福士 珠美

授業科目の内容：

- ・脳科学と社会の関係性について、教育学・進化生物学・生命倫理学などのかかわりを踏まえながら総合的に考えます。
- ・脳科学や進化生物学、生命倫理学の知識がなくても基礎から学んでいけます。
- ・関連分野の原著論文や英文創設を演習で扱い、英語の読解力、プレゼンテーションスキルの向上をめざします。
- ・演習で扱う題材によって、慶應大学内や学外の脳科学研究施設を見学する機会があります。

教育心理学特論Ⅴ

教職課程センター 教授 鹿毛 雅治

授業科目の内容：

「学習意欲」に関する心理学文献を扱います。参加者全員が文献を発表することとし、それをもとに教育心理学の観点から討議します。

教育心理学実習

文学部 教授 安藤 寿康

授業科目の内容：

教育心理学の実証的研究を進めていく上で必要な方法論的諸問題（測定概念、統計手法、倫理的手続きなど）について検討する。詳細は受講者との話し合いの上決定する。また文学部設置科目「教育測定実験」と併置されており、学部生を対象に測定や実験のインストラクターとしての教育訓練も行う。

教育学特講（春学期特定期間集中）

特別招聘教授（非常勤） ガーンハム、アラン

授業科目の内容：

この集中講義では、統語解析を中心に言語理解について講ずる。講義の理解には、言語学、とくに生成文法の理解が必要である。受講希望者は必ず4月末日までに、以下の要領で、受け入れ担当教員の大津由紀雄に電子メールで連絡すること。

件名欄： ガーンハム集中講義履修相談

（上記以外の形式ははじかれてしまうので注意）

宛先： oyukio@sfc.keio.ac.jp

講義要綱（博士課程）

社会学専攻

社会学特殊研究

法学部 教授 有末 賢

授業科目の内容：

基本的には受講生の研究テーマの報告を主として授業を進めていく予定である。人数にもよるが、修士論文、博士論文、学会報告、投稿論文などの中間報告として討論を進めていきたい。

場合によっては、文献の輪読、ゲスト・スピーカーの講演なども考えられる。

社会学特殊研究

メディアと社会の関係を読み解く

講師（非常勤） 大井 眞 二

授業科目の内容：

テキストを講読しながら、以下の項目を議論する。

1. メディアとデモクラシー
2. 社会制度としてのメディア
3. ジャーナリズムとメディア
4. デモクラシーにおけるメディアの機能
5. 政府とメディア
6. メディアの構造と機能
7. その他

社会学特殊研究

法学部 教授 大石 裕

メディア・コミュニケーション研究所

教授 菅谷 実

メディア・コミュニケーション研究所

教授 萩原 滋

授業科目の内容：

ジャーナリズム、メディアコミュニケーションに関する研究発表を毎行なう。

社会学特殊研究

現代社会論

文学部 教授 岡原 正 幸

授業科目の内容：

受講者の論文指導を授業の基本にすえたいと思います。ただその中で、ミクロ社会学理論、自我自己論、感情社会学、あるいは障害学関係の研究書が適切な指針になると思う場合には、参加者全員である研究書の読解を進め

る場合もあります。

ただし、参加者の専門分野については、理論社会学（ミクロ社会学、現代社会学）およびフィールドワークを基本にするリサーチ研究に限定します。まずは現代社会学論として提示されている諸理論から手をつけるつもりです。消費社会学論、ポストモダン論、個人化論、マクドナルド化論、などを射程に入れますが、テキストにあげた書物から始めたいと思います

社会学特殊研究

自己の社会学理論

講師（非常勤）片桐雅隆

授業科目の内容：

社会学の立場からの自己論の理論的検討、および、現代社会学の解明のための自己論の応用可能性の検討が本授業の主要な目的です。その目的達成のために必要な講義や文献の解説を行います。

社会学特殊研究

教育達成とジェンダー格差

文学部 教授 鹿又伸夫

授業科目の内容：

社会階層と社会移動に関わる実証的研究を扱う。とくに教育達成における機会格差とジェンダー格差に焦点をあてたい。先進各国では教育制度改革と高学歴化によって教育の不平等が緩和され、高等教育進学性の性別格差は消失してきたかに見える。しかし、実質的には出身階層格差が温存されているという議論があり、その議論を検証する研究が国際的におこなわれている。そうした研究の動向を検討したい。

社会学特殊研究

社会学理論研究

法学部 教授 霜野寿亮

授業科目の内容：

本講義の狙いは理論社会学の視点を中心に議論することにある。論点を見いだすための文献候補として次を挙げておくが、最終的には履修者の研究関心にあわせて決めることにしたい。

社会学特殊研究

トランスナショナル化する世界の中の都市と地域

経済学部 教授 杉浦章介

授業科目の内容：

トランスナショナル化する世界の中における都市や地域について最新の研究文献を輪読しながら、理論と実証の両面について理解を深める。

下記のテキストを中心に関連文献を輪読する。

社会学特殊研究

グローバリゼーションと多文化交差社会の国際社会学——
世界・日本／オーストラリア

法学部 教授 関根政美

授業科目の内容：

本授業では、授業担当者の専門である「脱工業化・グローバリゼーションと多文化交差社会の人種・民族・エスニシティ・多文化主義の政治社会学」に関連するテーマを適宜選択して行う。キーワードとしては他に、多文化共生・競生、移民・難民・外国人労働者、先住民、市民権、アイデンティティ・ポリティクス、民族紛争・文化戦争・極右政党、ポリティカル・コレクトネスなどがある。授業担当者は、以上のテーマを「現代先進社会（日本含む）」に共通する問題として、理論的な考察をするとともに（国際政治社会学者）、現代オーストラリアを題材に、上述のテーマを中心に考察する地域研究者でもある。本授業では、理論的考察を中心に実施する予定である。しかし、日本研究や第3世界研究を志す諸君にとっても民族・エスニック問題を考える上で役立つであろうし、他の参加者にとってもよい刺激となるだろう。授業は演習形式で行う。履修者諸君には、英文の最新の研究書や論文を読んでもらい、内容について報告とコメントをしてもらい、質疑応答をしながら授業を進めてゆくつもりである。履修者の数にもよるが、報告は1回のセッションで複数の学生に競争的に行ってもらおう。それは、各自の独自の観点からのコメントを提出してもらい、授業での議論を盛り上げてもらいたいからである。*政治学専攻との併設授業である。

社会学特殊研究

政治コミュニケーション研究／世論研究

講師（非常勤）谷藤悦史

授業科目の内容：

本社会学特殊研究では、春学期には政治コミュニケーションについて、秋学期には、世論について広く検討する。春学期の政治コミュニケーションについては、現代民主主義国家における政治情報、マス・メディアとジャーナリストの政治的役割、選挙過程と政治マーケティング、政治宣伝、ニューメディアと政治などの問題を扱うが、本年はマス・メディアと民主主義が中心的テーマになる。

秋学期の世論研究では、近代啓蒙期における世論観、近代民主主義と世論、現代民主主義における世論の位置、現代における世論形成過程、現代の世論論争などについて検討する。

社会学特殊研究

経済学部 教授 長谷川 淳一
経済学部 准教授 崔 在 東

授業科目の内容：

本科目では、社会経済史の視点から、欧米を中心とする各地の歴史を考察する。とりわけ「日常」にかかわる具体的な歴史事象を、社会経済全体の「構造」と関連づけながらとらえる方法を陶冶することを目的としつつ、活発に討論したい。

本科目で取り上げるテーマ（担当教員の守備範囲）は、およそ次のようなものである。

1. 生活環境と生活水準
2. 労働と消費生活
3. 都市と文化
4. 家族・親族・共同体と個人主義
5. 人的移動の諸相

受講者の専門・研究テーマ・興味関心が広い意味でこれらのテーマと重なり合えば、問題はない。また、考察対象地域についても、欧米に限定するものではない。

演習形式を採用する。参加者には、本科目の趣旨を踏まえた上で、各自の専門領域の研究史・研究動向を幅広くしかも詳細に紹介し、その中で自らの研究の位置づけを明らかにするような報告を求める。この報告を参加者全員で共有し、それについて議論したい。このことを通じて、何よりも参加者各自の研究が刺激され、またそれが同時に参加者全員への刺激となることが望まれる。

社会学特殊研究

近代化論

[春] 文学部 教授 浜 日出夫
[秋] 講師(非常勤) 出口 剛 司

授業科目の内容：

(春学期) コミュニタリアニズムの系譜について検討する。
(秋学期) 00年代に入り、ポストモダニズム言説や社会構築主義が低迷するなか、厚生経済学、政治哲学、社会倫理学の影響を受け、社会学の領域にいても価値や規範の正当化に関する議論が活発化しつつある。本講義は、社会学理論に対する規範理論の影響を踏まえ、『コミュニケーション的行為の理論』以降のハーバーマスの批判的社会理論について考察する。講義は参加者による文献の報告と討論という形で進めていく。

社会学特殊研究

都市生活と公共性の比較社会学

文学部 教授 藤田 弘 夫

授業科目の内容：

今年は「観光と都市」をテーマとしながら、これまで続けてきている都市と公共性の比較社会学研究を進めた

いと考えています。その際、とくに写真資料の利用について新しい議論を展開したいと思っている。具体的には下記テキストの輪読と映像資料について議論したいと考えている。

社会学特殊研究

経済学部 教授 矢野 久
経済学部 教授 長谷川 淳一
経済学部 准教授 井手 英 策
経済学部 准教授 難波 ちづる

授業科目の内容：

社会史は、「下からの歴史」を「上からの歴史」との関連において描くために、「総合の学」=関連諸ディシプリンの援用をもってその方法的特徴としている。担当者はイギリス、フランスとドイツにおける都市と文化、労働と消費、生活環境、植民地支配などを専門の守備範囲としているが、受講者の研究テーマ、問題関心が重なれば受講を歓迎する。考察対象地域も英仏独に限定するものではない。授業の形式は演習方式とし、講義とそれに続く討論を通じて、新しい論点の提起、方法的枠組の再構築を試行したい。読むべき文献は、そのテーマ毎に指示する。

社会学特殊研究

アジア系移民の現在

文学部 教授 吉原 和 男

授業科目の内容：

日本をはじめ、世界各地に住むアジア出身の国際移動者の移動過程とその背景を考察する。中国人、韓国人、そして東南アジア・南アジア各国の人々を中心にみていく。

社会学特殊研究

文学部 教授 渡辺 秀 樹

授業科目の内容：

家族・教育・ジェンダーを中心として扱う。

社会学特殊講義（春学期）

文学部 教授 浜 日出夫

授業科目の内容：

下記の文献の講読を行なう。

Stephen Riggins, "Fieldwork in the Living Room: An Autoethnographic Essay." *The Socialness of Things: Essays on the Socio-semiotics of Objects*. Berlin: Mouton de Gruyter, pp. 101-147.

Stephen Riggins, "The Rhetoric of Othering." *The Language and Politics of Exclusion: Others in Discourse*. Thousand Oaks, CA: Sage, pp. 1-30.

社会学特殊講義（秋学期）

社会的ネットワーク論の家族研究への応用

講師（非常勤） 藤 崎 宏 子

授業科目の内容：

「社会的ネットワーク」の概念が社会人類学の分野で創出され、社会学の新しい分析概念として導入されてから半世紀以上が経過した。この間、社会的ネットワーク概念は、人類学、社会学のみならず、社会老年学、政治学、（社会）心理学、看護学、社会福祉学などの諸分野で多用されている。社会学分野に限ってみても、都市社会学、家族社会学、政治社会学、社会階層論、福祉社会学、社会運動論、組織社会学、数理社会学などの連字社会学の諸領域に導入され、多くの実証研究の成果を生んできた。また最近では、ソーシャル・キャピタル論との接点や、インターネットの普及にともなうヴァーチャル空間でのネットワークの影響への注目など、新たな研究テーマの広がりを見せている。

本演習では、社会的ネットワーク論の系譜をたどりつつ、家族研究・高齢者研究における社会的ネットワーク論の応用可能性について考える。具体的には、主として、高齢者の社会関係（家族関係、友人関係、地域関係等）、高齢者介護へのサポートなどを扱った論文を読むことを通して、社会的ネットワーク論の有用性と限界について考察を深めたい。

社会学特殊講義（秋学期特定期間集中）

他者表象の言説分析

特別招聘教授（非常勤） リギンズ, スティーヴン H.

授業科目の内容：

前半では、ゴフマンを中心にマイクロ社会学について講義を行なう。とくにゴフマンの自己呈示論を用いて人間とモノの相互作用を考察する「モノの社会学」について論じる。

後半には、じっさいに新聞記事などを素材として言説分析の手法についてワークショップを行なう。とくにメディア言説に表れているマイノリティの表象を分析し社会的排除について考察する。

文化人類学特殊研究

文学部 教授 鈴木 正 崇

授業科目の内容：

前期は文化人類学・民俗学・宗教学に関連する英文の専門書を読む予定で、最初の授業の時に候補を数冊挙げて履修者の希望によって決定する。フィールドは東アジア（日本を含む）と南アジアである。後期は英文の学会誌 The Journal of the Royal Anthropological Institute, American Ethnologist, American Anthropologist, Cultural Anthropology, Journal of Asian Studies などから履修者の主題にあった論

文を選択して読む。

文化人類学特殊研究

文学部 教授 宮 坂 敬 造

授業科目の内容：

文化人類学諸学説をその時代背景とパラダイムとのかかわりに留意しつつ、社会認識論的分析の地平に立って検討していく。日本民俗学の流れは他コースにあるので、本コースでは欧米にはじまった国際的学派の検討が中心。また、学説特論なので地域研究という特定地域中心という体裁はとらない。また、本コースの枠内ではバランスよくすべてにわたって諸学説を検討することはできないことにも留意してほしい。言語人類学やエスノサイエンス学派については文学研究科で一部あつかわれているようだが代表的言語学理論・社会言語学の知識が不可欠となる。構造人類学とその批判についてはかなりの社会哲学的素養が必要となるが、まずその前に人類学的親族研究と社会組織研究展開の知識を要する。マイナーかもしれないが象徴的文化コミュニケーション研究系フォークロア研究の諸学説も技芸言語パフォーマンス表現分析に有効であるが、それを一分野にふくむ文化記号論の領野もまことにひろい。現代の宗教人類学は他コースで提供されているので直接あつかわないが、学説をあつかうのであれば、エバンズ＝ブリッチャードの大冊『アザンデ人たちにみられる妖術・託宣・呪術』から始めたほうがよいであろうし、彼に対するフランス系知識社会学派の影響を理解しておく必要もある。解釈学的人类学は、ヴェーバー理解社会学に由来し、現象学・解釈学理論にのっているわけだが、その代表的論客のクリフォード・ギアツの研究は、歴史、生態、親族、儀礼・宗教、市場・経済、政治にまたがって研究範囲が一見ひろいばかりでなく、彼の立場は60年代、70年代、80年代と変化がみられる。脱構築派の理解にはフーコー等の現代思想、それに、マリノフスキー以来の代表的民族誌、それらを批判して試みられたラビノーらの反省的民族誌認などの知識が前提とされる。認知科学的人类学は人類学のみならず認知研究の学際的知識を要する。ギアツの弟子であったモロッコ文化研究後のラビノーは解釈学研究、フーコー研究、フランス文化社会論を経て、90年代から先端医療研究に転じたわけだが、科学技術的人类学や先端医療的人类学には、自然科学先端研究・先端医療の最新学説の知識などが要求される。フェミニスト人類学による文化批判、マイノリティ系人類学者による新「人種」論、ゲイ研究、第四世界ネイティブ人類学の出現、等々、実にさまざまな試みがおこなわれているし、生物学者にして哲学的フェミニスト人類学者ドナ・ハラウェイの諸説は難解である。最近の考古人類学的進化適応環境理論は、更新世時代の精神医学症状や芸術起源説とも関連して実におもしろいが、通常の狭い

文化人類学の枠組みを超える姿勢が要求される。というわけで、パラダイム検討を問題にする全体論的学際志向・嗜好はもつものの、単発コースとして組むやりかたにより、テーマをあつかえる範囲で毎年、より狭く限定せざるをえない。本年度は、一昨年・昨年と北アメリカの代表的医療人類学者を招いた流れをふりかえりつつ、医療人類学・心理人類学の学説を脱構築派以降の現代人類学の流れに照らして検討する。古典ではなく現代の動向をあつかうが、医療人類学の始祖とされる W.H. リヴァーズを現代の流れから参照点として用いる検討を一部おこない、また、社会人類学的医療研究と心理人類学系が展開した医療研究とを比較する。文献は講義時に指示する。

文化人類学特殊研究

国家・資本制のなかの生活文化研究—都市を基軸にして

講師（非常勤）和崎春日

授業科目の内容：

国家社会や資本制のなかでの「民俗」や文化のあり方を考える。対象文化を「今」の動きの中に置く。民俗文化や民族文化は、国民国家という枠組みから力を加えられて生きていかざるを得ない。また、世界の隅々にある民族文化も資本の流れのなかで生きている。常にこうした動きの中で民族誌を志向するということである。人々の生活実践からすれば、「上」からの意志がおりてくるオリエンテーションと、「下」からの意志がせりあがるオリエンテーションとがぶつかったり交渉したりする「場」で考える。それは主に都市であるが、村落的な共同体であってもいい。こうして、グローバリゼーションのなかでのローカル文化の動態を問うていくことになるだろう。

大学院生の個人テーマ発表と重ねながら、演習のかたちでディスカッションしていきたい。

歴史民俗学特殊研究

講師（非常勤）中西裕二

授業科目の内容：

歴史人類学、歴史民俗学の諸研究に見られる、歴史と文化・民俗文化の関係性について考察を深めていく。とくに歴史人類学と歴史民俗学における Anthropology at Home の持つ意義、日本の宗教民俗文化を対象とした歴史と民俗の関係性、華人研究を対象とした歴史と文化の関係性、の3つを主要なテーマとして講義を進める。

コミュニケーション特殊研究

名誉教授 青池慎一

授業科目の内容：

履修者の研究テーマを考慮して、関連するコミュニケーション理論（マス・コミュニケーション理論、イノベーション理論などを含む）、および方法論について検討する。

コミュニケーション特殊研究

メディアの認知的、感情的影響

文学部 教授 李光鎬

授業科目の内容：

様々なメディアコンテンツの内容・形式上の諸属性が、我々の認知や感情にどのような影響を与えるのかについて理論および実証例の両方から検討していく。

コミュニケーション特殊研究

商学部 准教授 吉川肇子

授業科目の内容：

組織コミュニケーションについて詳細に論じます。文献講読とともに、受講生の研究計画の検討なども行います。

コミュニケーション特殊研究

メディア・ネットワークとコンテンツ

メディア・コミュニケーション研究所

教授 菅谷実

授業科目の内容：

履修者の博士研究論文研究テーマに関する理論的検討を中心とした研究指導を行う。

社会学特殊演習

法学部 教授 有末賢

授業科目の内容：

基本的には受講生の研究テーマの報告を主として授業を進めていく予定である。人数にもよるが、修士論文、博士論文、学会報告、投稿論文などの中間報告として討論を進めていきたい。

場合によっては、文献の輪読、ゲスト・スピーカーの講演なども考えられる。

社会学特殊演習

法学部 教授 大石裕

授業科目の内容：

ジャーナリズム、政治コミュニケーションに関する文献を読む。また、学会発表や論文作成に向けての研究発表も行う。

社会学特殊演習

社会階層と格差

文学部 教授 鹿又伸夫

授業科目の内容：

社会階層と社会移動に関わる実証的研究を扱う。とくに世代間の職業階層移動における機会格差、地位達成過程のメカニズム、社会階層と配偶者選択・婚姻（学歴同類婚）、社会階層と所得格差などをあつかう研究を取り上

げたい。

社会学特殊演習

経済学部 教授 倉 沢 愛 子
名誉教授 清 水 透

目標・意義・方法：

歴史学におけるフィールドワークの重要性を認識するとともに、その過程で行き当たるであろう様々な問題を考え、解決策を見出す努力をする。

授業科目の内容：

社会史とは、人間社会を経済のみならず、政治・社会・文化などさまざまな側面からなる全体ととらえる研究方法である。この全体としての人間社会に接近する方法も、経済学のみならず、政治学・社会学・人類学など隣接する人間諸科学を包含したものである。社会史は、具体的・歴史的事象を細部にわたり分析すると同時に、絶えず新しい領域を開拓し、新しい方法論的枠組を創りだすことにある。その意味で、固定した方法・領域をもたない。

本演習においてはその様な多様な側面のうち、フィールドワークを基礎とする歴史研究に焦点をあて、以下の3点を中心に議論・検討する。

- (1) 歴史研究学の方法：文献史学とオーラルヒストリー
- (2) 研究者と研究対象との関係性：知的営みとしての歴史研究と日常
- (3) 個と普遍の問題：個と大状況、日常と非日常

社会学特殊演習

病気と医療の歴史社会学

経済学部 教授 鈴 木 晃 仁

授業科目の内容：

「病気と医療と身体の社会史」の方法を学び、その視点を近現代日本に応用する。具体的にはコレラを中心とする感染症を取り上げる

社会学特殊演習

グローバリゼーションと多文化交差社会の政治社会学——世界・日本／オーストラリアの国際社会学

法学部 教授 関 根 政 美

授業科目の内容：

*授業担当者の関根は、「脱工業化・グローバリゼーション交差社会の人種・民族・エスニシティ・ナショナリズム・多文化主義」の政治・社会学の理論的研究と、オーストラリアを事例とする地域研究を行っている。

*授業の形式は、各院生の研究報告をもとに質疑応答を行う演習授業とする。博士論文作成を中心とした授業となるので、①博士論文の内容に関連した先行研究としての研究書あるいは論文についての報告・質疑応答、博士論文関連の調査報告に基づく質疑応答を行う。②博士論

文そのものに関する報告と質疑応答、また、③後期博士課程の院生は『法学・政治学論究』をはじめ、所属学会における学会・研究会報告、あるいは所属学会『学会誌』への投稿を行わなければならない。学会報告や投稿の前に報告と質疑応答を行いながら準備を進める。

*本授業は、関根を指導・副指導教授とするものを中心に実施するが、そうでない院生でも、博士論文作成に当たり、授業に参加したいという院生は前もってメールにて相談すること。

社会学特殊演習

都市・まちづくり・公共性の比較社会学

文学部 教授 藤 田 弘 夫

授業科目の内容：

下記の目的をもった複合的演習です。

- ① 各人の論文作成に向けてのディスカッション
- ② 研究会・講演会・学会等の参加
- ③ フィールド・ワーク

社会学特殊演習

文学部 教授 渡 辺 秀 樹

授業科目の内容：

参加者の研究報告を中心とする（社会学特殊研究とともに履修することが望ましい）。

文化人類学特殊演習

文学部 教授 鈴 木 正 崇

授業科目の内容：

文化人類学・民俗学・宗教学に関係する修士論文と博士論文の作成のための指導を行なう。

文化人類学特殊演習

文学部 教授 宮 坂 敬 造

授業科目の内容：

文化人類学諸学説をその時代背景とパラダイムとのかかわりに留意しつつ、社会認識論的分析の地平にたつて検討する演習をおこなう。日本民俗学等の学説の流れは他コースであつかわれているので、本コースでは欧米にはじまった国際的学派の検討が中心。本年度は、医療および宗教（ただし、宗教学系プロパーの内容および現代の宗教人類学系の話題は他コースで提供されているので、本コースでは直接あつかわず、学説の関連の範囲で取りあげる）、さらには文化精神医学の動向の一部をとりあげて検討していく。主として80年代以降の文化批判人類学の流れとの関係であつかうが、一部は人類学的医療・宗教研究の基礎的文献をもちいて学説に関する演習をおこなう。ひとつの柱は、社会科学的でありつつも人文学の人類学思想史といった色彩になり、単に調査にいつてすぐ調べ

てわかることを報告するという姿勢だけでなく、異文化理解調査方法論批判、ポスト・コロニアリズム言説分析・心理人類学の衰退と復活などの話題もふまえたく理論的構造的動態理解を重視する。文献については講義時に指示するが、北中准教授のコースの医療人類学プロパーの内容にも関連した広い問題を文化人類学パラダイムにひきつけて扱う。文化人類学学説特論であつかう現代人類学、文化批判・社会認識枠組み再検討の人類学の各種話題に関連する文献講読、履修学生の研究課題に関連する文献検討を扱う科目。

歴史民俗学特殊演習

文学部 教授 鈴木 正 崇

授業科目の内容：

文化人類学・民俗学・宗教学の日本語文献を読む演習で、古典・話題作・翻訳などを幅広く選定して、履修者の研究内容に応じたテキストを選び、報告や討論を行う。最初の時間に文献リストを配布して予定を立てる。

コミュニケーション特殊演習

文学部 教授 李 光 鎬

授業科目の内容：

本演習では、コミュニケーション特殊研究（メディアの認知的、感情的影響）と連係する形で、メディアの影響を検証する際に用いられる調査、実験方法および統計分析技法について検討する。

社会心理学特殊演習

キャリアとジェンダー

文学部 教授 鈴木 淳 子

授業科目の内容：

若年男女のキャリア発達とジェンダーにかかわる態度と行動の検討を通して、現代社会において心理的安寧と幸福感をもってキャリアを形成するとはどのようなことであるかについて考察する。

社会心理学特殊研究

テレビの社会的役割の再検討

メディア・コミュニケーション研究所
教授 萩原 滋

授業科目の内容：

本年度は、記憶や知識・情報の共有装置としてのテレビの役割に注目し、インターネットへの依存度が高まる中でテレビ視聴様式の変化、テレビが果たしてきた社会的役割の変化について考えてみたい。

社会心理学特殊研究

文学部 教授 三井 宏 隆

授業科目の内容：

「社会心理学特論」と同じ。そちらを参照のこと。

社会心理学特殊研究

生涯発達心理学・キャリア発達論・組織行動論

名誉教授 南 隆 男

授業科目の内容：

メンターシップ(mentorship)／メンタリング(mentoring)と呼ばれていることについて、その「基底」と現在時点における「意味」とについて考察します。

社会心理学特殊演習

メディア研究の技法

メディア・コミュニケーション研究所
教授 萩原 滋

授業科目の内容：

受講者各自のテーマに即した実証的研究の方法、特に内容分析や質問紙調査といった技法の理解を深める。

社会心理学特殊演習

生涯発達心理学・キャリア発達論・組織行動論

名誉教授 南 隆 男

授業科目の内容：

現今における我々「日本人」の、とりわけ、青年期・成人期（以降）の生涯発達／キャリア発達の諸問題について、関連文献・論文を参照しつつ、考察します。

社会心理学特殊演習

文学部 教授 三井 宏 隆

授業科目の内容：

「社会心理学演習」と同じ。そちらを参照のこと。

未来先導チェアシップ講座（大和証券寄附講座）（秋学期）

文明のサイヤンス

——人文・社会科学と古典的教養の新たな継承——

コーディネーター 経済学部 教授 杉 浦 章 介
文学部 教授 中 川 純 男
経済学部 教授 小 室 正 紀

授業科目の内容：

講座の趣旨

近代社会は、人間と世界のあるべき姿を文明という名に託して追求しつづけてきた。近代社会を支えた古典的教養は、この文明をサイエンスすることを根元的課題としていたともいえる。しかし現代において、世界観の混迷にもかかわらず、学問は、細分化と技術化により、時としてその課題を忘れがちである。

そのような現状の中で、人文・社会科学に蓄積された高度な古典的教養の力は、今、あらためて見直さなければならぬ。さまざまな国や地域で蓄積されてきた伝統は、文化の多様性の源泉であるとともに、人類協調のよりどころとなるべき共通の財産である。人文・社会科学はそのような人類の蓄積を研究領野としてきたのである。

福澤諭吉は『文明論之概略』において、文明を「外あらわるる事物」と「内に存する精神」の二面から見た。「外にあらわるる事物」は、鉄道、通信、医学、工業技術のような、主に自然科学が生み出す成果である。しかし、求めるのがより難しいものは「内に存する精神」であり、その分析と追求こそが科学すなわち福澤の発音で言う「サイヤンス」の喫緊の課題であると考えた。現代の人文・社会科学は、福澤の提起したこの課題にどこまで答えられているのだろうか。

以上のような観点から本講義においては、文明を「サイヤンス」するに当たっての古典的教養の意味を、人文・社会科学の多様な分野における最先端の知見を通して問い直したい。

講義は、比較的分野の近い、海外から招聘した講師と国際的に評価されている日本人研究者とが関連して講義を担当することで、義塾における人文・社会科学の研究が学問の国際的ネットワークに連なるものであることをあらためて見直す機会を提供するとともに、若い学徒が学問を志すことの歴史的社会的な意味を自覚する機会となることを期待している。

講座の構成と履修形態

講座は、オムニバス形式の2単位科目。各講師は2コマないし3コマを担当し、合計で18～20コマを開講する。履修者はそのうちから12コマ以上を履修することによって、単位を申請することができる。

講義は、土曜日4時限に設定されているが、特に海外から講師を招聘する日程上の都合により、必ずしもその時間に開講されるとは限らず、金曜日・土曜日と連続して開講される場合などがある。

主な講義担当者

Alain Corbin (ソルボンヌ大学教授)

主領域：人文科学・社会科学にまたがる総合的な視点からの感性の歴史学など

小倉孝誠 (慶應義塾大学文学部教授)

主領域：19世紀フランスにおける文学と社会、アラン・コルバンの訳もある。

鷲見洋一 (慶應義塾大学名誉教授)

主領域：百科全書派など、フランスやイタリアにおける18世紀啓蒙時代における知

Alan Mcfarlane (ケンブリッジ大学教授 Fellow of King's College)

主領域：民俗学的手法を援用したイギリス史、文明史。福澤諭吉についても考察。

斎藤修 (一橋大学経済研究所教授)

主領域：比較経済史、歴史人口学

Bertram Schefold (ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学教授)

主領域：ヨーロッパ経済学史。日本や中国を含む世界の前近代の経済思想。

池田幸弘 (慶應義塾大学経済学部教授)

主領域：オーストリア経済学史

Neil McLynn (オックスフォード大学教授、元慶應義塾大学法学部教授)

主領域：西洋古典学。古代教会史、とくに東西教会におけるキリスト教と政治。

西村太良 (慶應義塾大学教授・常任理事)

主領域：西洋古典学、ギリシア文学

大芝芳弘 (首都大学東京教授)

主領域：西洋古典学、ラテン文学

心理学専攻

実験心理学特殊研究Ⅲ (春学期特定期間集中)

特別招聘教授 (非常勤) ペズデック, キャシー

授業科目の内容：

この授業では、「応用認知心理学」の研究の進め方について実践的に学ぶことを目的とします。履修者諸君は集中講義期間の前に、指定された課題文献に目を通しておくことが求められます。集中講義では、文献の研究について議論し、それに基づきグループで新たな研究の計画を立案します。受講者は集中講義の後に、計画に沿ってデータを集め、論文を作成することが期待されます。

なお、集中講義後の研究の遂行、論文の作成に関しては、メールでアドバイスをしますが、人文グローバルCOEのプロジェクト科目(伊東裕司担当)と連携して共同で指導することも予定しています。どちらかの科目だけを単独で履修することも可能ですが、両者を併せて履修することを勧めます。

比較心理学特殊研究Ⅲ（春学期特定期間集中）

特別招聘教授（非常勤） ゼントール, トーマス R.

授業科目の内容：

Advanced Topics in Learning: Animal Cognition

Objectives

Animal cognition provides a bridge between the extensive literature on animal learning and behavior and a similarly extensive literature on human cognition. We will take an analytic approach with Morgan's Canon as a premise: Do not attribute to an animal a higher cognitive ability when a lower cognitive ability will do. Conversely, we will ask, what evidence would be required to rule out alternative accounts of behavior in terms of simpler associative mechanisms. For the first class, please read the first 4 articles.

Readings

1. Concept Learning

A. Perceptual concepts

Herrnstein, R. J., & Loveland, D. H. (1964). Complex visual concept in the pigeon. *Science*, *146*, 549-551.

B. Relational concepts

Zentall, T. R., & Hogan, D. E. (1976). Pigeons can learn identity, difference, or both. *Science*, *191*, 408-409.

Wasserman, E. A., Young, M. E., & Cook, R. G. (2004). Variability discrimination in humans and animals: Implications for adaptive actions. *American Psychologist*, *59*, 879-890.

C. Associative concepts

Zentall, T. R. (2000). Symbolic representation by pigeons. *Current Directions in Psychological Science*, *9*, 118-123.

2. Imitation

Zentall, T. R., & Levine, J. M. (1972). Observational learning and social facilitation in the rat. *Science*, *178*, 1220-1221.

Zentall, T. R. (2003). Imitation by animals: How do they do it? *Current Directions in Psychological Science*, *12*, 91-95.

3. Reasoning

Woodruff, G., Premack, D., & Kennel, K. (1978). Conservation of liquid and solid quantity by the chimpanzee. *Science*, *202*, 991-994.

Gillan, D. J. (1981). Reasoning in the chimpanzee: II. Transitive inference. *Journal of Experimental Psychology: Animal Behavior Processes*, *7*, 150-164.

Weaver, J. E., Steirn, J. N., & Zentall, T. R. (1997). Transitive inference in pigeons: Control for differential value transfer. *Psychonomic Bulletin & Review*, *4*, 113-117.

4. Episodic Memory and Future Planning

Clayton, N. S., & Dickinson, A. (1998, September 17). What, where, and when: Episodic-like memory during cache recovery by scrub jays. *Nature*, *395*, 272-274.

Zentall, T. R., Clement, T. S., Bhatt, R. S., & Allen, J. (2001).

Episodic-like memory in pigeons. *Psychonomic Bulletin & Review*, *8*, 685-690.

Raby, C. R., Alexis, D. M., Dickinson, A., & Clayton, N. S. (2007). Planning for the future. *Nature*, *445*, 919-921.

5. Metamemory, and Theory of Mind

Hampton, R. R. (2001). Rhesus monkeys know when they remember. *Proceedings of the National Academy of Sciences, USA*, *98*, 5359-5362.

Hare, B., Call, J., & Tomasello, M. (2001). Do chimpanzees know what conspecifics know? *Animal Behaviour*, *61*, 139-151.

6. Self Recognition

Gallup, G. G., Jr. (1970). Chimpanzees: Self recognition. *Science*, *167*, 86-87.

7. Altruism

Rice, E. C., & Gainer, P. (1962). "Altruism" in the albino rat. *Journal of Comparative and Physiological Psychology*, *55*, 123-125.

Colman, A. G., Liebold, K. E., & Boren, J. J. (1969). A method for studying altruism in monkeys. *Psychological Record*, *19*, 401-405.

計量行動学特殊研究Ⅱ（秋学期）

環境情報学部 教授 渡辺利夫

授業科目の内容：

心理学で使用される分散分析および多変量解析を理論的側面および実際の側面から学んでゆく。統計フリーソフトである R 言語を使用して、実際のデータを分析することによってデータ解析の力を強化してゆく。

基礎行動学特殊研究Ⅱ（春学期特定期間集中）

選択行動研究の 50 年：行動的意思決定研究の来し方・行く末

講師（非常勤）伊藤正人

授業科目の内容：

選択行動研究は、1960 年代初頭にオペラント条件づけ研究の中から誕生した意思決定研究の一分野である。選択行動研究においては、ヒトや動物の選択原理であるマッチング法則の発見を背景に、実際の選択場面における個体の選択行動に影響する様々な要因の探索が指向され、理論的側面では、マッチング法則の一般化やその拡張、経済学や生物学における最大化理論の影響を受けた、改善理論や強化率最大化理論などの選択行動の理論化に焦点が当てられた。こうした研究の進展の中から、選択行動研究は、行動経済学や実験経済学、行動生態学など経済学や生物学との学際的研究領域を生み出すことになった。本講義では、こうした選択行動研究を振り返り、行動的意思決定研究の現状と将来について考察してみたい。

神経科学特殊研究Ⅲ（秋学期）

臨床神経心理学

講師（非常勤） 河村 満

授業科目の内容：

脳病変による高次脳機能の障害を検討する学問が神経心理学です。その臨床的アプローチについて解説します。脳の認知・行動・記憶・言語機能障害の検討を通じて、大脳機能の仕組みを理解できるようにします。

精神動作特殊研究（通年特定期間集中）

[春] 講師（非常勤） 臼井 伸之介

[秋] 講師（非常勤） 尾入 正哲

（春学期）

ヒューマンエラー・事故の心理学

授業科目の内容：

精神動作研究、つまり知覚運動協応のようなテーマは古くから「技能」の研究として、応用心理学の重要な研究課題であった。本研究では技能習得と密接な関係にある人間の失敗、すなわちヒューマンエラーに焦点を当て、その認知的発生プロセスについて解説する。また高度にシステム化された現代社会において、人間の些細なミスが重大事故につながる可能性があるが、その事故発生に人間がいかに関与するか、その防止に心理学がいかに関与するか等について本講義では考える。

（秋学期）

労働負担と作業環境の心理学

授業科目の内容：

労働負担と作業環境の諸問題は、古くから産業心理学の重要な研究課題であった。労働負担を適切なものにし、快適な作業環境を整備することは、作業者の健康や安全にとって欠かせない条件である。秋学期には、疲労や労働負担の評価法・交代制勤務の問題点・オフィス環境の快適性・閉鎖環境の心理といったテーマについて概説する。産業現場や研究機関の見学も行う予定である。

臨床心理学特殊研究Ⅱ（春学期）

認知発達とその支援

講師（非常勤） 岡崎 慎治

授業科目の内容：

臨床心理学における心理査定、特に認知発達障害における特性査定のための個別心理検査の中で、WISC-ⅢやK-ABC、DN-CASといった、子どもの知的能力、認知能力を客観的に評価しようとする検査は、子どもの認知面の弱さだけでなく、強さについても知るための情報を提供しうる点で、特別支援教育の進展とあわせて、非常に重要な位置づけを持つものとして活用範囲が広がっています。

この授業では、上述した心理検査を中心に、認知発達とその支援に関わる心理検査の内容とその活用について概説します。

関連することとして、認知発達に関連する神経科学的研究知見ならびに認知に関わる諸機能の発達とその障害についての概説もあわせて行います。

また、これらの知見をふまえた実際の事例対応についても検討する機会としたいと考えます。

臨床心理学特殊研究Ⅲ（春学期特定期間集中）

社会情動発達とその支援

講師（非常勤） 井上 雅彦

授業科目の内容：

以下の内容、特に支援方法に重点をおいて解説しミニ演習をあわせて行います。

発達障害のある幼児から成人までの社会性発達とその困難性について焦点を当て、応用行動分析学における支援方法について学びます。

知覚心理学特殊演習

知覚の諸理論

文学部 教授 増田 直衛

授業科目の内容：

知覚心理学に関わる書物及び論文を精読し、知覚研究の方法論を探る。ここしばらくはゲシュタルト心理学の創設者 Max Wertheimer に関する論考を中心に精読している。

発達心理学特殊演習

言語発達とその支援

文学部 教授 山本 淳一

授業科目の内容：

本演習では、「言語発達の基礎」ならびに「言語発達の支援」を系統的に学習する。まず、それらの概説を講義によっておこなう。次に、各テーマについての内外の最先端の研究を発表、討議する演習を行う。また、事例検討を行い、言語発達支援の実際を学ぶ。テーマは、以下のものである。

- (1) 言語発達と言語発達支援の概説
- (2) 言語発達の生物学的・神経科学的基礎
- (3) 言語発達とコミュニケーション
- (4) 言語発達と認知
- (5) 文法の獲得
- (6) 読み書きの獲得
- (7) 言語発達のアセスメント技法
- (8) 言語発達障害のメカニズム
- (9) 言語障害と言語発達支援
- (10) 発達障害と言語発達支援

- (11) コミュニケーション支援
- (12) 言語発達支援の場

認知心理学特殊演習

人間の認知・記憶研究の最前線

文学部 教授 伊東裕司

授業科目の内容：

人間の認知・記憶に関する研究についての論文の講読、自分自身の研究の発表、議論を行う。受講者は交代で、以下の3種類のすべてを、最低1回担当する。

- 1) 指定論文の紹介、およびディスカッション・リーダー：授業担当者が指定した、認知・記憶に関する実験心理学的研究の論文の内容を紹介し、討論のポイントを示し、討論の進行役を務める。担当する学生は1週間前までに他の受講者に討論ポイントを示し、受講者は当日までに論文を読み、討論ポイントに関する自分の意見を整理しておくことが要求される。
- 2) 自分の研究の関連論文の紹介：自分の行っている研究に関連する先行研究をまとめて紹介する。以下の条件を満たしていることが要求される。a. 複数の論文(目安として5編以上)をまとめること。自分の研究(未刊行でも可)を含んでいてもよい。b. 整理の仕方、問題点や将来の研究の展望などに独自のものを含み、自分の研究課題との関連性を明確にすること。
- 3) 自分の研究の発表：自分の研究の計画、データ、考察などについて発表を行う。完成していない研究でもかまわないが、研究の理論的な位置づけに関しては認知心理学観点から明確に論じること。発表、議論は英語で行う。

生物心理学特殊演習 I

文学部 教授 渡辺 茂

授業科目の内容：

英文での実験論文作成の技法の習得を目指します。

生物心理学特殊演習 II

講師(非常勤) 小嶋 祥三

授業科目の内容：

認知機能と脳機能の研究を重ね合わせて、現象を理解することを目指す。

行動修正特殊実習 I A

臨床発達心理学の実習

文学部 教授 山本 淳一

文学部 助教 大森 貴秀

講師(非常勤) 田熊 立

授業科目の内容：

本実習は、行動修正、応用行動分析学の枠組みと技法

を中心として、発達臨床や発達支援において、必要な諸技法の習得を目的とした実習を行う。様々な発達障害を持つ子どもと保護者に社会学研究科実習室に来談してもらい、十分な説明と合意を前提として、(1) コミュニケーションの発達支援、(2) 認知機能の発達支援、(3) 社会機能の獲得と情動の安定のための発達支援などを行う。受講生は、担当のスーパーバイザーのもと、実際に発達支援を実施する。実習を通して、発達障害の評価、発達検査・心理検査などによるアセスメントの実施、発達の軸となる行動の抽出、技法の選択と導入、単一事例研究計画法にもとづく介入効果の評価、学校や園への波及効果の評価、保護者・関係機関へのコンサルテーション、などを学ぶ。学年末には、事例報告を提出することを条件とする。

行動修正特殊実習 I B

臨床発達心理学の実習

文学部 教授 山本 淳一

文学部 助教 大森 貴秀

講師(非常勤) 田熊 立

授業科目の内容：

行動修正特殊実習 I A と同じ。

教育学専攻

教育学特殊演習

教職課程センター 教授 鹿毛 雅治

授業科目の内容：

教育学研究のみならず、一般に研究活動をするにあたっては、研究者としての自分自身が拠って立つ基盤や自らの「立ち位置」について自覚的に確認する営みが必要不可欠だといえるでしょう。本演習では、履修者と担当教員が協同的にその検討を行うことを通して、私たちが自分自身の研究活動に対してより自覚的に向かい合っていくための学習機会を設定したいと考えています。

教育学には、「〇〇教育学」(「比較教育学」など)、「教育〇〇学」(「教育社会学」など)といった「教育」をその名称に含む諸学問(以下、「〇〇教育学」と表現します)が含まれており、そのそれぞれは独自の研究内容、研究方法、成立過程などによって特徴づけられています。教育学とは、「教育」を共通のテーマとした学問の「統合体」であるともいえますが、諸学問の性質の違いによって相互に「対話」が成立しづらいことなどもあって、教育学とは教育に関する研究の単なる「寄せ集め」に過ぎないというのが現状かもしれません。このように必ずしも体系的ではない教育学の実態を踏まえると、教育学や「〇〇教育学」自体を(その存在意義も含めて)問い、教育学をめぐる「地図」を自分なりに描き、自分の研究や自

分自身がどこに位置しているかについて確認していく過程は、これらの学問の限界に気づき、既存の体系に批判的（場合によっては懐疑的）な立場に立つことも含めて、大学院生として教育学、とりわけ「〇〇教育学」を専門的に研究していくにあたって有益な学習活動なのではないかと考えています。

そこで本演習では、受講生諸君が、自分の専門分野としての「〇〇教育学」とは何か、さらにはそもそも「教育学とは何か」という問いを中心とした探究（文献研究、国内外の「テキスト」の分析、研究者へのインタビュー調査など）を行って、その過程や成果を発表し、討論を行っていきます。積極的な参加を期待しています。

教育哲学特殊演習

「文化遺産の伝達」としての「教育」とは何か

講師（非常勤） 生田 久美子

授業科目の内容：

「教育は文化遺産の伝達である」という命題は、教育という営みにおけるひとつの真理を表明する命題である。しかし、「文化遺産」とはそもそも「何」なのか、またそうした「文化遺産」を「伝達」とはどのような活動であるのか。本講では、「何を文化遺産としてみなしてきた（いる）のか」を明らかにすることによって、またそれを「伝達」とは何かを問うことによって、上記の命題の妥当性について検討する。その際、J. R. マーティンの『カルチュラル・ミスエデュケーション』（間違った文化遺産の伝達）に関する議論を手がかりとする。マーティンの議論を検討しながら、「文化遺産の伝達」としての「教育」がいかなる課題を克服すべきかを、受講者とともに考えていきたい。

教育哲学特殊演習

文学部 教授 舟山 俊明

授業科目の内容：

「精神科学の歴史と理論」というテーマで、以下のテキストを輪読しながら19世紀後半から20世紀初頭ドイツにおける人文科学史（精神科学史）一般を、当時の高等教育史や精神史や社会史を背景にして考察しながら、その現代的意義を考えます。

教育哲学特殊演習

文学部 教授 真壁 宏幹

授業科目の内容：

教育哲学演習（修士）を参照。

教育哲学特殊研究Ⅰ

文学部 教授 舟山 俊明

授業科目の内容：

この授業では近年の「教育哲学」上の諸問題を、幾つかの代表的な雑誌論文の言説を吟味しながら、「教育を研究する」ことの意味と視座を再度検討する。

教育哲学特殊研究Ⅱ

文学部 教授 真壁 宏幹

授業科目の内容：

教育学史特論（修士）を参照。

教育史特殊演習

江戸儒学の教育思想史的検討

文学部 教授 山本 正身

授業科目の内容：

近代社会において教育とは、意図的・計画的に組織された学校という機関を通して、国家・社会の発展に必要とされる知識・技能をその将来を担う成員に授ける営み、として理解されている（少なくとも、これが近代社会での教育認識の中核をなしている）。今日の私たち一般の教育認識も、おそらく以上のような理解の線に沿って形成されている、と見なしてよい。

だが、目を前近代社会に転ずると、そこには上記のものとは異質の教育認識が様々な主張となってあらわれていた。概していえば、その教育認識とは一定の組織や計画、あるいは場合によっては「教える」という働きかけをも前提としない、その意味で外側からの形成という意味合いの稀薄なものであったといえる。それゆえ、前近代社会においては教育思想と呼ぶことのできる思想は微弱であった、と評されることもある。

ただし、こうした「教える」ことに関わる思想の微弱さは、必ずしも人間形成に関わる思想全体が未成熟な段階に止まっていたことを意味するわけではない。たとえ「教える」思想が微弱・稀薄であったとしても、前近代社会には、主体的・自律的に「学ぶ」ことを説く思想が普及していたからである。そして、前近代社会において「学び」の思想を代表するものが儒学思想であったことはいうまでもない。

本演習は、以上のことを踏まえ、「学び」の視点から人間形成の問題を論じた思想体系として、いわゆる「古義学」に着眼点を据える。一般的に、「古義学」は伊藤仁斎（1627-1705）の学として論ぜられる傾向にあるが、授業担当者は「古義学」完成形態の担い手はその嫡子東涯（1670-1736）であったと考えている。その理解に基づき、本研究では東涯の名著『訓幼字義』（享保二年、京兆廣文堂発行）を講読し、そこに示された「<学び>の視点からなる人間形成論」の思想構造と思想史的意味を探るこ

とにする。なお、同書は初学者を対象に仮名交じり文で著された述作であるが、その講読作業は古文書解読の訓練にもなると考えている。なお、授業形態は毎回「輪読」を重ねるものとなる。

教育史特殊演習

教職課程センター 教授 米山光儀

授業科目の内容：

修士課程の教育史演習と共通。
講義内容は修士課程の頁参照。

教育史特殊研究Ⅰ

研究論文（日本教育史）執筆の技法

文学部 教授 山本正身

授業科目の内容：

基本的に受講者の執筆した論文を相互に検討する。それを通して日本教育史の分野において、研究論文の執筆にどのような手順や要件があるのか、またどのような内容や形式を備えていることが求められるのか、などを吟味する。ただし、この吟味作業は単に論文作成のためのハウツーを問題にするのではなく、日本教育史を研究するということのそもそもの研究上の意味を自覚的に問うことから始められる。

受講者には、一年間を通して不断に研究論文の執筆とその経過報告が課せられることになる。その意味からも積極的かつ意欲的な学生の参加を希望するものである。なお、授業のスケジュールは受講者が確定した段階で決定する。

教育史特殊研究Ⅱ

教職課程センター 教授 米山光儀

授業科目の内容：

修士課程の教育史特論Ⅱと共通。
講義内容は修士課程の頁参照。

比較教育学特殊演習

アメリカの教育思想史とテスト政策の現状

講師（非常勤）北野秋男

授業科目の内容：

- ①アメリカ独立期以来の教育思想史（とりわけ公立学校の普及）の特色を講義する。
 - ②19C末～20C初の新教育運動の特色と思想を講義する。
 - ③現代のアメリカのテスト政策の理念と現状を講義する。
- 以上の点を講義するが、日本との比較も念頭に置きながら授業を進める。

比較教育学特殊研究Ⅱ

ジェンダーと教育

講師（非常勤）坂本辰朗

授業科目の内容：

本特論では、アメリカ合衆国の教育改革の潮流を、特にジェンダーという分析視角からみてゆきます。80年代初頭における教育におけるエクセレンス実現の運動から始まったアメリカ合衆国の教育改革は、その後、多文化教育や学校のリストラクチャリング、コンピュータ・ネットワーク利用の遠隔学習など、多くの課題項目を掲げつつ、今日に至っています。それらの多くが、日本を含め世界各地に少なからぬ影響をあたえてきました。

授業では、具体的ないくつかの改革事例をとりあげつつ、一方でそれらの教育改革の背後にあるポストモダンなどの社会理論との関係を、他方で階級や人種・エスニシティといった問題との相互関連を注意しつつ考えてゆきます。

教育心理学特殊演習

文学部 教授 安藤寿康

授業科目の内容：

履修者自身の研究成果を紹介し、それをめぐってディスカッションを行います。発表内容は、研究計画、解析結果、関連文献の紹介など、各自が自分の研究進める上でその時点で最も適切と思われる内容と形式を決めて下さい。なお研究発表とディスカッションはすべて英語で行います。

教育心理学特殊演習

文学部 教授 安藤寿康

教職課程センター 教授 伊藤美奈子

教職課程センター 教授 鹿毛雅治

授業科目の内容：

修士と同じ

教育心理学特殊演習

教職課程センター 教授 伊藤美奈子

授業科目の内容：

教育臨床に関する学術論文を作成するための指導を行います。

教育心理学特殊演習

論文演習

言語文化研究所 教授 大津由紀雄

授業科目の内容：

博士論文の作成を目指す院生のために、個別に指導を行なう。

教育心理学特殊演習

教職課程センター 教授 鹿毛 雅 治

授業科目の内容：

教育心理学の分野で学術論文を書こうとしている大学院生に対して論文作成指導を行います。

教育心理学特殊研究Ⅰ

教職課程センター 教授 伊藤 美奈子

授業科目の内容：

教育臨床に関する国内外の研究論文の講読、発表、討論を行う。最新の研究テーマや研究手法について学ぶとともに、「学校」における教育臨床の現状と課題についても、実践的な観点から考えていきたい。

教育心理学特殊研究Ⅱ（通年特定期間集中）

認知と社会化の応用発達心理学

講師（非常勤） 中澤 潤

授業科目の内容：

本講義では子どもに関わる応用発達心理学の2つのテーマを取り上げます。

1.マンガをよむということ（マンガの読解をめぐる諸問題）

日本発の子どものメディアとして「マンガ」は近年世界的な注目を浴びている。「マンガ」の読解に関わる認知的・社会的諸要因を検討する。

2.問題解決としての社会的行動（仲間関係の発達をめぐる諸問題）

子どもの仲間関係形成の基礎としての社会的行動を導く認知的制御・情緒的制御、また仲間関係における適応に関わる発達精神病理学を検討する。

教育心理学特殊研究Ⅲ

生成文法

講師（非常勤） 鈴木 猛

授業科目の内容：

参加者の興味・博士論文のテーマに合わせて重要な論文等を読んでいく。

教育学特殊講義（春学期特定期間集中）

特別招聘教授（非常勤） ガーンハム、アラン

授業科目の内容：

この集中講義では、統語解析を中心に言語理解について講ずる。講義の理解には、言語学、とくに生成文法の理解が必要である。受講希望者は必ず4月末日までに、以下の要領で、受け入れ担当教員の天津由紀雄に電子メールで連絡すること。

件名欄： ガーンハム集中講義履修相談
（上記以外の形式ははじかれてしまうので注意）

宛先： oyukio@sfc.keio.ac.jp

他大学大学院との相互科目履修に関する協定

慶應義塾大学大学院社会学研究科、早稲田大学大学院文学研究科の修士課程における相互科目履修に関する協定書

昭和48年12月1日締結
平成14年11月1日改正

記

第1条 両研究科の学生は、昭和49年4月より、相互に相手側研究科設置科目を修士課程在学中に計8単位を限度として履修することができる。

第2条 第1条に該当する学生は大学院交流学生と称する。

第3条 第1条に規定する履修科目については、受入側研究科はその学則にもとづいて成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程の単位としてこれを認めるものとする。

第4条 相手側研究科の設置科目を履修する学生は自己の属する研究科指導教員の承認をうけ、かつ相手側研究科の担当教員の許可をうけなければならない。ただし、担当教員は学生数その他の都合からこれを許可しないことがある。

第5条 本制度の運用について協議の必要を生じた時は、直ちに両研究科間で協議し、常に円滑な運用と将来の発展に努力するものとする。

第6条 本制度は昭和47年度および48年度を試行期間として、昭和47年4月より実施してきたものであるが、昭和49年4月より正規に発足させるものである。

第7条 本制度に関する内規は別に定める。

附 則

この協定は昭和48年12月1日から施行する。

附 則（平成14年11月1日）

この協定は平成15年4月1日から施行する。

以 上

(単位互換協定)

慶應義塾大学大学院社会学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する協定書

慶應義塾大学大学院社会学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科は、教育の一層の充実を目指して、両大学大学院研究科の学生が受入大学大学院研究科の授業科目を履修することについて協定を締結する。

(受 入)

第1条 両大学大学院研究科は、受入大学大学院研究科の授業科目の履修および単位の修得を希望する学生を、相互に受け入れることができる。

2 学生を受け入れるための手続は、別に定める。

(受入学生の身分)

第2条 両大学大学院研究科は、前条によって受け入れる学生を交流学生と称する。

(学生数)

第3条 当該年度の交流学生数は、原則として両大学大学院研究科双方同数とする。

(履修期間)

第4条 交流学生の履修期間は、当該学生の履修科目の設置期間とする。

(履修科目の範囲および単位数)

第5条 交流学生が履修できる授業科目および単位数は、別に定める。

(履修方法・単位の授与・成績評価等)

第6条 交流学生の履修方法、単位の授与および成績評価等については、受入大学の大学院研究科の定めるところによる。

2 交流学生が修得した単位の認定に関わる事項は、当該学生の所属する大学の大学院研究科が定めるところによる。

(学費等)

第7条 交流学生の学費等は、相互に徴収しないものとする。

(覚 書)

第8条 本協定書の実施に必要な事項について定めるために、覚書を締結する。

(その他)

第9条 本協定書は、双方の署名によって発効し、2003年4月1日より実施する。ただし、発効日より3年を経過した後に見直しを行う。

2002年12月1日

慶應義塾大学大学院社会学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する覚書

慶應義塾大学大学院社会学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科は、「慶應義塾大学大学院社会学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する協定書」(2002年12月1日付)に基づき本覚書を締結する。

1. 対象者

両大学大学院研究科に在学する修士課程正規学生を対象とする。

2. 申請および承認手続

交流学生として科目の履修を希望する学生は、所定の申請手続をとり、所属大学大学院研究科の指導教員の承認を受け、受入大学の大学院研究科の履修希望科目担当教員の許可を得るものとする。

3. 履修可能科目および単位数

(1) 交流学生が履修できる授業科目は、学生を受け入れる大学の大学院研究科が定め、それぞれ相手大学の大学院研究科へ通知する。

(2) 交流学生が履修できる単位数の上限は、在学中8単位とする。

4. 施設利用の便宜

交流学生が履修上必要な施設・設備の利用については、便宜を供与する。

5. 学費等

協定第7条の学費の内訳は、授業料・施設費・演習料・実験実習費等とする。

6. その他

本覚書に定めるもののほか、本協定の実施に関し必要な事項は、両大学大学院研究科の協議によって定める。

2002年12月1日

関係規程抜粋

社会学研究科在籍者に特に関わりの深い規程について抜粋してありますので、履修要項と合わせて参照してください。なお、大学院学則については、入学時に配布する慶應義塾大学大学院学則を参照してください。

〈1 学 位〉

- 1-1 学位規程（抜粋）
- 1-2 学位の授与に関する内規
- 1-3 大学院社会学研究科入学試験，指導体制及び学位論文審査に関する内規

〈2 奨 学 金〉

- 2-1 大学院奨学規程
- 2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程
- 2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

〈3 授業料減免〉

- 3-1 授業料等減免規程
- 3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規定
- 3-3 大学院生が私費により留学した場合の学費の取り扱いに関する内規

〈4 そ の 他〉

- 4-1 大学院在学期間延長者取扱内規
- 4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料その他の学費に関する取扱内規

1 学 位

1-1 学位規程 (抜粋)

昭和31年2月17日制定
平成20年6月4日改正

(目的)

第1条 本規程は、慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）および慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定）に規定するもののほか、慶應義塾大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(学位)

第2条 ① 本大学において授与する学位は次のとおりとする。

1 学 士

文 学 部

人文社会学科

哲学専攻	学士 (哲学)
倫理学専攻	学士 (哲学)
美学美術史学専攻	学士 (美学)
日本史学専攻	学士 (史学)
東洋史学専攻	学士 (史学)
西洋史学専攻	学士 (史学)
民族学考古学専攻	学士 (史学)
国文学専攻	学士 (文学)
中国文学専攻	学士 (文学)
英米文学専攻	学士 (文学)
独文学専攻	学士 (文学)
仏文学専攻	学士 (文学)
図書館・情報学専攻	学士 (図書館・情報学)
社会学専攻	学士 (人間関係学)
心理学専攻	学士 (人間関係学)
教育学専攻	学士 (人間関係学)
人間科学専攻	学士 (人間関係学)

経済学部

法 学 部

商 学 部

医 学 部

理工学部

機械工学科	学士 (工学)
電子工学科	学士 (工学)
応用化学科	学士 (工学)
物理情報工学科	学士 (工学)
管理工学科	学士 (工学)
数理科学科	
数学専攻	学士 (理学)
統計学専攻	学士 (工学)
物理学科	学士 (理学)
化学科	学士 (理学)
システムデザイン工学科	学士 (工学)
情報工学科	学士 (工学)
生命情報科	学士 (理学) または 学士 (工学)

総合政策学部

環境情報学部

看護医療学部

薬学部

薬学科	学士 (薬学)
薬科学科	学士 (薬科学)
薬学科 (旧課程)	学士 (薬学)

医療薬学科 (旧課程) 学士 (薬学)

2 修 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	修士 (哲学)
美学美術史学専攻	修士 (美学)
史学専攻	修士 (史学)
国文学専攻	修士 (文学) または 修士 (日本語教育学)

中国文学専攻

英米文学専攻

独文学専攻

仏文学専攻

図書館・情報学専攻

経済学研究科

法学研究科

社会学研究科

社会学専攻

心理学専攻

教育学専攻

商学研究科

医学研究科

医科学専攻

理工学研究科

基礎理工学専攻

総合デザイン工学専攻

開放環境科学専攻

経営管理研究科

政策・メディア研究科

政策・メディア専攻

健康マネジメント研究科

看護・医療・スポーツ マネジメント専攻

システムデザイン・ マネジメント研究科

システムデザイン・ マネジメント専攻

メディアデザイン研究科

メディアデザイン専攻

薬学研究科

薬学専攻

医療薬学専攻

3 博 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	博士 (哲学)
美学美術史学専攻	博士 (美学)
史学専攻	博士 (史学)
国文学専攻	博士 (文学)
中国文学専攻	博士 (文学)
英米文学専攻	博士 (文学)
独文学専攻	博士 (文学)
仏文学専攻	博士 (文学)
図書館・情報学専攻	博士 (図書館・情報学)

中国文学専攻

英米文学専攻

独文学専攻

仏文学専攻

図書館・情報学専攻

経済学研究科

学士 (薬学)
修士 (哲学)
修士 (美学)
修士 (史学)
修士 (文学) または 修士 (日本語教育学)
修士 (文学)
修士 (文学)
修士 (文学)
修士 (文学)
修士 (図書館・情報学)
修士 (経済学)
修士 (法学), 修士 (公共政策) または修士 (ジャーナリズム)
修士 (社会学)
修士 (心理学)
修士 (教育学)
修士 (商学)
修士 (医科学)
修士 (理学) または 修士 (工学)
修士 (理学) または 修士 (工学)
修士 (工学)
修士 (経営学)
修士 (政策・メディア)
修士 (看護学) または 修士 (健康マネジメント学)
修士 (システムエンジニアリ ング学) または修士 (システ ムデザイン・マネジメント学)
修士 (メディアデザイン学)
修士 (薬学) または 修士 (医療薬学)
修士 (薬学) または 修士 (医療薬学)
博士 (哲学)
博士 (美学)
博士 (史学)
博士 (文学)
博士 (図書館・情報学)
博士 (経済学)

法学研究科	博士（法学）
社会学研究科	
社会学専攻	博士（社会学）
心理学専攻	博士（心理学）
教育学専攻	博士（教育学）
商学研究科	博士（商学）
医学研究科	博士（医学）
理工学研究科	
基礎理工学専攻	博士（理学）または 博士（工学）
総合デザイン工学専攻	博士（理学）または 博士（工学）
開放環境科学専攻	博士（工学）
経営管理研究科	博士（経営学）
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	博士（政策・メディア）
健康マネジメント研究科	
看護・医療・スポーツ マネジメント専攻	博士（看護学）または 博士（健康マネジメント学）
システムデザイン・ マネジメント研究科	
システムデザイン・ マネジメント専攻	博士（システムエンジニアリ ング学）または博士（システ ムデザイン・マネジメント学）
メディアデザイン研究科	
メディアデザイン専攻	博士（メディアデザイン学）
薬学研究科	
薬学専攻	博士（薬学）または 博士（医療薬学）
医療薬学専攻	博士（薬学）または 博士（医療薬学）
4 専門職学位	
法務研究科	
法務専攻	法務博士（専門職）
② 前項第3号に定めるほか博士（学術）の学位を授与することができる。	
（学士学位の授与要件）	
第2条の2 学士の学位は、大学を卒業した者に与えられる。	
（修士学位の授与要件）	
第3条 修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。	
（課程による博士学位の授与要件）	
第4条 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。	
（論文による博士学位の授与要件）	
第5条 博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という。）された者に与えられる。	
（専門職学位の授与要件）	
第5条の2 専門職学位は、専門職大学院の課程を修了した者に与えられる。	
（学識の確認の特例）	
第6条 ① 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して研究科委員会が定める年限以内に論文による博士学位を申請した者については、研究科委員会が適当と認めた場合、学識の確認の一部もしくはすべてを行わないことができる。	
② 学位論文以外の業績および経歴の審査によって、研究科委員会が学識の確認の一部もしくはすべてを行う必要がないと	

認めた場合には、当該審査をもって学識の確認の一部もしくはすべてに代えることができる。

（課程による学位の申請）

第7条 ① 第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

② 第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

（論文による学位の申請）

第8条 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

（審査料）

第9条 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者に対する審査料は、次のとおりとする。

- | | |
|--------------------------------------|----------|
| 1 本大学大学院博士課程の教育課程を終え学位論文を提出しないで退学した者 | 50,000円 |
| 2 本大学学士、修士または専門職の学位を与えられた者で前号の定め以外の者 | 70,000円 |
| 3 前2号のいずれにも該当しない者 | 100,000円 |
| 4 本塾専任教職員である者 | 20,000円 |
- （医学研究科については40,000円）

（審査ならびに期間）

第10条 ① 修士および博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等の可否は、当該研究科委員会が判定する。

② 博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験および学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする。

（審査委員会）

第11条 研究科委員会は、学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等を行うために、関係指導教授および関連科目担当教授2名以上からなる審査委員会（主査および副査）を設置しこれに当たらせる。ただし、必要がある場合は准教授または専任講師・講師（非常勤）等を特に審査委員会に加えることができる。

（審査結果の報告・判定方法）

第12条 ① 審査委員会は、論文審査の要旨ならびに試験の成績等を記録して研究科委員会に報告し、かつ、その意見を開陳する。

② 研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、その3分の2以上の賛同をもって学位論文の審査ならびに試験の可否を決定する。

③ 前項の議決は、無記名投票をもって行う。

（学位授与）

第13条 ① 修士または博士の学位は、研究科委員会において学位論文の審査ならびに試験に合格した者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

② 専門職学位は、当該研究科の修了要件を満たした者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

（学位論文要旨の公表）

第14条 本大学は博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨を公表する。

（学位論文の公表）

第15条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文を印刷公表し「慶應義塾大学審査学位論文」と明記するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りではない。

（学位の表示）

第16条 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名を「(慶應義塾大学)」と付記するものとする。

(学位の取消)

第17条 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、または学位を得た者がその名誉を汚辱する行為があったときは、当該研究科委員会および大学院委員会の議を経てその学位を取消すものとする。

(学位記および書類)

第18条 学位記および学位授与申請関係書類の様式は、別表1から別表6までのとおりとする。

(規程の改廃)

第19条 この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。ただし、第2条第1項第1号および第2条の2については大学評議会の議を経てこれを行う。

附 則 (平成20年6月4日)

この規程は平成21年4月1日から施行する。

1-2 学位の授与に関する内規

昭和59年3月16日制定

平成12年5月16日改正

第1条 慶應義塾大学学位規程第13条(学位授与)に関する取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 論文博士の学位授与および博士課程単位修得退学者で再入学しない者に対する課程博士の学位授与に関しては、次の通り行うものとする。

- 1 学位授与日は、研究科委員会の議決日とする。
- 2 研究科委員会が学位論文審査合格を議決した日以降、「学位取得証明書」を発行できるものとする。
- 3 学位の授与手続きは、次の通りとする。
 - イ 研究科委員会の合否判定議決に基づき、研究科委員長はその結果を速やかに学長に報告する。
 - ロ 学長は、研究科委員長の報告に基づき合格者に学位を授与する。
- 4 学位記は、学位授与式において授与する。

第3条 修士の学位授与および博士課程に在学している者に対する課程博士の学位授与に関しては、前第2条第3号と同様の手続きを経て、当該年度末(3月23日)をもって学位を授与する。

② 前項の規定にかかわらず、修士課程においてあらかじめ研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出締切期日までに提出せず次年度も引き続き在学している者が、研究科委員会の特に認めた期日までに学位論文を提出し課程修了を認定された場合には、春学期末日をもって学位を授与することができる。

③ 第1項の規定にかかわらず、後期博士課程(医学研究科にあっては博士課程)に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書(医学研究科については同条第4項のただし書)の適用を受け、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

④ 前項の規定にかかわらず後期博士課程(医学研究科にあっては博士課程)に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書(医学研究科については同条第4項のただし書)の適用を受け、在学する年度途中において特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

⑤ 第1項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱内規」により在学する者が、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該第1学期末日をもって学位を授与することができる。

⑥ 前項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱内規」により在学する者が、在学する年度途中において、特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

⑦ 学位記は、学位授与式において授与する。

第4条 学長は、学位を授与した者の氏名その他必要事項を取りまとめて、年2回大学院委員会の各委員に報告しなければならない。

第5条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則 (平成12年5月16日)

第1条 この内規は、平成12年4月1日から実施する。

第2条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

1-3 大学院社会学研究科入学試験、指導体制及び学位論文審査に関する内規

平成元年11月15日制定

平成15年6月11日改正

第1章 目的

第1条 (目的) この内規は、大学院社会学研究科の活性化並びに現行の大学院制度による学位論文の早期作成を目的とし、本研究科における入学試験、指導体制及び学位論文審査の細目について定めるものとする。

第2章 修士課程

第2条 (修士課程入学試験) 修士課程の入学試験は、次の通りとする。

- (1) 外国語1科目(英語)
- (2) 専門科目
- (3) 面接

第3条 (指導教授の決定及び副指導教授の委嘱) 大学院社会学研究科委員会(以下「研究科委員会」という。)は、大学院修士課程入学者の指導教授を決定しなければならない。

② 指導教授が特に必要と認めた場合には、研究科委員会の承認を得て副指導教授を委嘱することが出来る。

③ 指導教授は研究科委員、副指導教授は原則として本塾大学専任教員とする。

第4条 (修士論文の提出要件及び審査) 修士論文の提出要件は、「慶應義塾大学学位規定」の定めるところによる。

② 修士論文の執筆は、原則として日本語とする。但し、指導教授が特に認めた場合には、研究科委員会の承認を得て、外国語を使用することが出来る。

③ 修士論文の審査は、主査1名及び副査2名以上が行い、その結果は評価(A・B・C・Dの4段階)を付して、研究科委員会に報告の上、承認を得なければならない。

第3章 後期博士課程

第5条 (後期博士課程入学試験) 後期博士課程の入学試験は、次の通りとする。

- (1) 外国語1科目(英語)
- (2) 論文審査
- (3) 面接

第6条 (正指導教授及び副指導教授の決定) 研究科委員会は、

大学院後期博士課程入学者の正指導教授及び副指導教授各1名を決定しなければならない。

- ② 正指導教授は本研究科委員、副指導教授は原則として本研究科の授業を担当する本塾専任教員に限る。但し、指導教授が特に必要と認めた場合には、研究科委員会の承認を得た上、本塾大学専任教員、他大学教員又は塾外研究機関の研究者に副指導教授を委嘱することが出来る。
- ③ 研究内容の変更等により正・副指導教授を変更することが出来る。この場合には前項に定める手続きによるものとする。

第4章 課程博士

第7条 (学位請求論文研究計画書の提出と審査) 入学後3年以内に正・副指導教授の指導のもとに学位請求論文研究計画書(以下「研究計画書」という。)を作成し、研究計画書を研究科委員会に提出し、審査を受け、承認を得なければならない。提出にあたっては、第1著者として学術専門雑誌に2編以上の論文(内、少なくとも1編は査読のあるもの)を掲載していること、もしくは、それに相当すると考えられる業績を挙げていることが必要である。研究科委員会は、研究計画書の審査のために主査、副主査各1名を決定する。主査及び副査は、研究計画書の審査にあたっては原則として面接を行い、その審査結果を研究科委員会に報告し、承認を得なければならない。

第8条 (研究計画書の内容) 研究計画書は、次の各号に掲げる事項をその内容に含めるものとする。

- (1) 研究の目的、方法及びその意義等
- (2) 当該研究に関する内外の先行研究の概括、予備調査、予備実験の結果等。
- (3) 当該研究に係る業績一覧

第9条 (学位論文の提出要件及び審査) 学位論文を提出しようとする者は、まず研究計画書を提出し、研究科委員会の審査を受け承認を得なければならない。研究計画書承認後、3年後の3月末までに学位論文を提出しなければならない。

- ② 学位論文の執筆は、原則として日本語とする。但し、正・副指導教授が特に必要と認めた場合には、研究科委員会の承認を得て、外国語を使用することが出来る。
- ③ 学位論文の審査は、研究科委員会が承認した主査1名及び副査2名以上から構成される学位論文審査委員会(以下「審査委員会」という。)が行う。
- ④ 研究科委員会は、審査委員会から審査結果の報告を受け、学位授与資格を決定する。

第5章 論文博士

第10条 (学位論文の提出要件) 学位論文を提出しようとする者は、まず学位請求論文計画書(以下「論文計画書」という)を提出し、研究科委員会の審査を受け承認を得なければならない。論文計画書承認後、原則として1年以内に学位論文を提出しなければならない。

- ② 学術著書(出版物)を学位請求論文として提出する場合は、それが出版される以前に前項の手続きをとらなければならない。

第11条 (論文計画書の内容) 論文計画書は次の各号に掲げる事項をその内容に含めるものとする。

- (1) 研究の目的、意義
- (2) 方法
- (3) 当該研究に関連する先行諸研究の概括
- (4) 当該研究に関する調査、実験の結果の概略
- (5) 論文の構成と各章の論点
- (6) 当該研究に関する業績一覧及び職歴、研究歴

第12条 (論文計画書の審査) 研究科委員会は、論文計画書が提出された場合には、次の各号に定める手続きを経て論文計画書および学位論文提出資格を審査しなければならない。

- (1) 本研究科に学位論文を提出する理由及び審査に当たる委員の有無を審議する。
- (2) 論文計画書審査及び学識確認のため、主査及び副査各1名を決定する。
- (3) 主査及び副査は論文計画書の審査に当たって、原則として学識確認と面接を行い、その審査結果を研究科委員会に報告の上、承認を得なければならない。
- (4) 前号の学識確認は、当該研究上最も必要とする外国語1科目の学識を、その内容に含めるものとする。但し、業績及び経歴の審査をもって学識確認に代えることができる。

第13条 (学位論文執筆の使用言語) 学位論文執筆に使用する言語は、第9条第3項に定める後期博士課程の場合に準ずるものとする。

第14条 (学位論文の審査) 学位論文の審査は、第9条第4項及び第5項に定める後期博士課程の場合に準じて行う。

第6章 補則

第15条 (内規の改廃) この内規の改廃については、研究科委員会の承認を得るものとする。

付則(平成元年11月15日)

- ② この内規は、平成2年4月1日から施行する。但し、第6条の規程は平成元年度社会学研究科博士課程在籍者から適用する。
- ③ 第6条から第9条までの規程は、正指導教授の判断により平成元年度社会学研究科博士課程在籍者に適用することが出来る。
- ④ 修士及び博士の学位論文提出要件及び審査の手続き等に関し、本内規に含まれない事項については、「慶應義塾大学大学院学則」及び「慶應義塾大学学位規程」の定めるところによる。

附則(平成10年12月9日)

- ① 第7条と第9条の規定は、平成11年4月1日から施行する。
- ② 第10条から第15条の規定は、平成10年11月12日から施行する。

附則(平成13年7月11日)

- ① 第7条の規定は、平成14年4月1日後期博士課程入学者から適用する。

附則(平成15年6月11日)

- ① 第2条および第5条は、平成17年4月1日前期博士課程、後期博士課程入学者から適用する。

2 奨学金

2-1 大学院奨学規程

平成2年4月13日制定
平成20年3月11日改正

第1章 総則

(根拠)

第1条 慶應義塾大学は、慶應義塾大学大学院学則(大正9年5月5日制定。以下「大学院学則」という。)第16節奨学制度に基づき、貸費および給費の奨学制度を置く。

(奨学金の種類・金額)

第2条 ① 奨学金の種類は、次のとおりとする。

- 1 貸費奨学金(無利子) 修士課程(前期博士課程)学生対象(ただし、外国人留学生を除く。)
 - 2 給費奨学金 後期博士課程(以下「博士課程」という)学生、医学研究科博士課程学生、私費外国人留学生対象
- ② 前項に定める奨学金の年額は、次のとおりとする。ただし、私費外国人留学生は半額とする。

- | | |
|--|-----------|
| 1 文, 経済, 法, 社会, 商学研究科 | 400,000 円 |
| 2 医学, 経営管理, 健康マネジメント,
システムデザイン・マネジメント,
メディアデザイン研究科 | 600,000 円 |
| 3 理工学, 政策・メディア, 薬学研究科 | 500,000 円 |

第2章 貸費生

(資格)

第3条 貸費生の資格は、大学院修士課程の学生（ただし、外国人留学生を除く。）とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。
- 3 原則として、修士課程1年生であること。

(期間)

第4条 貸費生の期間は、大学院学則に定める修士課程標準修業年限の2か年とする。ただし、修士課程2年生が貸費生に採用された場合は、1か年とする。

(申請)

第5条 貸費生を受けようとする者は、所定の申請書に学業成績証明書、健康診断書および連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

(選考)

第6条 貸費生は、第3条の条件により選考する。

(決定)

第7条 前条による選考は、別に定める大学院奨学委員会（以下「委員会」という。）において行い、塾長がこれを決定する。（家計急変者に対する救済措置等）

第8条 天災その他の災害および家計支持者の死亡、失職等のため家計が急激に変化し、学費の納入が困難になった者等若干名については、第3条第3号の規定にかかわらず、貸費生として追加採用することができる。

(誓約書)

第9条 貸費生として決定された者は、所定の誓約書を連帯保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。

(身分等変更の届出)

第10条 貸費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。ただし、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学, 留学, 就学, 退学
- 2 本人および連帯保証人の氏名, 住所, その他重要事項の変更

(貸与の休止)

第11条 委員会は、貸費生が休学・留学した場合、その間貸費生の資格を休止することができる。

(貸与の復活)

第12条 前条の規定により貸費生の資格を休止された者が、休止の理由となったものが消滅した場合、委員会は、申請により貸与を復活することができる。ただし、休止された時から3か年を経過したときは、この限りではない。

(失格)

第13条 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、貸費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく退学, 停学の場合
- 2 申請書および提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第10条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他貸費生として不適当と認められた場合

(貸与の辞退)

第14条 貸費生は、いつでも貸与を辞退することができる。こ

の場合には、連帯保証人と連署の届出書を、学生総合センターに提出しなければならない。

(貸与金借用証書の提出)

第15条 貸費生が次の各号に該当する場合は、貸与金借用証書に貸与金返還総額等を記載し、連帯保証人および保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。連帯保証人および保証人の使用する印鑑については、印鑑証明を必要とする。

- 1 貸与期間が満了した場合
- 2 貸与を期間中に辞退した場合
- 3 第13条による失格の場合

(貸与金の返還)

第16条 ① 貸与金の返還は、原則として貸与が終了した年の12月から毎年1回の年賦とし、貸与年数の4倍の年数以内に全額を返還するものとする。ただし、貸与金はいつでも繰り上げ返還することができる。

② 第13条による失格者については、貸与金の全額を直ちに返還しなければならない。

(返還猶予)

第17条 ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人の申請により貸与金の返還を猶予することができる。

- 1 災害または疾病により返済が困難となった場合
- 2 貸与期間終了後、引き続き修士課程に在学している場合
- 3 修士課程修了後、博士課程進学を目指している場合

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の返還を猶予することができる。

③ 返還猶予期間は1か年とするが、返還猶予の理由が存続する場合は、第1項第3号に基づく場合を除いて、申請により1年ごとに延長することができる。ただし、原則として3か年を超えて延長することはできない。

(返還免除)

第18条 ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人または連帯保証人の申請により、貸与金の全部または一部の返還を免除することができる。

- 1 博士課程に進学し、学位を取得した場合、あるいは博士課程に3年以上在学して所定の単位を取得し退学した場合。ただし、博士課程を途中で退学した者については免除を認めない。
- 2 貸与金返還完了前に死亡した場合。この場合には、連帯保証人または相続人は、死亡時から6か月以内に、貸与金返還免除申請書を、死亡診断書または戸籍抄本を添えて、学生総合センターに提出しなければならない。

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の全部または一部の返還を免除することができる。

第3章 給費生

(資格)

第19条 給費生の資格は、大学院博士課程学生および私費外国人留学生とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

(期間)

第20条 給費生の期間は、1か年とする。引き続き給費を希望する場合、再申請は妨げないが、3か年（医学研究科は4か年）を超えて給費を受けることはできない。

(申請)

第21条 給費を受けようとする者は、所定の申請書および必要書類により、学生総合センターに申請するものとする。

(選考)

第22条 給費生は、第19条の条件により選考する。

(決定)

第23条 前条による選考は、委員会において行い、塾長がこれを決定する。

(身分等変更の届出)

第24条 給費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。ただし、本人の病気・死亡などの場合は、保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、退学
- 2 本人および保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

(失格)

第25条 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、給費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく休学、退学、停学の場合
- 2 申請書および提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく前条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他給費生として不適当と認められた場合

(返還)

第26条 ① 給費生が前条の規定により給費生としての資格を失った場合は、すでにその年度に給付された金額の全部または一部を返還しなければならない。委員会は、この場合の返還方法を、審査の上定める。

② 前項の規定にかかわらず、次の各号に該当する場合は、委員会は、申請によりすでに給付された奨学金の全部または一部を返還を免除することができる。

- 1 死亡した場合
- 2 前条第1号の規定により、給費生として資格を失った場合

(事務)

第27条 本制度の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

(規程の改廃)

第28条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、塾長が行う。

附 則 (平成20年3月11日)

① この規程は、平成20年4月1日から施行する。

② 旧・慶應義塾大学大学院奨学規程は、平成20年3月31日をもって廃止する。

2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程

昭和52年4月12日制定

昭和54年7月27日改正

平成14年5月1日改正

平成16年3月15日改正

第1条 小泉信三記念奨学金規程(昭和52年4月12日制定)第2条第1号に基づき、研究者の養成を目的として大学院に特別奨学金による奨学研究生を置く。

第2条 奨学研究生は、学部第4学年に在学し大学院への進学を志願する学生、または大学院に在学する学生の中から、これを選考する。

第3条 奨学研究生の選考は、各研究科委員会の推薦により、小泉基金運営委員会の議を経て学長がこれを決定する。

第4条 奨学研究生には特別奨学金として、月額30,000円を給付し、その期間は1年とする。ただし、審査の上、この期間を更新することができる。

第5条 この特別奨学金規程に関する事務は、研究支援センター本部が担当する。

第6条 この規程に関する細則は別に定める。

附 則

① この規程は、昭和52年4月1日から施行する。

② 現行小泉信三記念大学院特別奨学金規程は旧・小泉信三記念大学院特別奨学金規程とする。

附 則 (昭和54年7月27日)

この規程は、昭和54年9月1日から施行する。

附 則 (平成14年5月1日)

この規程は、平成14年5月1日から施行する。

附 則 (平成16年3月15日)

この規程は、平成16年3月15日から施行する。

2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

昭和52年4月12日制定

昭和54年7月27日改正

平成14年5月1日改正

平成16年3月15日改正

第1条 小泉基金運営委員会委員長は、毎年奨学研究生を公募する。

第2条 奨学研究生は、大学院に在学し、次に掲げる各号の条件を備えていなければならない。

- 1 学業成績・人物共に優秀であること
- 2 将来、研究者たり得る資質ありと認められること
- 3 健康であること

第3条 奨学研究生を志望する者は、次の書類を整えて、保証人連署の上、研究支援センター本部に提出しなければならない。

- 1 願 書
- 2 履歴書
- 3 成績証明書 大学学部1年から申請時までの成績証明書
- 4 健康診断書

第4条 各研究科委員会は、奨学研究生を志望した者について審議し、順位を付して小泉基金運営委員会に推薦しなければならない。

第5条 奨学研究生は、次の理由により身分に変更を生じた場合は、保証人連署の上、直ちに学長に届け出なければならない。

- 1 休学・復学・退学
- 2 本人および保証人の身分・住所その他重要事項の変更。ただし、本人が病気・死亡等の場合は、保証人が代って届け出なければならない。

第6条 小泉基金運営委員会が、次の理由により不適格と認めた場合は、奨学研究生としての資格を失うものとし、すでに支給した奨学金の全部もしくは一部を返還させることがある。

- 1 この奨学金設定の趣旨に反し、かつ塾生としての本分にもとる行為があった場合
- 2 提出書類に虚偽の記載をした場合
- 3 正当な理由なく前条に定める届け出を怠った場合

第7条 奨学研究生が退学した場合は、給付を打ち切るものとする。

附 則

① この細則は、昭和52年4月1日から施行する。

② 現行小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則は旧・小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則(昭和43年3月26

日制定)とする。

附 則 (昭和54年7月27日)

この細則は、昭和54年9月1日から施行する。

附 則 (平成14年5月1日)

この細則は、平成14年5月1日から施行する。

附 則 (平成16年3月15日)

この細則は、平成16年3月15日から施行する。

3 授業料減免

3-1 授業料等減免規程

平成元年7月18日制定

平成20年12月16日改正

(目的)

第1条 慶應義塾大学は、疾病・傷害によって授業を長期にわたり休学している学部学生ならびに大学院生で、経済上授業料等(大学院にあつては在学科等。以下「授業料等」という。)の納入が著しく困難な学生に対し、審査のうえ、一定の期間授業料等を減免することができる。

(対象)

第2条 ① 減免を受けようとする者は、1年以上の長期にわたり入院または通院している者ならびに自宅療養をしている者で、休学の2年目以降の者でなければならない。

② 母国において兵役義務により休学する者。この場合に限り1年目から減免する。

③ 法務研究科(法科大学院)については別に定める。

(申請)

第3条 前条に該当する者が減免を申請する場合は、所定の申請書に休学許可書、診断書ならびに家計支持者の所得を証明する書類を添えて、学生総合センター長に提出しなければならない。

(減免額)

第4条 ① 減免を認められた者の減免額は、文科系学部・同大学院研究科については授業料等の半額、医学部・同大学院研究科、理工学部・同大学院研究科、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科および看護医療学部については授業料等の半額および実験実習費の半額とする。なお、経済学研究科、法学部政治学科、理工学研究科、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科および看護医療学部は、休学期間が6か月毎のため減免額も半年分の半額とする。

② 正課または課外活動中の事故による傷害で休学している場合、その事由を斟酌し、減免額を全額とすることができる。

③ 母国において兵役義務により休学する場合は、当該休学期間の授業料等の全額を免除する。

(審査)

第5条 第1条による審査は、大学学部生については大学奨学委員会、大学院生については大学院奨学委員会が行い、塾長が決定する。

(減免の取消し)

第6条 休学者が虚偽の申請その他不正の方法で減免を受けた場合には、減免の措置を取り消すとともに、すでに減免を受けた授業料等の全部または一部を納入させることができる。

(就学の届出)

第7条 休学者が就学した時は、速やかに書面をもってその旨学生総合センター長に届け出なければならない。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、大学奨学委員会ならびに大学院奨

学委員会の議を経て、塾長が決定する。

(所管)

第9条 この規程の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

附 則 (平成20年12月16日)

① この規程は、平成21年度以降学部に入学者(第2学年編入学については平成22年度以降、第3学年編入学については平成23年度以降に入学者)には適用しない。

② この規程は、平成21年4月1日から施行する。

3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

平成元年5月23日制定

平成12年5月30日改正

平成21年1月13日改正

第1条 慶應義塾大学学部学則(大正9年5月5日制定)第153条および慶應義塾大学大学院学則(大正9年5月5日制定)第124条により外国の大学に留学する学生の学費に関する取り扱いは、この規程の定めるところによる。

第2条 留学期間中の学費の取り扱いは、次のとおりとする。

1 留学の始まる日(以下「留学開始日」という。)の属する年度の学費は納入するものとする。ただし、留学の奨励を図るため、別に定めるところにより、留学に要する経費の一部を補助することがある。

2 留学の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6か月以上2年以内(医学研究科博士課程は2年6か月以上3年以内)の場合は、留学開始日から1年(医学研究科博士課程は2年)を経過した日の属する年度の授業料(在学科)および実験実習費の半額を免除する。

3 留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6か月以上3年以内(医学研究科博士課程は3年6か月以上4年以内)の場合は、留学開始日から2年(医学研究科博士課程は3年)を経過した日の属する年度の授業料(在学科)および実験実習費の半額を免除する。

第3条 前条にかかわらず、学部または大学院在学中に私費により留学する場合は別に定める。

第4条 学費の相互免除が含まれる交換協定による留学(ダブルディグリープログラムを含む)については、第2条第2号および第3号は適用しない。

第5条 留学生在が留学の許可を取り消された場合は、その間に免除した学費の一部または全額を納入させることがある。

第6条 この規程の適用に当たり疑義を生じた場合は、その都度塾長が決定する。

第7条 この規程の改廃は、塾長がこれを決定する。

附 則 (平成21年1月13日)

① この規程は、平成21年4月1日から施行する。

② この規程は、大学院生および平成20年度以前学部に入学者(第2学年編入学については平成21年度以前、第3学年編入学については平成22年度以前に入学者)に適用する。ただし、平成20年9月入学者については平成21年9月から適用する。

③ 平成21年4月1日以前に留学が開始した学部在学中の者については、第3条は適用外とする。

3-3 大学院生が私費により留学した場合の学費の取り扱いに関する内規

平成18年3月24日制定

第1条 「留学期間中の学費の取り扱いに関する規程」第3条については、この内規の定めるところによる。

第2条 大学院生が私費により留学した場合の学費の取扱いは次のとおりとする。

〈取扱単位〉

1 留学期間は学期（春学期・秋学期）を単位として取り扱う。

〈対象学期〉

2 減免の対象となる学期とは留学により在学しなかった学期とする。

〈減免額〉

3 前項で減免の対象となった学期の属する年度の在学科および実験実習費について、年額の4分の1を各学期において免除する。

〈減免期間〉

4 免除される期間は最長6学期までとする。ただし、留学期間中に交換または奨学金による留学が含まれる場合は、その期間に該当する学期を含んで6学期までとする。

第3条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て塾長がこれを決定する。

附 則

① この内規は平成18年4月1日から施行する。

② この内規は、留学開始日が平成18年4月1日以降の者に適用する。

③ この内規の施行前、すでに留学を許可され留学している者の学費については、「留学期間中の学費の取り扱いに関する規程」第2条第1項～3項を適用する。

4 その他

4-1 大学院在学期間延長者取扱内規

昭和59年3月16日制定

第1条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において、当該課程修了要件のうち学位論文の審査並びに最終試験を除き所定の教育課程を終えた後、引続き博士學位取得のため在学する者の取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 在学期間延長を希望する者は、指導教授の許可を得て研究科委員会に「在学期間延長許可願」を提出し、承認を得なければならない。

第3条 研究科委員会は、研究継続の必要性等在学を延長する十分な理由があると認め、かつ教育並びに研究に支障のない場合、大学院学則第128条に定める在学最長年限を超えない範囲で引続き1年間（4月1日～翌年3月31日）の在学を許可できるものとする。

第4条 在学期間延長者が延長期間終了後も引続き在学を希望するときには、新たに「在学期間延長許可願」を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

第5条 学則定員その他の理由から延長が認められない場合は、大学院学則第153条に定める研究生として受け入れることができる。

附 則

第1条 この内規は、昭和59年4月1日から施行する。

第2条 この内規は、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学または進学した者に適用する。

第3条 附則第2条の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科その他の学費に関する取扱内規

昭和59年3月30日制定

平成8年3月8日改正

第1条 本塾大学大学院において「学位の授与に関する内規」第3条第2項若しくは第3項により第1学期末日をもって課程修了する者の学費は、次の通りとする。

1 在学科（毎年）

大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額

2 施設設備費（毎年）

大学院学則第131条に定める金額

3 実験実習費（毎年）

大学院学則第132条に定める金額

第2条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において「大学院在学期間延長者取扱内規」による在学期間延長者の学費は、次の通りとする。

1 在学科（毎年）

大学院学則第131条に定める金額の4分の3

2 施設設備費（毎年）

免除

3 実験実習費（毎年）

大学院学則第132条に定める金額

② 在学期間延長者が「学位の授与に関する内規」第3条第4項および第5項により年度途中の日をもって課程修了する場合の在学科は、その課程修了の日が第1学期末日までの者に限り前項に定める金額の2分の1に相当する額。

第3条 「大学院在学期間延長者取扱内規」第5条による研究生は、大学院学則第153条第2項に定める登録料を免除し、初年度に限り選考料を徴収しない。

附 則

第1条 この内規は、平成8年4月1日から施行する。

第2条 この内規の修士課程に係る本則第1条については、昭和59年4月1日から適用する。

第3条 この内規の後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に係る本則第2条および第3条については、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学または進学した者に適用する。

② 前項の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出期限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、塾長が決定する。

塾生、保護者・保証人の方々にかかわる個人情報の取扱い

- 1 義塾の学生・生徒・児童等の主な個人情報は、次のとおりです。
 - ① 塾生本人の氏名・住所・電話番号・生年月日・出身校等
 - ② 保護者・保証人の氏名・住所・電話番号(自宅および緊急連絡先)・本人との続柄等
 - ③ 塾生等の学籍・成績・健康診断・在学中のその他の活動履歴情報、寄付金・慶應カードの申し込みデータなど

- 2 個人情報を取り扱うに当たっては、あらかじめ利用目的を特定し、明示いたします。特定した利用目的以外には利用しません。また、利用目的を変更する場合は、本人に通知するか、義塾のホームページへの掲載、所定掲示板への掲示等により公表いたします。

- 3 個人情報は、以下の諸業務遂行のために利用します。
 - ① 入学手続および学事に関する管理、連絡および手続
 - ② 学生生活全般に関する管理、連絡および手続き
 - ③ 大学内の施設・設備利用に関する管理、連絡および手続
 - ④ 寄付金、維持会・慶應カードの募集等に関する書類発送およびその他の連絡
 - ⑤ 本人および保護者・保証人に送付する各種書類の発送
 - ⑥ 卒業後の刊行物の発送、評議員選挙および寄付金・維持会・慶應カードの募集等に関する各種書類送付とこれらに付随する事項

- 4 上記3の業務のうち、一部の業務を慶應義塾から当該業務の委託を受けた受託業者において行います。業務委託に当たり、受託業者に対して委託した業務を遂行するために必要となる範囲で、個人情報を提供することがあります。

- 5 三田会または同窓会から要請があったときは、当該三田会または同窓会に所属する者の個人情報を当該組織の活動に必要な範囲で提供することがあります。

- 6 慶應義塾は、上記3～5の利用目的の他には、特にお断りする場合を除いて個人情報を利用もしくは第三者への提供をいたしません。ただし、法律上開示すべき義務を負う場合や、塾生本人または第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を保護するために必要であると判断できる場合、その他緊急の必要があり個別の承諾を得ることができない場合には、例外的に第三者に個人情報を提供することがあります。

- 7 慶應義塾の個人情報保護に関する規程は、URL (<http://www.keio.ac.jp/kojinjoho/kojinjoho-toriatukai>) でご覧頂くことができます。

